

# 2018（平成30）年度 事業報告書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

2018年度事業報告目次

	ページ
法人	1
神戸聖隷歴史資料館	32
平生園	34
高齢者グループホームわらしべ	40
さくらの苑	47
恵生園	53
あったかプラザ	60
真生園	67
和生園	73
グループホームもみの木・かしの木	76
北但広域療育センター	80
エスポワールこじか	85
神戸聖生園	89
グループホームしおや	93
グループホームたいのはた東	97
	101
神戸愛生園	104
すま障害者地域生活支援センター	111
神戸聖隷総合相談センター	118
神戸友生園	121
神戸光生園	124
グループホームみなみたもん	127
グループホームふくだ	129
神戸明生園	136
ケアホームきたすま	143
神戸市立ワークセンターひょうご	149
神戸市障害者就労推進センター	156
神戸障害者就業・生活支援センター	160
障害者就職拡大推進事業	165
ひょうご障害者地域生活支援センター	172
神戸市発達障害者中部相談窓口	179
神戸市障害者基幹相談支援センター	186
神戸市立障がい者デイセンターひょうご	193
インクルージョンひょうご	200
アクシスひょうご	207
神戸市立自立センターひょうご	214
ワークセンターわかまつ	221
せいれいやさかだい	228
別表1（設備整備実績）	235

## 2018年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
理事長 水野 雄二

「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。」(マタイによる福音書 5:16)

### はじめに

「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。」という年間聖句の下、各施設に係るご利用者、ご家族、職員など多くの方々の「いのちの光」が輝く事業団でありたいと願い、2018年度の歩みを続けてきました。

2017年度は社会福祉法が改正され、すべての社会福祉法人にガバナンス体制の強化や事業の透明性向上、地域貢献への取組みなどが求められることになり、当年度も神戸聖隷福祉事業団では対応を図った一年でした。9月には神戸市による法改正後初めての行政監査が行われ、改正後の法人の在り様が精査に点検され、適正に運営されていることが確認されました。今後も将来の動向を見据えた法人運営を進めていきます。

大きな制度変更の中、神戸聖隷福祉事業団は2017年度より第3期中期計画を実行しています。当年度は第2年目となり、その真価が問われる時を迎えました。引き続き6つの中期事業目標に対応する部会（理念理解定着部会、職員育成推進部会、QOL推進部会、経営強化推進部会、地域貢献推進部会、人事・労務・危機管理推進部会）を中心に具体的な取組を進めました。各部によって進捗は異なりますが、概ね大きな方向性を違わない試みがなされ、当年度計画を実行しました。また、各施設においても、それぞれの中期計画を実行に移してきました。

国の福祉政策の要諦でもある地域共生社会の実現に向けた課題は、当法人における第3期中期計画においても大きな課題で、「地域貢献部会」の取組みだけでなく、各施設においても取組課題となりました。成年後見制度推進受付窓口の設置（但馬）や介護者の集いの実施などもその一環として行われました。また、但馬地区、神戸地区、それぞれに地域での新しい施設の開設が形になるようとしており、新年度に向け準備が進められました。

トピックスとしては、北但広域療育センターに但馬地区では初めてとなる「児童発達支援センター」を発足させ、従来事業を移行したこと。真生園においてロボットスーツ HAL が導入され、支援員の負担軽減を図ったこと。神戸地区において新たなバスによる送迎サービスが開始されたこと。進む高齢社会を背景に、障害者支援に「共生型通所介護（介護保険事業）」が開始されたことなど、新たな試みがなされました。

人口減少社会の中、福祉人材の確保の困難さが厳しさを増していますが、一年を通して採用計画の執行は例年になく難しさが感じられました。これからも新しい人材の採用、育成に向け、一層の努力と知恵が必要です。そのために、多くの職員が喜びをもって、働きやすい環境の下で業務を全うできるように、勤怠管理システム導入など環境整備を進めることができ、今後の成果が期待されます。

多様なご利用者お一人おひとりがその「いのちの光」を輝かせながら、多くの職員と共に、生きるしあわせを感じることができるよう、支援のクオリティを高める努力を継続していきます。

第3期中期計画の2か年度目として

中期事業目標① 社会福祉法人の使命を果たすため、固く理念に立ちます

理念理解定着部担当

水野 雄二

2017年度から活動を開始した理念理解定着部会は、法人の基本理念の浸透と定着を目標に事業を進め、2018年度も前年の事業継続を中心に、また新たな試みも交えて、更なる事業深化を図ることができました。特に、当年度も職員に向けて理念の神髄に触れる機会としての研修の場を多く設定しました。他法人から学ぶ理念研修として、1月に実施された浜松の聖隷グループでの研修に加えて、6月にはイエス団を訪問し、その理念を共有し、学ぶ機会を持つことができました。また、前年度法人初めての海外研修をタイ・チェンマイで行いましたが、当年度も更に研修内容を充実させたタイ研修を実施することができ、報告書をはじめ、数回の報告会の機会を得て、他の職員への共有を図ることができました。

また、2018年度に新たに理念講演会を実施することとし、阿部志郎氏を招いて11月に開催しました。他のキリスト教社会福祉法人とも協働して実施することができました。

法人理念を考え親しむツールとして発刊した「神戸聖隷ハンドブック」を各施設で有効活用をしていますが、活用アンケートを実施し、改訂作業を進めることとしています。

多くの職員が、この法人で働くことの意味を日常的に考えながら、その働きに喜びと誇りを感じることができるように、法人全体として理念浸透に向けてのアプローチを続けていきます。

1. 推進状況

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
所管常設委員会の設置と運用	①「理念理解定着部会」設置継続と運用	ア)「理念理解定着部会」として会議を開催 4/13、5/21、7/19、9/12、11/13、1/11、3/11に開催（7回）	◎
	②当事業目標達成のための方策検討と実施担当	ア)神戸聖隷歴史資料館プログラム担当（山根・稲津課長）で小会議を開催 イ)理念講演会実施に際し、共催のイエス団、神戸真生塾と準備会を実施（水野理事長、西郷・山本施設長担当） ウ)職員海外研修担当（山崎・中島課長）で研修企画・参加者募集・選考・事前研修を担当 エ)「基本理念ガイド」作成担当（西郷・山本施設長）で小会議を開催 オ)全般に水野理事長が関わり企画及び実施を担当	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
価値観と 出会う場 の提供	①基本理念の唱和の機会堅持（各施設）	ア)各施設と連動し、唱和を励行	○
	②年間聖句の選定と掲示（各施設）	ア)4月に2018年度掲示物を作成し、各施設での掲示	◎
	③神戸聖隷歴史資料館のプログラム提案	ア)12/1 オープンクリスマス会を開催し、神戸 YMCA ハンドベルグループの演奏とゲームを実施。地域の子どもたちなどが約30人参加。	◎
	④「職員の集い」の企画検討	ア)「職員の集い」に関してイエス団の実施について取材調査	◎
	⑤理念につながる講演会の開催	ア)阿部志郎氏講演会を他法人との共催で11/17に開催。約150名参加。	◎
キリスト 教福祉講 座の見直 し・理念 研修のあり 方検討	①理念研修の実施（キリスト教福祉講座・歴史資料館訪問を含む）	ア)職員育成推進部主管の研修会における理念研修の実施 イ)各施設における研修で理念研修を実施 ウ)但馬、神戸両地区においてキリスト教福祉講座を実施（9月～11月）	◎
	②キリスト教社会福祉事業の他施設見学実施	ア)2018年6月14日にイエス団を訪問研修、15名参加 イ)2019年1月28日29日に浜松の聖隷グループを訪問、12名参加	◎
	③職員の海外研修実施	ア)第2回海外研修をタイ・チェンマイで開催。11/23～29で実施、6名が参加 イ)3回の事前研修及び事後研修を実施	◎
	④指定管理施設での理念浸透の考え方発信	ア)部会にて指定管理施設での考え方を整理 イ)3月全体施設長会議にて共有	◎
「基本理念Q&A」冊子の改訂（再作成）	①「神戸聖隷ハンドブック」（2017年度作成）の活用促進	ア)7月全体施設長会議にて活用方法を説明 イ)改訂に向けて活用アンケートを実施	◎
その他	①協力牧師との懇談会開催	ア)小西、竹内、尾堂、吉川、松村牧師との懇談会を開催（10/29）	◎
	②職員報の作成（理念・ビジョンの共有化）	ア)2018年8月に第2号を発刊 イ)2019年3月に第3号を発刊	◎
	③理念グッズの制作	ア)法人マスコットキャラクター募集 イ)応募数少なく、次年度に延期	△

第3期中期計画の2か年度目として

中期事業目標② 福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

職員育成推進部担当

加藤 成久

福祉人材確保ではWeb 就活サイト、各種就職フェア・説明会に加えてインターンシップの実施準備をしましたが、エントリー者は増加せず 11 月まで職員採用試験は 3 回の実施に留まりました。その状況の中でも 12 名の新採用職員に恵まれました。現場の人材不足は解消されていません。2020・2021 年度の求人を見据えて目標を大きく構えて学生と出会う機会をより増やす工夫に取り組み、動き始めました。

内部階層別研修では、人事・労務・危機管理部と協働して主任副主任エキスパート全職員対象に、改正社会福祉法に関する学びを実施、課長研修ではハラスメント対策、危機管理を学び考える研修をそれぞれ次の管理職育成を意識して実施しました。一般職員研修では初級中級職員へ目的別研修を実施、中でも新規採用職員研修は、4 月に法人理念と対人援助基礎を学び、仲間を作り、後期にはフォローアップを実施し各職場に定着し、より豊かな職業人生を歩める研修となるようにしました。階層に捉われない研修は、「職場内コミュニケーション」「ビジネスマナー」「より良い職場づくり」研修を実施。また、全ての研修プログラムの中で、理念定着部との協働で理念定着プログラムを実施しました。

IT 活用については、Web 会議システム「Live On」を採用、購入に至りました。特に但馬一神戸間の会議・打合せ、時間や費用、事故リスクの軽減に繋がる選択ができます。11 月に新システムで全体施設長会を実施、部会議や打合わせで利用継続中です。会議システムのより良い環境整備に取り組みます。

社会福祉充実計画については、①自主的な外部研修参加費用助成は 16 名の利用完了②介護福祉士受験の実務者研修参加費用助成は 7 名の利用完了となり前年度を大きく上回る利用がありました。さらに利用数が増えるように啓発を継続します。

各事業を進めながら、福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場作りを目指します。

1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
「神戸聖隷」が求める職員像の明示と浸透	①「職員像の言語化」 (新人職員へ) ②職員募集資料等への活用と就職活動との連動	① ア) 若手職員同行の求人活動・OB、OG 同行の学校訪問、Web サイト作成 (10～3 月) ② ア) 次期募集要項・求人活動策定・マイナビ契約 イ) 就職フェアや学内就職説明会へ若手職員の参加実施 (10～3 月)	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
人事考課制度の継続と浸透（処遇反映研修）	①新研修体系の構築と研修台帳の整備 ②新体系に基づく研修の実施	① ア)2018 年度内部研修体系完成（4 月） イ)職員研修台帳 未整備 ② ア)各研修の実施（4～3 月）	① △ ② ○
福祉人材の確保と障害者雇用の推進	①内定者へのフォローアップ計画の検討と実施 ②就職活動の受入体制の強化	① ア)カーニバル・総合職員研修連絡（7～12 月） イ)次年内定者 7 名（内高卒者 2 名）（2 月末） ② ア)就職フェア・説明会（若手職員同行）（4～3 月） イ)学訪実施（OG、OB 同行）（4・5・6・9・2・3 月） ウ)採用試験実施（2 回応募無中止）（4～9 月） エ)冬季インターンシップ実施（2 名）（1～3 月）	△
人事考課制度に対応した研修体系の構築	①新研修体系の構築 ②新体系に基づく研修の実施（新採職員研修、フォローアップ研修、一般職員研修）	① ② ア)新採職員研修（2 泊 3 日）実施（4 月） イ)一般職研Ⅰ（組織員として）実施（6 月） ウ)中級一般職研Ⅱ（チームワーク）実施（10 月） エ)新採フォローアップ研修（1 泊 2 日）実施（10 月） オ)中級一般職研Ⅲ（チームリーダー）実施（12 月） カ)上級一般職研修（組織性）実施（1 月）	○
管理職の育成	①研修実施（主任・副主任研修、課長研修、施設長研修）と検証 ②人事・労務・危機管理部と協働でハラスメント・改正社会福祉法についての研修を実施	① ア)新副主任エキスパート研修実施（7 月） イ)主任副主任研修（事例検討）（5 月） ウ)主任副主任研修（OJT）（6・10 月） ② ア)課長研修：協働実施（9・11 月） イ)主任副主任エキスパート研修（8・9 月）	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
階層に捉われない総合的な人材育成	<p>①階層に捉われない法人職員にとって必要な研修の企画・運営と検証</p> <p>②理念理解定着部と共同で理念関係研修を組み入れ実施、</p>	<p>①</p> <p>ア)一般職員研修実施(コミュニケーション) (7月)</p> <p>イ)一般職員研修実施 (ビジネスマナー) (5月)</p> <p>ウ)一般職員研修実施 (職場創り) (11月)</p> <p>エ)総合職員研修実施 (2月)</p> <p>オ)研修毎に「女性活躍」啓発実施 (9～2月)</p> <p>②</p> <p>ア)理念プログラム各研修へ取入れ (4～2月)</p>	○
IT技術(ネット会議等)の導入	<p>①ネット会議利用環境の整備実施</p> <p>②ネット会議利用マニュアルの作成</p> <p>③ネット会議機器の業者決定と購入</p> <p>④ネット会議機器使用マニュアルの整備</p>	<p>① ② ③ ④</p> <p>ア)会議システムの変更 (4月)</p> <p>イ)Web 会議システム説明デモ実施(5～6月)</p> <p>ウ)Live On システムの検証実施 (6～8月)</p> <p>エ)Live On システムの購入について常任理事会へ議案提出実施 (6～9月)</p> <p>オ)Live On システム及び周辺機器購入 (10月)</p> <p>カ)全体施設長会議で初利用 (11月)</p> <p>キ)システム利用予約管理実施 (12月)</p> <p>ク)利用会議拡大、課題情報収集 (1～3月)</p>	○
IT関連企業への協力要請と活用			
①当法人に在籍の職員を対象に各種外部研修に参加する費用を補助する(No1)	<p>①各種外部研修のために38名の職員に費用補助を行う</p> <p>②50千円×38名=1,900千円</p>	<p>①</p> <p>ア)18名の応募受付内16名が年度内で修了</p> <p>イ)5月:4名、6月:1名、7月:1名、9月:1名、11月:3名、12月:4名、1月:1名、2月:1名、3月:2名</p> <p>②</p> <p>ア)16名の助成実施(2名は次年度修了予定)</p> <p>助成金合計 394,386円</p>	△



実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
②当法人に在籍の職員を対象に介護福祉士国家試験を受験するための実務者研修の受講費用を補助する(No2)	①10名に実務者研修の受講費用を補助する ②100千円×10名=1,000千円	① 7)8名の応募受付 8名全員研修修了 4)内7名が年度内で手続き完了 5)5月2名、6月:1名、7月:1名、12月:1名、2月:2名3月:1名 ② 7)7名の助成実施 助成金合計 700,000円	○

第3期中期計画の2か年度目として

中期事業目標③ ひとり一人のQOL（生活の質）を生涯にわたって支えます

QOL 推進部担当

種谷 啓太

QOL 推進部の実行計画は、2年目を終えそれぞれの項目で形となり企画から実施段階を迎えつつあります。最終年度は実施・運用をおこないます。

2年間のQOL 推進部の活動を通し、職員へのQOL 向上のための意識づけ、気づきを目指しましたが、利用者に正面から向き合う姿勢が足りていないのではないかと感じます。3年目での各実行計画への取り組みの中に利用者に向き合う姿勢を意識したいと思います。

①6項目の標準化マニュアルの作成を行い、法人内各施設での来年度6月までの各施設拠点のマニュアル作成依頼をしました。新虐待防止チェックリストは上下期の2回実施しました。法人内での虐待防止基準表・評価表の学習会は全施設で実施し、各施設での事例報告書を作成しました

②旧「接遇のしおり」をリニューアルし、新たに「接遇ハンドブック」を作成し12月に全職員に配布しました。顧客満足度調査は法人共通項目を含み全施設で実施しました。

③在宅サービス（ホームヘルプ、ガイドヘルプなど）の検討と法人内でのニーズ調査を実施しました。

④暮らしの場の確保として神戸地区の5か所にかかわるグループホームのバックアップセンターの構築は出来ませんでした

⑤各施設でのQOL委員（兼虐待防止推進委員）の設置はできていますが、運用方法についての規定は検討中です。

\*第3期中期計画最終年度につきまして、3年目に新たに施設での「高齢化」「看取り」について取り組みを始めます。また2年目から取り掛かりました事故・ヒヤリハット報告より、集計・分析・対策の検討継続を行います。

1. 推進状況

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
法人標準化マニュアル整備	①法人標準化マニュアルを食事・排泄などの項目に分け、下半期に各施設に作成を依頼	ア)入浴、食事、排泄、移乗、服薬、送迎の標準化マニュアルを作成し校正全施設にそれぞれのマニュアル作成を依頼しました(2月)	◎
第三者評価の受審継続	①法人として、受審サイクルを短縮するため7施設受審（平生園、さくらの苑、恵生園、神戸明生園、神戸聖生園、ひょうごデイサービスセンター、自立センターひょうご）	ア) 9/27 平生園、10/2 恵生園、10/4 神戸明生園、10/10 さくらの苑、11/2 自立センターひょうご、11/30 ひょうごデイサービスセンター、12/6 神戸聖生園受審 イ)受審施設に受審アンケート配布	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
虐待防止チェックリスト実施継続	①(新)チェックリストに更新して、年2回実施	ア)2018年度上半期、下半期2回新チェックリスト実施 上半期結果は集計し報告(12月)	◎
虐待防止判定基準表運用	①全施設より事例収集と2巡目の学習会実施	ア)6/13明生園、6/14真生園、7/17和生園、7/19聖生園・友生園、8/23愛生園・すま支援、8/28平生園、9/27ワークわかまつ、10/16恵生園・北但、10/18ひょうごデイ、11/15光生園、11/29こじか・わらしべ、12/15自立センター、1/17やさかだい、1/24さくらの苑で学習会実施(計18施設)	◎
接遇しおりのリニューアルと運用	①リニューアル作業継続し、12月発行予定	ア)接遇ハンドブック(名称変更)全職員に配布(12月)	◎
顧客満足度調査の実施	①共通項目を作成し、下半期全施設での顧客満足度調査実施	ア)全施設へ顧客満足度調査の中に、接遇・支援内容・環境・食事・情報提供・説明のアンケート項目を入れて調査実施依頼、これらの項目につき回答集計(2月)	△
福祉サービス利用ニーズ調査	①法人内ニーズ調査をアンケート方式で実施 ②福祉サービスの計画立案	① ア)法人内ニーズ調査は未実施 ② ア)居宅サービス事業展開について検討中	×
暮らしの場の確保	①障がい者グループホームの増設	ア)神戸地区は物件検討中 神戸友生園でのグループホーム南落合創設につき神戸市と協議、住民説明会実施 イ)但馬地区はさくらの苑隣接地へ創設のため県に設備整備補助申請、ヒアリングを受審(12月)	△
専門性の向上	QOLチームを各施設に設置 ①専門性について検討 ②OJTのチェック体制の構築 ③事故・ヒヤリハット報告への対応	① ア)QOL委員会実施要綱検討中 ② ア)OJTのチェック体制の構築は未実施 ③ ア)事故報告・ヒヤリハット報告を恵生園をモデルとして実施(2月)	×

第3期中期計画の2か年度目として

中期事業目標④ 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

経営強化推進部担当

西山 充

2018年度は介護保険0.54%、障害福祉サービス0.47%のプラス改定が行われました。

自然災害が多い年で、6月大阪北部地震、7月豪雨、8月・9月台風直撃による臨時休業の影響を受け利用率が落ち込みましたが、10月以降土曜・祝日稼働等のリカバー対策実施により、法人全体の給付費収入は年度目標値を約700万円（0.3%）上回ることが出来ました。

前年度より準備を進めてきた神戸地区独自の送迎サービス実現に向け、2台の専用マイクロバスを購入しました。プロポーザルによる運行業務委託業者決定後に共同で送迎ルートの検討を行い、添乗員が確保できた2月に待望のルート運行を開始することが出来ました。

介護用ロボット等先進福祉機器導入の取り組みとして、真生園にHAL、平生園にマッスルスーツを、また、呼吸・睡眠・離床状況等を24時間チェックする眠りスキャンを真生園・神戸明生園に整備し、安心・安全な利用者ケアの充実と職員の介護負担軽減を図りました。

2016年度から取り組んできた支援記録システムの整備拡充に関しては、神戸愛生園・神戸光生園に導入し法人内全入所施設への整備を完了しました。業務省力化に関する調査でシステム導入前に比べ月平均記録所要時間が10時間から6時間へと40%短縮したとの回答を得ました。

スケールメリットを活かし、通信販売を主とした消耗品購入業者、ガス供給会社と法人契約の締結、損害保険（自動車・火災）契約業者の見直しを行い、支出の効率化を図りました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
新たな顧客の開拓	<b>既存事業の稼働率向上 利用者延人数</b> <b>①年度目標値の達成</b> <b>②対前年1%増</b>	①②共通 ア)2018年度報酬改定に伴う加算追加取得等による増収・減収見込額調査を実施し、目標値を変更（12施設18事業）（4月） イ)目標値達成月次チェックを実施（毎月） ウ)達成状況が気になる施設・事業（5施設7事業）を抽出（6月）、 2施設に現地ヒアリング実施（8月）、 2施設にヒアリングシート配信（10月）	◎
	<b>新規事業等による事業 収入拡大</b> <b>給付費収入</b> <b>①年度目標値の達成</b> <b>②対前年1%増</b>	エ)中間決算ヒアリングシート等を作成し配信（9月） オ)中間決算ヒアリングにて上半期達成状況を確認（10月） カ)予算ヒアリングシート等を作成し配信（1月） キ)2019年度目標値（利用者延人数・給付費収入）入力シート配信（3月）	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
利用者にとって魅力ある施設づくり	<p>神戸地区で独自の送迎サービスの実施</p> <p>①車両購入（マイクロバス2台）、ルートバス試行（マイクロバス1台は補助金検討）</p>	<p>ア)送迎車両、運行業務委託業者、送迎システムのあり方について検討（4月）</p> <p>イ)運行業務実施業者に見積り依頼（5月）</p> <p>ウ)送迎車両の車種・仕様・入札業者など、理事会提出議案について確認（5月）</p> <p>エ)理事会にて車両入札業者選定及び予定価格決定、運行委託業者をプロポーザル方式で選定する件を承認（6月）</p> <p>オ)入札にて車両購入業者決定（7月）</p> <p>カ)プロポーザル審査会にて運行業務委託業者決定（9月）</p> <p>キ)ルート決定のための利用希望調査実施（10月）</p> <p>ク)送迎車両2台納車（11月）</p> <p>ケ)送迎ルート検討・決定（11～2月）</p> <p>コ)添乗員決定（4名）、試行運転後にルート運行開始、送迎マニュアル作成（2月）</p>	◎
	<p>アメニティー向上への取り組み</p> <p>①施設改修時にアメニティー向上への取り組みを推奨</p> <p>②wifi設置後のアンケート調査実施</p>	<p>①</p> <p>ア)施設整備状況再調査（取組み予定含む）実施（12月）</p> <p>イ)施設整備状況再調査結果配信（1月）</p> <p>②</p> <p>ア)WIFI設置状況再調査（整備状況、整備費用、使用状況、メリット・デメリット等）実施（5月）</p> <p>イ)中計実現会議にてwifi設置状況再調査結果報告、集計表配布（9月）</p>	◎
	<p>先進福祉機器の導入による利用者ケアの充実</p> <p>①介護用ロボット等試験導入（真生園）、該当施設へ拡大</p>	<p>ア)入札にて真生園介護用ロボット HAL 購入業者決定（4月）、HAL1台整備（5月）、使用に関する安全講習会実施（6～9月）</p> <p>イ)真生園眠りスキャン4台整備（8・1月）</p> <p>ウ)真生園シャワーバス含む 2019年度浴室改修工事内容・補助金検討（5～10月）</p> <p>エ)2019年度整備予定施設の調査実施（1月）</p> <p>オ)神戸明生園眠りスキャン2台整備（1月）</p> <p>カ)平生園マッスルスーツ3台整備（2月）</p>	◎
計画的な積立金の計上	<p>予算ヒアリング時において地区毎の目標額を計上する</p> <p>①積立目標額 1.8 億円</p>	<p>ア)当初予算の積立金計上額 1.22 億円（但馬地区 0.63 億円、神戸地区 0.59 億円）</p> <p>イ)3月最終補正積立見込額 2.66 億円（但馬地区 1.34 億円、神戸地区 1.32 億円）</p>	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
システム（障害者支援等）の法人内統合による支出の効率化	<p>支援記録システムの整備拡充を図ると共に、個別ケア向上のための具体的活用に取り組む</p> <p>①支援記録システム整備（神戸愛生園・神戸光生園）</p> <p>②支援記録システムの運用・活用</p>	<p>①</p> <p>ア) 神戸愛生園クライアント追加、パソコン追加・更新（5月）、操作説明会実施（5～8月）、仮運用開始（12月）、本格稼働（2月）</p> <p>イ) 神戸光生園帳票検討・決定（4～5月）、クライアント追加（7月）、操作説明会実施（8月）、仮運用開始（9月）、本格稼働（11月）</p> <p>ウ) 2019年度整備予定施設の調査実施（1月）</p> <p>②</p> <p>ア) 第1回クラウド化したシステム活用推進学習会開催に向けた調査実施（5～6月）、システム活用推進学習会を但馬・神戸で各1回開催（7月）</p> <p>イ) 第2回クラウド化したシステム活用推進学習会開催に向けた調査実施（11月）、支援記録システム活用推進責任者会議開催（12月）、システム活用推進学習会を介護保険施設・障害福祉施設に分け、但馬・神戸で3回開催（2月）</p> <p>ウ) 支援記録システム導入による業務省力化、今後の活用に関する調査を人・労・危機管理推進部と合同で実施（4～9月）、中計実現会議にて業務省力化、今後の活用に関する調査結果報告（9月・12月）</p>	○
	<p>法人内ネットワークのより効率的な運用</p> <p>①財務会計システムの運用</p>	<p>ア) 財務会計システムのバージョンアップに関する説明会を但馬・神戸で各1回開催（5月・6月）</p> <p>イ) 財務会計システム ver5 から ver6 へのバージョンアップ実施（7月）</p>	◎
法人一括契約等による支出の効率化	<p>消耗品購入</p> <p>①法人契約を締結した上での消耗品（通信販売）の購入</p>	<p>ア) 通信販売による消耗品購入に関し、大塚商会と法人契約締結（4月）</p> <p>イ) 事務担当者を対象に通信販売購入手続きに関する業者説明会を但馬・神戸で各1回開催（4月・5月）</p> <p>ウ) 大塚商会への事業所登録完了事業所より順次購入開始（6月）</p>	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
法人一括契約等による支出の効率化	施設賠償保険 ①検討・実施	ア) 契約保険会社・代理店、保険種類、年間保険料について調査実施（6月） イ) 長年の信頼に成り立つ関係性構築の困難さから、取り組みを中止（10月）	△
	損害保険（自動車、火災） ①検討・実施	ア) 自動車保険契約先を三井住友海上火災保険に変更（4月） イ) 火災保険を損保ジャパンと法人包括契約へ切換え（4月） ウ) 2019年度自動車保険契約先を東京海上自動火災保険会社（代理店：日通商事株式会社）に変更する旨提案・承認（3月）	◎
	燃料費 ①検討・実施	ア) 全拠点区分に直近のガソリン・軽油単価調査実施（8月） イ) 3業者（オリックス自動車㈱、SMFLキャピタル㈱、イチネン㈱）からガソリンカードの提案説明（8～9月） ウ) ガソリンカード導入に関する比較検討結果を常任理事会に提案、要再検討（11月） エ) ガソリン単価上昇時・下落時把握のため、調査対象期間を4～9月に拡大（12月） オ) 2019年度に実施予定	○
	携帯電話 ①検討・実施	ア) 未着手 イ) 2019年度に実施予定	×
	ガス代 ①検討・実施	ア) 関西電力よりガス供給の提案説明（4月） イ) 関西電力と法人包括契約締結（5月） ウ) 関西電力より供給開始（6月1日～5年間） 年間メリット見込約420万円（約20%）	◎

第3期中期計画の2か年度目として

中期事業目標③ 安心して暮らせる地域の実現に尽くします

地域貢献推進部担当

有川 洋司

今年度はホームページについてタイムリーな情報発信と各施設の活動のより詳しい広報に向けて施設ごとに担当者を選任し、担当者を中心に施設のページについて新たに作成・編集を行い、リニューアルしました。また、但馬地区において家族介護者を対象とした「せいい介護者のつどい」を8月から計4回開催し、認知症の勉強会や3B体操、ミニコンサート等により家族介護者のリフレッシュと相互の交流を図りました。

地域のセーフティネットとしての福祉避難所の体制整備にむけ各区のほっとかへんネットが開催する研修会や基幹福祉避難所の開設訓練の見学などに積極的に参加しました。備蓄品の整備については各施設の備蓄状況の調査に留まり、購入・整備には至りませんでした。災害時の受け入れマニュアル作成については神戸市より提示される予定のひな型を参考に来年度早急に作成することとします。

「友が丘総合事業計画」については、建設に関わる敷地内での是正すべき課題への対応などにより着工予定が大幅に遅れてしまいましたが、来年度秋の着工、2020年度12月の完成を目指します。

1. 推進状況

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
施設見学を希望される方に対して、最寄りの駅や停留所から施設までの送迎を実施。見学者のニーズを把握して記録し、法人全体で情報を共有する	① ホームページを活用した広報活動	ア) リニューアル後のホームページにて広報開始（9月）	○
	② 施設見学マニュアルの運用開始	ア) マニュアル案未配信	△
	③ 送迎などを含めたシステムづくりの検討	ア) 但馬地区を中心に検討したが、現行の連携体制にて対応可能と判断し新たなシステムづくりについては取り下げ	×



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域との連携・ネットワークへ積極的に参画	①社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット)等既存のネットワークに積極的参加	ア)神戸地区を中心に各施設が加入している「ほっとかへんネット」の取り組みに各施設が参加 イ)但馬地区について朝来市は未設立。豊岡市は2月に設立。北但広域療育センターが参加 ウ)その他「自立支援協議会」等、既存のネットワークに参加	○
	②上記活動などへの施設との連携体制について検討	ア)既存のネットワークへの参加については施設ごとの動きとなっていて、部会としての連携体制について検討するも具体的な結論には至らず	×
行政と連携し、福祉避難所への備え等、地域住民の安全・安心な生活確保に向けた取り組みの実施	①福祉避難所の体制整備(緊急物資、備蓄品等の整備)	ア)福祉避難所について但馬地区竹田地域の施設は全施設朝来市との協定締結済み。神戸地区は従来の2施設に加え新たに2施設が加入 イ)各施設の備蓄状況についての調査実施 ウ)福祉避難所として必要な備蓄品についてリストアップ(但馬地区)	○
	②災害時の受け入れマニュアルの作成	ア)基幹福祉避難所開設訓練見学(7,8月) イ)マニュアル作成については神戸市が作成予定のひな型を参考にすることとし、その提供待ち ウ)災害発生時の対応等に関する研修会参加	△
介護予防のための体操教室や低料金のカフェなどを出店し、地域住民に開放するスペースを提供	①あったかプラザを活用した家族介護者交流事業の実施(年6回)	ア)「せいいい介護者のつどい」開催(8,11,1,3月)	◎
	②さくらの苑を活用した介護予防のための体操実施	ア)近隣地区老人会との交流会で実施(6月) イ)近隣地区老人会が実施するいきいき百歳体操のため毎週火曜日さくらの苑多目的室を開放	◎
	③ワークセンターわかまつのカフェ出店のための物件確保	ア)ワークセンターわかまつにおいてカフェプロジェクト会議開催 イ)新長田地域において物件確保 ウ)出店計画について理事会上程・承認	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
友が丘での高齢者や障害者、子ども地域住民等の共生の場づくり	①友が丘総合事業会議の開催	ア)友が丘4施設長と黒田建築設計事務所の設計担当者による月1回の定例会を開催 横田評議員がアドバイザーとして参加	◎
	②建築プラン確定	ア)開発協議の必要性についての確認や敷地内の既存未申請建築物の是正対応についての協議などに時間を要したため、年度末に建築プランの概要について確定	○
	③工事着工	ア)②の影響により着工が大幅に遅れ、2019年度9月下旬に着工予定	×
児童・障害・高齢の一体的な相談支援を担う人材を育成	①育成プログラム(案)の運用方法の検討	ア)育成プログラム(案)を作成 イ)運用方法について検討	○
	②研修カリキュラム(案)の内容検討	ア)研修カリキュラム(案)を検討	△
神戸聖隷総合相談センターの体制拡充	①体制拡充にむけた計画検討	ア)職員会議にて検討	△
	②現スタッフの育成研修	ア)外部講師を招き、人権理解のための研修実施(7月)	○
委託相談支援事業(ひょうご・すま)の継続受託	①事業継続	ア)事業継続	◎
地域の社会福祉と援助ニーズにたいする公益的・包括的取り組みの実施(地域課題を踏まえた障害者の職場づくり)	①民生委員との定期的な情報共有	ア)さくらの苑、わらしべの運営推進会議にて実施(5,9,11,1,3月)	◎
	②さくらの苑居宅介護支援事業所を拠点として地域住民への困り事への対応(独居高齢者の安否確認などを含む)	ア)竹田新町区について地元老人会を通じ、情報収集実施(8月) イ)さくらの苑にて調査方法の内容検討 ウ)いきいき百歳体操実施時に情報共有	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
成年後見制度推進窓口の設置	①成年後見制度推進受付窓口の設置（但馬）	ア) 神戸聖隷歴史資料館内によろず相談窓口を開設（6月）	○
	②地域住民向けの講演会の開催（両地区）	ア) 成年後見制度研修会開催 神戸地区（12月）但馬地区（3月）	◎
利用調整機関（居宅介護支援事業所・障害者地域生活支援センター等）への情報発信を強化	①各相談支援事業所等へ定期的に巡回訪問継続	ア) （但馬地区）朝来市内居宅介護支援事業所等を毎月訪問	◎
	②ホームページを活用した情報発信	ア) 空き情報のレイアウト等について検討。ホームページでの公開については来年度に延期	△
ホームページを定期的に更新することをルール化する。また、機関紙については各事業所で定期的に発行	①ホームページのリニューアル	ア) リニューアル後のホームページを一斉公開（9月）	◎
	②各施設で定期的な更新のための体制整備（ルール作成・担当者の選出・説明会開催・運用後のフォロー）	ア) 運用要領の作成・用語の統一・各施設の担当者の選出・業者による説明会等実施	△
新聞社・ケーブルテレビ等、マスコミに積極的に情報提供	①各施設のイベント等についての情報発信	ア) 情報発信の取り組みについては成果なし	△
	②各施設のイベント関連計画の情報収集	ア) 各施設が計画しているイベントについて情報収集実施	○
法人広報委員会の設置	①広報担当委員の選定	ア) ホームページ担当の広報委員を選定（7月）	◎
	②委員会の定期開催	ア) ホームページ担当広報委員会開催（7, 1, 3月）	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
ボランティアの受け入れから育成までのシステムを確立	① ボランティア受け入れマニュアルの運用開始	ア) マニュアル未配信	×
	② ボランティア育成のための取組みの検討	ア) 高等学校等へボランティア募集について協力要請実施 イ) 兵庫区ボランティアセンターとの連携により実践的取り組み内容の情報収集	△

第3期中期計画の2か年度目として

## 中期事業目標⑥ 働きやすく誇りを感じられるカンパニー（共同体）へ

人事・労務・危機管理推進部担当

吉田 和夫

活躍に応える人事評価制度の実現のため、人事考課のうち共通要素並びに専門要素の評価結果を、昇格・昇任に反映し、目標達成度評価結果を期末賞与に反映することについては、予定通り本年度から実行することができました。まだ不十分なところがありますが、評価結果の公正性を確保するために施設長による地区別評価審議会を開催するとともに、評価傾向の地域間格差を平準化するため、当推進部の担当者がそれぞれ他地区の地区別評価審議会に出席し、意見表明を行うとともに自地区の評価の見直しも行いました。また、人事考課表のアップグレードに配慮して取り組みました。

社会福祉充実残額を活用した賃金制度の改良に関する三つの目標のうち、時間外手当が支給されない課長の、管理・監督者としての待遇の不利を改善すべく手当の増額を目指しましたが、課長それぞれで時間外勤務時間に大きな格差があり、一律の課長手当の増額では、実態をカバー出来ないことが明白で新たな仕組みを構築できませんでした。また、正規職員のベースアップについては一定額を上げることを考えたものの、しっかりとした狙いを定められず頓挫しました。また非正規職員の賃金の改善については、働き方関連法に基づく国の「均等処遇」の考え方が明確に掴めなかったことから、仕組みづくりを2019年度に延期しました。

次に、働き方改革の一步目の時間外労働時間縮減は、本年度4月以降、総時間、月間10時間超の職員数、20時間超の職員数とも遡減しています。また2017年度で取得率57.9%の年次有給休暇についても年度末累計63.7%を達成しました。しかし、どちらも人による格差が大きく、時間外勤務では依然として特定の事務員や特定の施設のリーダー級支援担当者が特に長くなりがちのため今後も指導します。指導には、ワークライフバランスの重要性を理解させるとともに、組織を挙げた取り組み方に工夫が必要ですが、その指導者的な役割を担うために、当部会のメンバー2名がWLBコンサルタント資格（民間）を取得しました。

公共の福祉を担う社会福祉法人には、今日、高いコンプライアンス性が求められています。今年度の法人内階層別研修では、時代の変化に合わせた意識変革として、社会福祉法人改革を経て認識した経営層の課題意識を、主任・副主任へも伝える機会を得ました。また課長層が危機管理に主体性を発揮できるように、過去事例をもとにして、主体的な危機管理姿勢を持ってくれるように訴えることができました。

ただ、私たちがご利用者の期待に対して本当に寄り添えているのだろうかと思わざるを得ない事態が継続的に発生してしまい、経営者層にこそ適時適切な対応力が不足していること、そして、社会的な存在として承認されるように意識して、理念理解定着部会（職員への広報）、職員育成推進部（研修）、QOL推進部（虐待防止・コンプライアンス）、経営強化推進部（生産性）、地域貢献推進部（社会貢献）と協調して、歩まねばならないと痛感しました。

1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>公平な人事評価を実現し、処遇に反映する道をひらく</p>	<p>①人事考課規程の改訂と評価項目の検証            ②目標達成度を期末手当へ反映するルール作り            ③昇格、昇任、降任等への評価連動の納得性向上            ④処遇改善手当の適正な支給</p>	<p>①            ア) 専門要素評価表（課長職、主任・副主任職、看護職、調理職、エキスパート）を見直し確定（9月）            イ) 人事考課規程の改訂案を検討し確定（9月）            ②            ア) 全正規職員の期末手当支給シミュレーションを実施し確定（1月）            ③            ア) 地区別評価審議会により、ばらつきを是正（1月）            ④            ア) 2017 年度の入所施設の処遇改善手当・夜勤手当の支給結果を検証（6・7月）</p>	<p>○</p>
<p>ひとり一人の職員が目標をもって働く仕組みを確立する</p>	<p>①一般職の目標管理を2項目として実施            ②評価者研修の実施            ③達成度評価結果の分析による評価基準の検討</p>	<p>①            ア) 目標設定評価会を開催し、全施設の評価時到達点を決定（4月）            ②            ア) 「2018 年度目標達成評価目標設定時のチェックポイント」をメール配信（4月）            イ) 新副主任・エキスパート研修にて評価者研修を実施（7月）            ③            ア) 2017 年度の課長評価結果を検証（4月）            イ) 2018 年度の課長評価結果を地区別評価審議会で検証（1月）</p>	<p>○</p>
<p>臨時職員及びパート職員の賃金単価の改善</p>	<p>①現状評価・分析、新制度検討            ⇒制度化の諸手続き</p>	<p>ア) データ整理</p>	<p>△</p>

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
正規職員に給与表のベースアップを実施する	①現状評価・分析、新制度検討 ⇒制度化の諸手続き	ア) データ整理	△
課長職手当の創設	①制度設計⇒制度周知	ア) 過去1年間の課長の勤務状況を集計し分析	△
時間外労働の改善、有給休暇利用促進に向けて取り組む	①仕事見直し術（仮）冊子の作成	ア) 仕事見直し術冊子は 2019 年度に持ち越し	×
	②満足度調査の実施	ア) 満足度調査を 12 月に実施準備	○
	③WLB コンサルタント資格の取得	ア) WLB コンサルタント資格を部会メンバー2名取得	◎
	④管理職研修会開催	ア) 未実施	×
時間外労働の改善、有給休暇利用促進に向けて取り組む	①時間外労働の正しい実態を把握 ②時間外労働長時間職員の実態管理	① ア) 時間外労働状況実態把握を月次実施 ② ア) 期中監査にてヒアリングを実施	○
	③有給休暇取得実績分析 ④2018年度60%取得を目指す取組み	③ ア) 有給休暇取得状況把握を月次実施 ④ ア) 前年度取得5日未満者に対しプラス1日取得推進文書配信	○
支援記録等のITシステムによる効率化による生産性向上	①支援現場に導入したITシステムの効果検証	ア) 経営強化推進部と共同で支援記録システム導入効果検証実施	○
	②勤怠管理システムの導入	ア) 勤怠管理システム業者選考実施、プロポーザルにより業者決定（12月） イ) 勤怠管理システム導入へ向けた接続環境整備、勤務コード作成の実施（1～3月）	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
問題発生 の感知機 能の強化 と常任理 事会の対 応能力の 強化を図 る	①コンプライアンスメンバーリス トに役割を明示	ア)2018 年 4 月 1 日付で 2018 年度 コンプライアンス体制表（役割 明示）を配布	◎
	②課長層を中心とした実践的な ハラスメント研修を企画する	ア) 運営上の危機発生時を想定し た初動の在り方の研修を開催 （11 月）	◎
	③主任研修で社会福祉法人の使 命を伝える	ア) 社会福祉法人制度改革講義を 実施（8～9 月・職員育成推進部 会主催）	◎
コンプラ イアンス 対応のデ ータ化を 行う	①事例分析ツールを部会で考案 し、当事施設と協力して分析 を実施する	ア) 事例と分析フォームを確定	○
	②公開指針の検討と公開フォー ム（情報量）試作・試行・検 証	ア) 公開を検討したが、慎重な姿勢 が求められた	×



## 2. 主な式典

### (1) 辞令交付式

2018年4月2日(水)10:00から舞子ビラ神戸・六甲の間にて、新採用職員19名(うち登用者8名)、昇任者11名、異動(課長以上、理事含む)2名に辞令を交付しました。開会礼拝では、神戸愛生伝道所竹内富久恵牧師のメッセージ、お祈り、祝祷をいただきました。

### (2) 創業43年記念式典

2018年6月22日(金)10:00から舞子ビラ神戸舞子の間にて記念式典を開催することができました。記念礼拝では和田山地の塩伝道所小西直人牧師から「失われた種」のメッセージをいただきました。永眠者追悼式では2017年4月2日から2018年4月1日までに召天された54名に哀悼の意を表すことができました。

表彰では、勤続10年13名、20年9名、勤続30年2名、勤続40年1名に賞状と記念品を授与しました。またボランティア活動への感謝状を4名の方々に贈呈しました。

懇親会では、神戸友生園ご利用者青木新さんのミニコンサートで「世界中の子どもたちが」と「オワリのはじまり」の熱唱を聞かせていただき感激しました。

## 3. 主要会議

### (1) 評議員会

#### ア) 第126回定時評議員会(2018年6月16日開催)

- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③社会福祉充実計画の承認(変更)の件、④役員及び評議員会の報酬等に関する規程表の一部改訂の件

(報告①)2017年度事業報告の件、(報告②)2017年度計算関係書類及び財産目録の内容の報告の件、(報告③)2017年度の事業報告並びに計算関係書類に関する監事監査結果の報告の件、(報告④)2018年度会計監査人による監査計画等の件

#### イ) 第127回評議員会(2019年1月19日開催)

- ①議長選任の件(定款施行細則第3条要件)、②議事録署名人選任の件(定款第14条2項要件)、③地域生活支援事業を定款に掲載することによる定款一部変更の件(決議留保)
- (報告①)2018年度の上期事業推進状況報告の件

### (2) 理事会

#### ア) 第192回理事会(2018年4月3日開催)

- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2018年度改修工事(恵生園・真生園屋上防水)の入札参加業者選定の件、④2018年度改修工事(恵生園・真生園屋上防水)の予定価額決定の件、⑤真生園ナースコール設備更新工事の予定価額決定の件、⑥真生園ロボットスーツ HAL 整備事業に係る指名競争入札業者選定の件、⑦真生園ロボットスーツ HAL 整備に係る予定価格決定の件

#### イ) 第193回理事会(2018年6月1日開催)

- ①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2017年度事業報告(案)の承認の件、④2017年度事業報告等に係る監事監査結果の承認の件、⑤2017年度計算関係書類及び財産目録の承認の件、⑥2017年度計算関係書類に係る監事監査結果の承認の件、⑦社会福祉充実計画の件(定時評議員会議案)、⑧役員及び評議員の報酬等に関する規程別表の一部

改訂に係る議案を評議員会に付議する件、⑨定時評議員会の招集事項の決定の件、⑩事業用土地取得の件、⑪放課後等デイサービス・障害者グループホーム新事業化及び補助金申請の件、⑫神戸地区送迎システムの構築の件、⑬但馬よろず福祉相談所開設の件業務執行理事の選定の件

(報告①) 財務辞令発令について、(報告②) 寄付金受入れ報告、(報告③) 役員賠償責任保険加入の件、(報告④) 2017年度第三者評価受審報告、(報告⑤) 2017年度虐待防止取組報告、(報告⑥) 入札結果報告(①恵生園・真生園屋上防水、②真生園ナースコール、③同ロボットスーツ)

ウ) 第194回理事会(2018年6月16日開催)

①議長選任の件(定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案)、②議事録署名人選任の件(定款第28条1項要件)、③2018年度神戸愛生園寮・神戸友生園、神戸明生園改修工事の入札参加資格及び公告の内容並びに入札要項書の承認の件、④就労定着支援事業申請の件(和生園・神戸光生園)

(報告①) 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況報告

エ) 第195回理事会(2018年7月9日開催)

①議長選任の件(定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案)、②議事録署名人選任の件(定款第28条1項要件)、③2018年度改修工事(神戸愛生園友が丘寮・神戸友生園、神戸明生園)入札参加業者及び予定価格の件、④神戸地区送迎システム用マイクロバス購入の入札業者選定の件、⑤神戸地区送迎システム運行事業委託業者選定の件、⑥神戸愛生園送迎用車両購入に係る業者選定の件

オ) 第196回理事会(2018年9月10日開催)

①議長選任の件(定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案)、②議事録署名人選任の件(定款第28条1項要件)、③共生型通所介護事業指定申請(自立センターひょうご他)の件、④神戸地区送迎システム運行委託業者審査会の選考委員及び審査基準、並びに選考結果承認の件、⑤平生園座位式特殊浴槽更新工事の氏名競争入札業者選定の件、⑥神戸市日中一時支援(日帰り利用)事業の事業指定申請、⑦準職員(臨時職員・パート職員)給与一覧表改定の件、⑧虐待防止規程別紙(4)及び(5)虐待防止チェックリストの改訂の件

(報告①) 2018年度第2回理事の業務執行状況報告、(報告②) 平成29年度障害福祉サービス事業運営実地調査並びに神戸市指導監査で指摘等のあった事柄の改善状況報告書(神戸聖生園・神戸愛生園・神戸友生園)、(報告③) 入札結果(①2018年度改修工事・神戸地区、②神戸地区送迎システム用マイクロバス購入、③神戸愛生園送迎車両購入)

(相談) 2018年度監事期中監査の実施の件

カ) 第197回理事会(2018年11月20日開催)

①議長選任の件(定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案)、②議事録署名人選任の件(定款第28条2項要件)、③地域生活支援事業を定款に掲載することを第127回評議員会に諮る件、④経理規程の一部改訂の件、⑤人事考課規程一部改訂の件、⑥エスポワールこじかの指定管理申請の件、⑦市営住宅を活用した障害者グループホームの設置の件、⑧「グループホームしおや」の移転の件、⑨恵生園で実施中の行政指定ゴミ袋製造事業所を和生園へ移行する件、⑩職員勤怠管理システムの導入の件、⑪社会福祉充実計画No.20による用地買収着手の件

(報告①) 2018年度上期事業報告兼第3回理事の業務執行状況報告、(報告②) 2018年

度中間決算報告、(報告③)平生園座位式特殊浴槽更新工事指名競争入札結果報告

キ) 第 198 回理事会 (2019 年 1 月 19 日開催)

①議長選任の件 (定款施行細則第 11 条要件、同第 13 条 2 項勘案)、②議事録署名人選任の件 (定款第 28 条 2 項要件)、③グループホームしおやの移転に伴う建て貸し方式の契約と事業計画 (案) 及び予算 (案) の件

(報告①) 理事の業務執行状況報告、(報告②) エスポワールこじかの指定管理者の指定に関する件

ク) 第 199 回理事会 (2019 年 3 月 23 日開催)

①議長選任の件 (定款施行細則第 11 条要件、同第 13 条 2 項勘案)、23 議事録署名人選任の件 (定款第 28 条 2 項要件)、③2018 年度第 1 次補正予算案の件、④就業規則の一部改訂 (有給休暇時季指定制度) の件、⑤神戸市社協からの障害者支援センター事業への協力要請の件、⑥2019 年度施設長人事案の件、⑦2019 年度事業計画案の件、⑧2019 年度予算案の件、⑨社会福祉充実計画 2019 年度事業の件、⑩2019 年度施設整備計画の件 (①恵生園 (外壁改修・消防設備・外構工事)、②真生園 (浴室改修工事[車両競技公益財団補助]・特殊浴槽整備)、③和生園 (製袋機作業場改修工事)、④神戸光生園 (内装改修工事・電気設備工事)、⑤GH 南落合 (市営住宅整備工事)、⑥神戸明生園 (新館外壁改修[神戸市補助]・防水改修)、⑦恵生園・真生園の非常用自家発電設備更新工事の入札業者選定ほかの件、⑧ワークセンターわかまつによる新長田南地区でのカフェ出店の件、⑨2019 年度役員賠償責任保険加入の件

(報告①) 2018 年度期中監事監査報告、(報告②) 2019 年度主要会議開催予定について、(報告③) 2018 年度第 4 回理事の業務執行状況報告

### (3) 第 3 期中期計画実現会議

ア) 第 5 回実現会議 (2018 年 6 月 28 日開催)

①推進部 4~6 月推進状況報告 (理念・職員育成・QOL・経営強化・地域貢献・人事労務危機管理)、②施設 4~6 月推進状況報告 (真生園・平生園・北但広域療育センター・神戸聖生園・神戸愛生園・自立センターひょうご)、③協議

イ) 第 6 回実現会議 (2018 年 9 月 28 日開催)

①施設 7~9 月推進状況報告 (和生園・さくらの苑・わらしべ・神戸光生園・神戸明生園・ワークセンターひょうご)、②推進部 7~9 月推進状況報告 (理念・職員育成・QOL・経営強化・地域貢献・人事労務危機管理)、③協議

ウ) 第 7 回実現会議 (2018 年 12 月 26 日開催)

①施設実現報告 (恵生園、神戸友生園、ひょうごデイサービスセンター、ワークセンターわかまつ)、②勤怠管理システム導入について、③推進部月実現報告 (理念・理念・職員育成・QOL・経営強化・地域貢献・人事労務危機管理)、④協議

エ) 第 8 回実現会議 (2019 年 3 月 19 日開催)

①施設実現報告 (真生園、さくらの苑、神戸愛生園、神戸明生園)、②推進部実現報告 (理念・理念・職員育成・QOL・経営強化・地域貢献・人事労務危機管理)、③協議

#### 4. 成年後見制度活用推進

##### (1) 成年後見制度活用推進状況

2018年度 神戸聖隷福祉事業団 成年後見制度推進活動実績調査																	
【神戸地区】																	
事業所名	2018年3月31日の状況						各事業所の実態（今見えている状況）						2018年3月				
	利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2019年3月31日の状況						2018年4月～2019年3月に後見等が終了した人数	成年後見の必要性（職員見立て）			
							利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計		制度活用の必要性がある方	特に緊急性を要する人		
1 神戸聖生園（GH含む）	78	2(2)	0	0	0	2(2)	79	2(2)	0	0	0	2(2)	0	3	3		
2 せいれいやさかだい	42	5	0	0	0	5	40	5	1	0	0	6	0	4	2		
3 神戸愛生園	48	13	0	0	4	17	50	16	0	0	4	20	0	14	14		
4 神戸友生園	42	1	0	0	1	2	43	1	0	0	0	1	1	9	1		
5 神戸光生園（GH含む）	100	6	1	0	0	7	101	8	1	0	0	9	0	8	3		
6 神戸明生園（GH含む）	83	20	0	0	0	20	83	22	0	0	0	22	0	8	5		
7 ワークセンターひょうご	19	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0		
8 自立センターひょうご	65	5	1	0	0	6	64	5	1	0	0	6	0	8	3		
9 ようごデイサービスセンター	111	5	3	0	0	8	97	4	3	0	0	7	0	7	2		
10 ワークセンターわかまつ	35	0	0	0	0	0	35	1	0	1	0	2	0	4	1		
11 すま障害者地域生活支援センター	896	12	2	1	0	15	871	14	7	1	1	23	1	16	1		
12 神戸聖隷総合相談センター	/	/	/	/	/	/	274	4	2	1	0	7	0	4	2		
13 ひょうご障害者地域生活支援センター	768	2	3	4	0	9	767	2	4	5	0	11	2	1	0		

【但馬地区】																	
事業所名	2018年3月31日の状況						各事業所の実態（今見えている状況）						2018年3月				
	利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計	2019年3月31日の状況						2018年4月～2019年3月に後見等が終了した人数	成年後見の必要性（職員見立て）			
							利用者登録数	後見	保佐	補助	任意後見	合計		制度活用の必要性がある方	特に緊急性を要する人		
13 恵生園	62	7	5		3	15	62	9	5		3	17	0	12	2		
14 真生園	59	6	0	0	0	6	59	8	0	0	0	8	0	0	8		
15 和生園（GH含む）	49	0	0	0	0		49	0	0	1	0		1	10	4		
16 平生園	60	3	0	0	0	3	57	4	0	0	0	4	0	0	0		
17 さくらの苑	172	1	0	1	0	2	174	1	0	0	0	1	0	2	0		
18 グループホームわらしべ	18	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0		
19 北但広域療育センター	12	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計	1,951	84	12	2	8	106	1,911	98	18	3	8	126	3	105	49		

- 制度活用の必要性のある方とは
- ①ご本人の判断能力が不十分で下記の状況にある方
    - ・擁護者（親、兄弟、子等）或いは周囲から権利侵害を受けている
    - ・親の判断能力が低下している、或いは高齢・病気がち等で且つ兄弟・姉妹がいない或いは疎遠
  - ②ご本人が必要と思っておられる方
- 緊急性を要するとは
- 直ちに制度活用しなければ権利侵害に至る可能性が高い方

##### (2) 活用推進委員会活動状況

ア) みまもり通信第19号発行（10月）

イ) 成年後見制度に関するアンケート実施

高齢者施設向けと障害者施設向けのアンケートを作成し、高齢は6月、障害は7月実施。

高齢者向けアンケートについては集計完了。障害者向けアンケートについては現在集計中。

#### ウ) 研修会開催

今年度は、基礎研修・実務研修との枠組みにとらわれず、成年後見制度をより詳しく知ってもらうことを目的に、但馬地区、神戸地区で各1回ずつ研修会を実施予定。

##### ①但馬地区成年後見制度基礎研修「障がい者への成年後見活動」

2019年3月8日(金)・さくらの苑/地域交流スペース

(講師) 特定非営利活動法人成年後見・こうべかぞくねっと・きずな代表理事高野國昭氏

##### ②神戸地区「わかりやすい成年後見制度研修会」

2018年12月6日(木)・中部在宅障害者福祉センター

(講師) 神戸明生園、自立センターひょうご家族、

馬場法務事務所行政書士・社会福祉士馬場敏彰氏

## 5. 出来した事案

2018年度に出来した法人本部が危機管理上関与すべき事柄は以下の通りでした。

### (1) 虐待が疑われる支援行為事案：1件

(7)①に再掲

### (2) 利用者事故事案：1件

#### ① 但馬地区事故：移乗介護事故

7/12(木) 13:20 方向転換移乗時に発語あり、左下肢に痛みの訴えあり 10分後看護師確認、通院。左膝骨骨折で入院治療。家族(長男)より不適切介護で苦情申し出、「トラブル」状態化。7/28(土)にご家族(長男)に吉田・西山が面会し求償の希望を聴取しつつ、法人としての姿勢を説明。8/2 保険会社顧問大倉山法律事務所多田弁護士面会(掃部・小山・吉田)、ご家族から朝来医療センターの医療情報提供同意書をいただく手続をとることに。当該同意書は10/3(水)に入手、弁護士へ送付済み。その後沙汰やみ状態。

### (3) 利用者間トラブル：なし

### (4) 支援体制への苦情継続：2件

#### ①神戸地区事案：職員の異動を発端とした施設ならびに職員批判が昂じて職員が極度に疲弊していった事案

2017年3月、職員間の不和で1名がメンタル不調に陥り同年7月に内部で人事異動を行ったが、これに対して「職員主体である」との苦情が発生。当該利用者は同年1月から利用開始した後、母親との「特別な信頼関係」が形成されていた支援員の異動について不満を感じられた形で発生。メンタル不調をきたした支援員に対して「支援員として不適切で、配置転換を求める」との訴えに加えて、施設長が管理者として不適格とのことで解任を求めた。さらに、後任の支援員と母親の支援観が不一致とのことで担当替えを要求することで、当該職員も2018年7月よりメンタル不調により休職するなど施設職員が強い疲弊感を抱く事態に至った。

当初の、家族と職員の関係性・内部情報漏洩が原因となっていることから、他法人他施設移行を腹案にしつつも慎重に対応し、さらなる職員のメンタル不調を予防するために、家族の意向を受けて2019年1月から当事業所の前に利用されていた法人内他施設で受け入れることにした。

#### ②神戸地区事案：入所利用者による執拗な支援員への苦言により職員の疲弊が増高

2013年10月頃から現在に至るまで、ご利用者が厳しい口調、態度で支援について苦言を呈され、さらに特定の職員には支援・対応について怒鳴る、長時間にわたり苦言を呈するなどし、精神疾患による休職・退職、異動希望が継続して発生、その事もあり人手不足となり、施設全体が疲弊。

施設長・課長・主任を中心に本人や特定職員との話し合いを繰り返し、執り成しをしてきた。2016年に中江施設長（臨床心理士）、植戸教授（2018年にも）に相談し、助言を頂いてきたが、現場として有益に受け止め、活用できなかった。同年には苦情相談委員会にも相談している。2019年3月には兵庫県運営適正化委員会に相談した。

(5) パワハラ通報事案：なし

(6) 苦情事案2件

①但馬地区事案：短期入所利用者の発熱に関するご家族と施設の見解相違からの事案

4月25日、特養短期入所利用者、発熱による病院受診の承知を求める施設からの連絡に対して、ご家族が「経験上不要」と主張されたため、さらに理解を求めたことが説得的と受け取られ、さらに短期入所切り上げで迎えに来られたご家族に対する囑託医師の発言が不適切（「利用を断る」）でトラブル化。5/16 ご家族が法人の考え方（施設利用の責任者は施設長か医師か）を確認の入電あり、吉田常務が「施設長が責任者であり、引き続き利用していただく所存である」と説明。

②神戸地区事案：施設送迎車両の運転マナーへ苦情

4/27、8:55、星が丘男性から電話通報。

(7) 利用者金銭にかかわる事件・事案：2件

①神戸地区事案：職員による入所利用者の預金侵奪事件

入所施設生活支援員により2016年5月から1名のご利用者のゆうちょ銀行貯金通帳を詐取しATMで131回にわたり300万円弱を着服、事故の借金の返済とギャンブルに費消した。暗証番号は、担当者の地位を悪用して被害者の任意後見人から聞き出していた。また、同じ生活支援員が別の利用者から、2018年9月以降、事態が発覚（銀行窓口係からの問い合わせによる）するまでの間、8回にわたり134万円を通帳から引き出した。

引出に用いた印鑑は、後見人切り替え手続きの機会に同施設事務員から借り出していた。施設側の多様な管理義務違反があり、事態を深刻なものに発展させたといえる。

上記銀行窓口係からの聞き取りにより調査を開始、理事・施設長による本人聴聞と、ゆうちょ銀行取引明細取得により被害額を特定したうえで、顧問弁護士の指導により、直ちにご利用者の被害額の弁償を施設から実行したうえで家族（母親）に通報。母親から弁済を受けたのち、同生活支援員を懲戒解雇処分にした。

②神戸地区事案：グループホーム利用者の預かり金紛失

11月にご利用者2名の預り金の内、一部のお金が紛失していた事が発覚。それぞれ高額紙幣を預り金ポーチにまとめていたものが無くなっていた。残高が高額になっていた事に対してバックアップ施設で管理することを怠って入れていた。管理者が不定期に残高確認を行っていたが、きちんとしたシステムになっていなかった。全職員に対して専任理事と管理者で1人ずつ聴き取りを行ったが原因は特定できず。

ご利用者お2人共それぞれ後見人・保佐人がおられ、報告と謝罪を行い、紛失分を弁済した。再発防止策として預り金の管理方法を統一し、週に1回はバックアップ施設による確認を実施すること、預り金が1万円を大きく超えないよう施設で預かり、必要に応じて補充する事を徹底した。

## 6. 地域貢献・交流

- (1) 社会福祉充実計画地域協議会  
（但馬地区）2018年5月22日（火）さくらの苑 参加者13名  
（神戸地区）2018年6月21日（木）本部会議室 参加者11名
- (2) 福祉体験学習（点字指導・手話指導等）・ボランティア養成講座実践  
・和田山高等学校点字講座・手話講習・車椅子講習（但馬地区施設）  
・朝来中学校、生野中学校福祉体験学習（但馬地区施設）  
・地域において認知症サポーター養成研修（平生園、さくらの苑）  
・神戸学院大学2年生社会福祉概論（神戸光生園、神戸愛生園）
- (3) オープン療育（エスポワールこじか）
- (4) 但馬地区「第6回神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会」  
・2018年5月22日（火）、筒江農村広場、参加者100名（うち地域の方76名）
- (5) 老人クラブ交流会  
・竹田地区上町ミニデイとの交流会（さくらの苑）
- (6) 自立支援協議会・ほっとかへんネット等への参加  
・朝来市高齢者施設合同連絡会（平生園・さくらの苑）  
・南但馬自立支援協議会・各部会（但馬地区各障害・児童施設）  
・豊岡市、新温泉町各自立支援協議会・各部会（北但広域療育センター）  
・香美町自立支援協議会・各部会（北但広域療育センター、エスポワールこじか）  
・ほっとかへんネットとよおか（北但広域療育センター）  
・兵庫区、長田区、須磨区、北区、垂水区各自立支援協議会・各部会（神戸地区各施設）  
・ほっとかへんネット兵庫、ほっとかへんネット長田、ほっとかへんネット須磨  
ほっとかへんネットたるみの各活動に参加（神戸地区各施設）
- (7) 自治会参加・地域イベント開催・地域イベントへの協賛出店、参加
  - ア) 恵生園（あったかプラザ）：オープンカレッジ参加・折り紙教室・地域清掃・脳トレ  
・お抹茶体験・クッキング・手芸 あったか定食提供
  - イ) 和生園：竹田駅周辺ゴミ拾い・施設周辺地域草刈り・地区自治会、管理組合会議参加  
秋葉台夏祭り参加  
第2和生園：児童対象イベント実施  
・「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2018in あさご」参加  
・道の駅まほろばイベント参加
  - ウ) さくらの苑：開園1周年記念イベント  
・認知症キッズサポーター養成講座参加
  - エ) 神戸聖生園：北須磨団地自治会館「寿喫茶」（月1回）・太極拳教室参加  
・啓明学院軽音楽部ミニコンサート
  - オ) 神戸友生園：須磨音楽の森出店
  - カ) 神戸光生園：地域公園管理会と合同公園清掃参加・ミニバザー（月1回）  
・神戸学院大オープンカレッジ参加・明舞まつり参加・防災イベント開催  
・公的資産活用検討会「東谷公園で遊ぼう！」参加
  - キ) 神戸明生園：利用者作品展「あ〜らどうも」開催
  - ク) ケアホームきたすま：自治会清掃に参加
  - ケ) ワークセンターひょうご：神戸学院大オープンカレッジ参加

- ・土曜訓練講師に地域活動グループの招聘
- ・近隣小学校の「まち探検」受入れ
- ・地域との食事交流会の実施

コ) ひょうごデイサービスセンター：センター前清掃（毎週金曜日）

カ) 自立センターひょうご：兵庫駅前清掃（月1回）・第2,3回よつば寄席（地域落語会）

シ) ワークセンターわかまつ：須磨音楽の森・大正筋商店街縁日・お大師（月1回）・一七  
市拡大版・クリスチャンセンターカーニバル・兵庫松本通教  
会バザー・神戸女子大学大学祭・愛のチャリティーバザー  
各出店

ス) せいいいやさかだい：サロン活動・地域清掃活動・ささえ愛学習会出席

○わだやま竹田お城まつり（但馬地区施設・神戸友生園・ワークセンターわかまつ）

○せいいい介護者のつどい開催（恵生園・真生園・平生園・さくらの苑・わらしべ）4回

○竹田盆踊り協賛（但馬地区施設）

○竹田地域自治協議会主催グラウンドゴルフ大会に参加（但馬地区施設）

○芋煮会（但馬地区施設）

○但馬地区感謝祭（但馬地区施設）

○妙法寺川さくらまつり（神戸聖生園・ワークセンターわかまつ・すま障害者地域生活支  
援センター）

○友が丘地区民生・児童委員との懇談（友が丘地区4施設）

○北須磨団地ふるさと祭り出店（友が丘地区4施設）

○花火大会（神戸愛生園）

○北須磨団地A棟住民協力による夜間避難訓練（神戸愛生園）

○第38回おいでやすカーニバル開催（神戸地区施設）

○こんにちはカーニバル出店（神戸聖生園・神戸友生園・ワークセンターわかまつ）

○キャナルタウンイースト住民との合同消防訓練及び訓練後施設見学実施（中部在宅障害  
者福祉センター全施設）

○キャナルタウンイースト自治会役員会参加（中部在宅障害者福祉センター全施設）

○地域にお住まいの高齢者の課題について「地域ケア会議」に参加（中部在宅障害者福祉  
センター全施設）

#### (8) 地域住民の作品展示スペース提供

ア) あったかプラザ

① 書道展：2018.5.12～6.22・風信書道会

② 押し花展：2018.6.23～7.31・鍛冶洋子さん

③ 絵画・親子展：2018.8.1～8.31・中村豊子さん

④ 絵画展：2018.9.1～9.30・船田寶さん

イ) 神戸聖隷歴史資料館

① パッチワーク展：2018.4.2～4.13・マルゴンパッチワーク教室

② 書道展：2018.4.16～5.1・風信書道会

③ 鉄道コレクション展：2018.5.1～6.29・ふじおミニ鉄道資料館

④ 絵手紙展：2018.7.2～7.20・松浦恵美子さん

⑤ 鉄道写真展：2018.7.23～8.10・松岡均さん

⑥ 押し花展：2018.8.13～9.7・鍛冶洋子さん



- ⑦ 竹田秋祭り写真展：2018. 10. 1～10. 31・松岡均さん、松岡とし子さん
- ⑧ あさご文化作品展：2019. 1. 18～2. 1・たじま医療生活協同組合朝来支部
- ⑨ ひな祭り作品展：2019. 3. 1～4. 12・鍛冶洋子さん

## 7. 広報他

### (1) 洗足発行

#### ア) 第19号(2018年7月18日)

- ①放課後デイサービスの移転(北但広域療育センター)、②但馬よろず福祉相談所開設、③数字で見る神戸聖隷、③第3期中期計画(地域貢献推進部・人事労務危機管理推進部会)、④事業報告、⑤決算報告、⑥小西牧師メッセージ「蛍の光」

#### イ) 第20号(2018年11月16日)

- ①HALがきた、②支援記録システム導入、③成年後見制度インタビュー、④「共生型通所介護事業」をはじめました、⑤資料館ニュース、⑥ススメ!!第3中計、⑦小西牧師メッセージ「もみじ狩り」

#### ウ) 第21号(2019年3月8日)

- ①神戸光生園・防災イベント、②キッズクリスマス、③ディンドンリンガーズ、④接遇を学ぶタイ研修、⑥接遇ハンドブック、⑦福祉サミット報告、⑧ススメ!!第3中計、⑨小西牧師メッセージ「春の香り」

### (2) フェイスブックによる施設情報発信

「職員の働く姿」を中心に、2018年度に123回の投稿を実施。登録者数394人。

以上

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸聖隷歴史資料館  
 管理者 吉田 和夫

神戸聖隷歴史資料館は開館以来2年が経過し、地域の皆さまや県内外から多くの方々にご来館いただき、2018年度は職員も含めると1年間に約700名の来館者がありました。

事業については、計画していたことを概ね進めて参りました。理念の視点では、広報活動の充実を主に取り組みました。歴史資料館のホームページを新たに開設し、館内や展示資料の紹介、ギャラリーの展示やイベントに関する情報を担当者自ら発信できるようになりました。あったかプラザとの連携については、4つの個人・団体の出展者をご紹介いただき、歴史資料館でも同様の作品展示を行いました。ギャラリーの利用促進については、あったかプラザからのご紹介もあり、昨年度を上回る9つの個人・団体に作品展示をしていただきました。物販では、神戸友生園のお茶の試飲サービスを開始しました。併せてお茶の試供品を設置し、売上増につなげております。写真展については、地域住民より昔の竹田秋祭りの写真を借用し、複製した写真にて竹田秋祭り写真展を開催しました。竹田秋祭り期間中も開館し、地域の多くの皆さまにご来館いただきました。又、地域住民より昔の竹田秋祭りの映像をいただき、映像コーナーにて観賞できるようにしました。来館者が写真展と併せて懐かしんで鑑賞しておられ、歴史資料館を知っていただく機会となったと思います。資料の一元的管理については、昨年度に引き続き、法人本部の一部資料を歴史資料館に移管しました。今後も、資料の整理・保存を進め、法人の財産として適切に保存管理して参ります。

人材育成の視点では、越智顧問による法人の歴史勉強会の場を提供しました。計3回開催し、但馬地区職員が法人の成り立ち・法人理念の理解に取り組みました。

地域の視点では、法人第3期中期計画並びに社会福祉充実計画（2017～2021年度）に基づいて「但馬よろず福祉相談所」を6月に開設しました。一般5件(地域情報)、障害者1件(生前葬について)、利用者家族1件(子の将来について)の計7件の相談を受付けました。チラシの配布や洗足にて広告掲載などの広報活動を実施しましたが、未だ相談が少ないのが現状ですので、認知度を向上できるよう努めて参ります。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
あったかプラザとの連携	①両施設にパンフレットを設置、広告を貼るなどの宣伝を行う	ア) ギャラリーにて開催中の展示に関する広告をあったかプラザに掲示	△
	①両施設の担当者が情報を共有できる仕組みを作る	ア) あったかプラザの展示予定を確認 イ) 出展者(4つの個人・団体)を紹介して頂く	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
年間行事の恒例化	①年間行事を提案・実施	ア) 11月に神戸聖隷感謝祭、12月に理念部会主催クリスマス会を歴史資料館にて開催	○
ギャラリーの利用促進	①パンフレットを設置している関係機関を定期的に訪問し、補充交換を行う	ア) 昨年度(5つ)を上回る9つの個人・団体がギャラリーにて作品を展示	◎
インターネットを活用した広報活動	①ホームページを活用し、歴史資料館の情報を担当者自ら発信する	ア) 歴史資料館のホームページを開設し、担当者自ら最新情報を発信(9月～)	◎
お茶類の試飲サービスを開始	①お茶の試飲サービス設備、看板を設置	ア) 物販コーナーにて神戸友生園のお茶の試飲サービスを開始(7月～) イ) お茶の試供品を設置(7月～)	○
竹田の古い町並み写真展を常設	①竹田秋祭りの際に写真展を開催	ア) 地域住民より写真を借用し、複製した写真にて竹田秋祭り写真展を開催(10月)	◎
映像コーナーに新しい映像を追加	①各施設の行事の様子や施設紹介の映像又は写真のスライドショーを提供依頼	ア) 竹田秋祭りの映像・法人(但馬地区)紹介映像(朝来市CATV作成)追加 イ) 北但広域療育センター10周年のあゆみ映像(スライドショー)追加	○
資料の一元的管理	①資料を法人本部より歴史資料館に移管する	ア) 法人本部より一部資料(常任理事会・全体施設長会議事録、監査資料等)を移管	△
法人の歴史勉強会の開催	①歴史勉強会の開催の場を提供	ア) 越智顧問による法人の歴史勉強会を開催。計11名参加(5月・6月・10月)	○
会議室の貸出	①朝来市関係者会議等に会議室を貸出	ア) 未実施	×
「但馬よろず福祉相談所」の設置	①2018年度上半期中に開設 ②相談体制の構築	①② ア) 各種様式(運営規程・相談受付票等)を作成(5月) イ) 地域住民にチラシを配布(5月) ウ) 但馬よろず福祉相談所を開設(6月)	○

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 平生園  
 施設長 太田 敦子

平生園中期計画のビジョンは「地域包括ケアシステムにおける特別養護老人ホームの役割の中で、地域の拠点として在宅介護サービスに積極的に取り組みます」であり、今年度の大きな計画として家族介護者交流事業と認知症サポーター養成講座の開講に取り組みました。家族介護者交流事業は、家庭でご家族を介護されている方を対象としたものですが、竹田地区の他施設と協同で「せいいい介護者の集い」と銘打ち8月から始めて、年度内に4回開催いたしました。参加される方も多数となりましたので、来年度も継続する計画をしています。また、認知症サポーター養成講座も年度内に5回開講しましたが、その内1回は「キッズサポーター養成講座」であり、竹田小学校にて小学生を対象として開催しました。これは子供の頃から認知症を理解することが重要であると理解していただくためのものです。

年度当初は、職員も充足しており利用率も計画を大きく上回って推移していたのですが、下半期には諸事情での離職者があり、介護員が不足する状況となり新規入所者を受け入れることが困難となりました。これについては他施設の協力を得て、年度途中で平生園の介護員を兼務してもらうことにより、新規入所者の受け入れはもとより、資格保有者を必要数確保して加算の継続取得も可能となりました。また、腰痛を訴える介護員が多数おりましたので、介護ロボットを導入して介護負担を軽減する必要性を感じ、マッスルスーツ（商品名）を2月に3台導入いたしました。これは年度計画には無かったのですが、介護員不足に危機感を感じ急遽導入を決めました。このロボットは肩に背負い、腰と下肢上部に装着することにより、腰への負担を最大 20 kg 軽減するもので、積極的な使用を勧めています。

また、年度計画に入れておりました座台式機械浴の更新工事を行いました。これまでの機種は使用頻度が高いにもかかわらず、20年以上も使用しており故障が頻発していたのに加え、座面リフトを高く上げる必要があり、ご利用者にも恐怖感を与えてしまう傾向がありました。新規に導入した機種は、座面を高所まで上昇させる必要のない物を選定したため、ご利用者からもよい評価をいただいておりますし、介護員からも使用し易く身体への負担も軽減されたとの声も多数聞かれています。

平生園が開設して28年となり、改修するべきところも多数あります。今後も計画的に改修や設備の更新を行い、加えてソフト面でも見直しを行うことによって、ご利用者や地域の皆様から選んでいただける施設になるために職員一同一丸となって努力してまいります。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
・地域住民の困りごとの調査	①調査方法の検討・分析・支援実施	ア) 平生園独自の地域発信パンフレット製作 イ) パンフレットをよろず相談所に持参し、依頼あればいつでも対応可	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
<p>・ボランティアの受入れから育成までのシステムを確立</p>	<p>①ボランティアコーディネーターの設置</p>	<p>ア) ボランティア受け入れマニュアル完成 (2月)            イ) ボランティアの受入れ随時実施、民生委員清掃ボランティア (7月)、自動車整備組合車椅子修理ボランティア (7月) 高校生夏祭りボランティア (8月)、自治協清掃ボランティア (9月)、家族会清掃ボランティア (10月)、赤ちゃん先生 (10月)</p>	<p>△</p>
<p>・地域とのつながりの充実</p>	<p>①行事の実施、評価、アンケートの実施</p>	<p>ア) 地域行事への参加 (お城祭り、盆踊り、グラウンドゴルフ、竹田秋祭り、神戸聖隷感謝祭)            イ) たけだこども園交流会 (5月)            ウ) トライ・やるウィーク、トライ・やるアクション中学2年生受入 (5月/8月)            エ) 和田山特別支援学校より実習生受入れ (11月)</p>	<p>△</p>
<p>・地域包括ケアシステムを学び知識を身につける</p>	<p>①域包括ケアシステムの研修受講 (全職員/継続)            ②知識を活かした計画の立案            ③各医療機関、福祉サービス事業所、行政と連携し、情報共有及び支援の実施</p>	<p>①            ア) 域包括ケアシステムの研修受講            イ) 地域ケア概論研修に2名参加 (5月)            ウ) 地域包括ケアシステム推進会議に1名参加 (5月)            エ) 地域包括ケアシステム資料作成/配布 (8月)            オ) 朝来市地域包括支援センター長による地域包括ケアシステム学習会実施 (1月)            ③            ア) 入退院時のカンファレンスにて情報共有の実施            イ) 朝来市防災訓練に参加。福祉避難所協定に基づき、高年福祉課からの要請にて要援護者の受入れ訓練を実施            ウ) 市内各特養と連携し、ボランティア感謝の集い、職員合同研修会を開催 (11月、3月)</p>	<p>○</p>

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
事業所の 特長やサ ービス内 容をわか りやすく 伝えるパ ンフレッ トの作 成・配布	①パンフレットの作 成と配布	ア)新パンフレットの作成 (11月)	○
Facebook と施設ホ ームペー ジの定期 的な更新	①Facebook と施設ホ ームページを1回/2 ~3月のペースで更 新	① ア)Facebook とホームページともに更新済 み イ) Facebook 更新マニュアル作成 (2月)	◎
施設見学 の柔軟な 受入れと 施設案内 の実施	①マニュアルの内容 検討と作成 ②運用の開始	① ア)マニュアル作成済み ② イ)運用についてもいつでも実施可能	◎
家族介護 者交流事 業への参 入	①家族介護者交流事 業開始	ア)和田山地区施設で検討会実施 (6月/他法 人見学、7月、8月、9月) イ)朝来市と交流事業の契約締結 (7月) ウ)家族介護者交流事業開催「せいれい介護 者の集い」4回開催 (8/20、11/29、1/24、 3/11)	◎
認知症サ ポーター の養成	①認知症サポーター 養成講座開講	ア)認知症サポーター養成講座5回開講 (内 キッズサポーター養成講座1回 初めての 試み) (地域住民対象4回、施設職員対象1回) イ)キャラバンメイト養成講座に職員2名派 遣 (7月)	◎
修繕計画 の確認と 計画をす る	①大規模改善に向け た修繕計画箇所再 考 ②座位浴 (リフト浴) の更新 ③簡易 Wi-Fi の整備 (利用者/家族/職員 への開放)	② ア)座位浴を酒井医療器のホーミーイースに 更新 (1/9) ③ ア)簡易 Wi-Fi の整備し一般開放完了	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
旧短期入所事業の空部屋の活用方法の検討	①計画・検討・事業立案（個室、2人部屋、夫婦部屋など）	ア)大規模改修が数年後のため、空部屋については多用途に活用中	×
目標値に沿った積立金の確保	①積立金の確保	ア)目標値の積立金実施	◎
・安定した収入の確保	①空床期間の短縮 ②市内居宅介護支援事業所、医療機関、行政との連携、情報収集の実施 ③口腔ケアの実施による肺炎予防、センサーマット、センサーベッドを活用した見守りによる転倒事故減、体調不良者確認時の早期受診対応による入院者減 ④空床発生時の積極的な短期入所利用者の受入れ	① ア)2回/月の入所判定委員会の開催（職制会、職員会議日） イ)職員欠員により、新規入居者受入れを調整（11月～1月） ② ア)市内居宅介護支援事業所、医療機関、行政等に、利用者の動向について確認 イ)空床発生時は市内居宅介護支援事業所へ短期入所利用を依頼 ③ ア)体調不良者の早期発見、早期受診治療による入院者減 イ)利用者の状態を把握し、適正な介護度であるか検討し、必要に応じて介護度変更申請（6名） ウ)3月末現在平均要介護度4.4（4月当初より0.1上昇）	○
経費削減	①業務内容の精査 ②職員への意識付け ③超過勤務労働の削減	① ア)業務内容を精査し、現状に応じた勤務時間への変更（4月） ② ア)職員への意識付けを目的に、水道光熱費、おむつ類、消耗品などのデータ作成し職員会議で報告（6月、10月）	○
各種マニュアルの更新及び作成	①各委員会にてマニュアルの更新・作成 ②第三者評価、サービス評価基準受審	① ア)マニュアルの更新、作成は一部更新のみ ② ア)第三者評価受審（9/27）、サービス評価基準受審（11/6）	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
先進施設の取り組みを学ぶ	①先進施設の取り組みと平生園の違いについて調査 ②上半期先進施設調査 ③下半期に見学実施	① ア) ノーリフトケアについて調査、学習会の実施 イ) 介護支援型介護ロボット(腰補助)「マッスルスーツ」3台導入(2/1)	△
アセスメントを実施し、個々を知り、個々のニーズを把握した支援の実施	①ほのぼのNextの包括的自立支援プログラムについての学習会実施 ②ほのぼのNextの包括的自立支援プログラムを活用したアセスメントの実施 ③ケアプランを周知した個別支援の実施	① ア) 包括的自立支援プログラム研修会に職員派遣(12月) イ) 包括的自立支援プログラム活用方法をNDソフトウェアによる学習会実施(2月)	○
担当介護員によるオンリーワン支援の充実	①ニーズ調査(アセスメント)から年間計画を作成 ②年間計画に基づいた支援の実施 ③顧客満足度調査実施	① ア) 地域の行事予定を元に外出計画を作成し、オンリーワン支援として地域行事参加や本人のニーズによる外出を実施	△
計画的な研修の実施	①年間計画 ②現在の課題を把握し研修参加者決定 ③各種資格取得の為に、職員派遣(介護福祉士実務者研修、喀痰吸引研修、認知症実践者研修、ボランティアコーディネーター、認知症キャラバンメイト、介護支援専門員研修など) ④研修後の伝達研修を実施	① ア) 毎年の実施研修を参考にして、年間の計画を策定、実施 ③ ア) 介護福祉士実務者研修2名、介護福祉士実習指導者研修1名、喀痰吸引研修1名、認知症介護実践者研修1名派遣、認知症キャラバンメイト養成講座2名派遣 介護福祉士試験2名合格	○



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
人事考課制度の継続、浸透	①人事考課制度の継続	ア)人事考課制度について説明 イ)目標管理制度の個人目標の作成と、上司による個別指導の実施 ウ)フィードバック面接の実施	○
エルダー制度の活用	①職員育成到達目標およびモニタリング表の活用 ②エルダー報告書の活用 ③エルダー制度実施の中でエルダーと主任、課長・新人とエルダーとの相談時間を設ける	① ア)新任職員オリエンテーションにて、エルダー制度について説明 イ)エルダー、新任職員それぞれと面談し、評価と課題について助言 ② ア)エルダー報告書、職員育成到達目標表を活用 ③ ア)エルダー、新任職員それぞれと面談し、評価と課題について助言 イ)新人職員の介護技術の習熟度や悩みなどに適宜助言	○
キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉講座への職員派遣 ②朝礼及び職員会議時に牧師による礼拝の実施 ③朝礼時基本理念唱和	① ア)キリスト教福祉講座へ職員2名を派遣(9月、10月、11月) ② ア)職員会議、朝礼にて小西牧師による礼拝(5月～3月) ③ ア)朝礼、職員会議時に法人理念を唱和	◎
法人基本理念を学び、理解を深める	①勉強会を開催・歴史資料館の見学 ②理念に沿った支援の実施 ③理念研修会への職員派遣 ④神戸聖隷ハンドブックの活用	① ア)新任職員オリエンテーションにてキリスト教理念に基づいた利用者主体の支援について説明 ③ ア)法人理念研修に職員派遣(6月イエス団見学、11月神戸聖隷特別講演会、11月海外研修、) ④ ア)神戸聖隷ハンドブックを活用した学習会/意見交換会の実施(8月、10月、12月、1月、2月)	○

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 わらしべ  
 施設長 太田 敦子

「わらしべ」の中期計画ビジョンは「一人ひとりが役割と生きがいを持ち地域と共に暮らす生活の実現」であり、年間を通してこども園や小学校、様々なボランティアグループとの交流会を積極的に行いました。加えて、今年度からご利用者のご家族に参加いただいたの「ご家族職員合同奉仕作業」を開催し、ご利用者も一緒に施設周辺や居室、ベランダ等の清掃作業を、親子もしくはご夫婦協働でしていただくことにより、若い頃を懐かしむ良い機会となりました。

中期計画の中に「看取り支援の充実」を立案しておりますが、今年度は3人の方の看取り支援を実施しました。これまでは重度になれば特別養護老人ホームに移っていただくことが当然となっていたのですが、最期まで「わらしべ」で暮らしたいとの、ご利用者やご家族のご希望に沿う形でお世話させていただくこととなりました。そのためには、担当医師によりご家族に十分にご説明いただきご理解いただいた上で、看取り支援の方法の確認や申し送りカードを作成することにより、「わらしべ」で可能な看取り介護をお示しした上で取り組みました。実際に看取り介護を終了してからは、全てのご家族より感謝の言葉をいただくことができました。

これまで毎年、第三者評価を受審していますが、身体拘束解除への取り組みとして日中の門扉の開放を指摘されておりました。以前、ご利用者が職員の分らないうちに外出されてしまったことがあり、ご利用者の安全のためと門扉を施錠しておりましたが、見守りを確実にを行うことにより、昨年10月からは門扉を開放することができるようになりました。これも、開かれた施設へのひとつのステップとして確実に継続いたします。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
・案内看板の検討と設置 ・パンフレットの見直しと作成 Facebook ・機関紙等の更新と継続	①パンフレットの更新・ホームページの更新 ②Facebookの更新と機関紙の発行	① ア) ホームページ担当者への業者説明会 (6月) イ) ホームページ更新 (9月・11月・3月) ② ア) 機関紙編集会議 (8月・9月・12月) イ) 機関紙発行 (10月・3月) ウ) フェイスブック投稿 (1月)	○
地域活動への参加	①キャラバンメイト連絡会参加・活動への参加	ア) キャラバンメイトとして竹田地区のサポーター養成講座に参加 (5月)	△

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域との交流	①学校、社会福祉協議会等への働きかけと受け入れの実施	ア) 社会福祉協議会を通して新規余興ボランティア受け入れ(4月・6月・7月・3月) イ) 近隣地区より夏祭りの手伝いボランティア10名来所(8月) ウ) 紹介により福知山より余興ボランティア「すずらん一座」来所(8月～12月) エ) 毎月定期で3組のボランティア来所 オ) 不定期のボランティア計4組の受入れ(12月1月) カ) 東河小学校5年生との交流会実施(3月)	◎
	①こども園への依頼・調整と交流会の実施	ア) 竹田こども園に交流会の依頼(4月) 今年度下期に開催で調整 イ) 竹田こども園との交流会実施(10月)	◎
関係機関との連携強化(情報共有)による収入確保	①居宅等事業所への情報提供と共有による空床利用の推進 ②医療機関との連携、早期退院・退院後の調整等	① ア) 4～7月にかけて延べ49名入院者あるも空床利用なし(利用希望者なし) イ) 11月・1月・3月、退所に伴う次期入所までの空床計33日間あり(利用希望者なし) ② ア) 入院時医療期間への情報提供、カンファレンス、早期退院に向けた調整実施 イ) 感染症の予防と早期受診により8月以降入院者なし	△
入所申込者の情報調査	①入所申込者の情報確認	ア) 申込みファイルの随時更新 イ) 必要時、申込者の情報調査及び面談 ウ) 他施設への訪問、面談、情報収集	◎
加算取得の検討	①取得可能な加算の研究と取得	ア) 医療連携体制加算について他施設から情報収集(8月) イ) グループホーム連絡会にて情報交換 ウ) 1月3月、計3名看取り介護加算取得	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
事務員による経費に関する説明会の実施	①職員会議にて収支に関する説明(経営進捗状況報告) ②毎月グラフ揭示(水道光熱費) ③半期毎の振り返り・予算に参画	① ア) 職員へ2017年度の収支と2018年度予算の説明(4月) イ) 毎月の職員会議にて収支の説明 ② ア) 毎月事務員による水道光熱費のグラフ化と報告 イ) 毎月食費についての報告 ③ ア) 職員会議にて前期収支状況と前期実績状況(予算対比)の報告と理解(11月) イ) 職員会議にて次年度予算について説明(3月) ウ) 後期実績状況(予算対比)の報告と理解(3月)	○
無駄の排除と価格見直し	①消耗品等の価格見直し ②毎月の消耗品等の使用量確認	① ア) たのめーるの利用による消耗品のコストダウン(8月～) ② ア) 毎月の使用量の確認と上半期集計(10月) イ) 消耗品の年間使用量集計(3月)	○
ニーズ調査	①委員会開催 ②アンケートによるニーズ把握とサービスへの反映 ③法人顧客満足度調査の実施	① ア) ユニット会議や他の委員会にて個別支援の振り返り(7月・8月・9月) ② ア) ニーズ調査アンケートの準備 ③ ア) 法人満足度調査は下半期に実施予定 第三者評価の家族様アンケートの時期を検討 イ) 法人顧客満足度調査実施・集計(2月) ウ) 第三者評価受審(3月)	△
各ユニットでの取り組み・両ユニット協働による支援の実践	①ユニット毎の計画(雅・泰)	ア) 年間計画に沿って毎月実施(行事・外出)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
支援の質の向上 活動メニューの選択肢を増やす	①選択肢を増やし希望のサービスを提供(雅・泰)	ア)個別支援の実施(延べ21名 故郷訪問、希望外出、初詣等) イ)誕生日希望メニューの提供	○
	①日中活動を充実させる共有スペースでの過ごし方の検討 ②「堀こたつユニット」の購入・設置 ③空調の整備	① ア)日中活動の過ごし方の検討(11月～2月) ② ア)「堀こたつユニット」購入へ向けた検討(11月～2月) ③ ア)エアコン修理箇所点検と修理(5月・6月・12月・1月)	△
	①月1回の行事食の提供	ア)行事食、外注弁当、季節感のあるメニュー、初物果物等の提供(毎月)	◎
相談支援の充実	①状態に応じた相談支援の実施(家族等)	ア)状態変化による要介護度変更申請実施 イ)状態変化による家族との面談実施 リ)家族への特別養護老人ホーム情報の提供及び申込み・ケアマネ意見書作成 エ)医師、家族を交えた看取りに向けての面談実施(1月)	◎
看取り支援の充実	①委員会開催 ②「高齢者グループホームでの看取りに必要なこと」(わらしべ版看取りガイドライン)検討・作成 ③看取り実施時の振り返り(アンケート実施)	① ア)委員会実施(5月・8月・2月) ② ア)ガイドライン作成のための検討(5月・8月) ③ ア)看取り時の支援方法の確認 イ)看取り時の申し送りシート作成 ウ)3名看取りの振り返り(1月・2月・3月)	△
職員教育	①看取りに関する研修への参加 ②実施事業所への見学と伝達研修	① ア)研修会、他施設見学の日程について検討 ② ア)実施事業所への見学と伝達研修は未実施	×

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
防災への取り組み	①災害に備えた清掃の実施 ②情報収集とマニュアル見直し・作成 ③避難訓練の実施と振り返り ④福祉村防災連絡協議会との連携による会議・訓練への参加	① ア) 水害に備え適宜側溝掃除実施 イ) さくら川清掃 (8月) ウ) 全館消毒 (8月) エ) 台風時の側溝・ベランダ掃除実施 (10月) ② ア) 非常時備蓄品についての情報収集、リストアップ イ) 感染症マニュアルの検討 (9月10月) ③ ア) 毎月避難訓練実施 (日中・夜間・地震想定等) 避難時の移動方法(歩行、車椅子使用等)の確認と共有 ④ ア) 但馬地区安全対策委員会 (6月)	○
	①入居者に適した非常食の選択 ②災害時に備えての非常食料の備蓄と食事体験の実施	① ア) 委員会実施 (6月) イ) 利用者に適した非常食の検討 保管場所・サンプル収集と試食、購入についての検討 ② ア) 備蓄食料品の内容等の検討 (10月・11月) (平生園での購入となる) 2月非常食搬入 イ) 食事体験は未実施	○
事故防止の強化	①ユニット毎の事故の検証と対策の実践 ②毎月職員会議にて周知	① ア) 事故について、都度ユニット間で検証し対策を検討・実践 ② ア) 職員会議で事故の報告を行い、全職員で共有 イ) 前期集計報告 (10月) ウ) 後期集計報告 (3月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
虐待・不適切ケアへの取り組み	<p>①委員会開催</p> <p>②虐待防止標語の募集と毎日の唱和と実践</p> <p>③チェックリストの実施とユニット会議での振り返り集と毎日の唱和と実践</p> <p>③チェックリストの実施とユニット会議での振り返り</p>	<p>①</p> <p>ア)委員会実施(5月・8月・11月・3月)</p> <p>イ)やむを得ず身体拘束を行わなければならない際のマニュアルの説明(4月)</p> <p>ウ)身体拘束に関する研修会開催(6月・9月)</p> <p>②</p> <p>ア)毎朝礼時、日めくり虐待防止標語の唱和</p> <p>イ)身体拘束廃止の取り組みとしての日中の門扉開放(10月～)</p> <p>③</p> <p>ア)法人虐待防止チェックリストの実施・集計(8月・2月)</p> <p>イ)毎月のユニット会議で虐待・不適切ケアをチェック</p> <p>ウ)虐待防止基準表・評価表運用学習会(11月)</p>	◎
研修参加と伝達研修の充実	<p>①認知症介護実践研修受講・ケアマネ研修受講</p> <p>②グループホーム主催の研修会参加(年6回)</p> <p>③長寿の郷介護職向け専門研修参加</p> <p>④伝達研修実施</p>	<p>①</p> <p>ア)職員不足により今年度の研修参加は見送り</p> <p>②</p> <p>ア)グループホーム連絡会合同研修会参加(6月・9月・11月・2月)</p> <p>今年度研修テーマ「グループホームとは」</p> <p>③</p> <p>ア)長寿の郷介護職向け専門研修参加(5月・6月・7月・8月)</p> <p>④</p> <p>ア)研修参加の職員による伝達研修の実施(計7名)</p>	○
記録ソフト活用と勤務ごとの業務の見直し	<p>①業務改善アンケート結果の検証、ユニット毎の業務内容の見直しと実践</p>	<p>ア)ユニット毎の業務内容の見直しについては別の視点(看取り支援)から議論中</p>	△
食材購入(献立)業務の見直し検討と取り組み	<p>①食材仕入れ及び献立業務の定着</p>	<p>ア)全職員で仕入れ・献立業務に関わりほぼ定着</p> <p>イ)食材仕入れ及び献立業務の確立</p>	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
法人理念の理解と共有	<b>①職員会議時の基本理念の唱和</b> <b>②神戸聖隷ハンドブックの活用</b>	① ア) 毎職員会議時に基本理念の唱和 ② ア) 神戸聖隷ハンドブックを活用した学習会・意見交換会の実施 (8月・10月・12月・2月) イ) 接遇ハンドブックの読み合わせ開始 (1月)	○
キリスト教福祉の理解	<b>①キリスト教福祉講座及び理念研修への参加</b>	ア) 職員会議にて小西牧師による礼拝・メッセージ (5月～毎月) イ) キリスト教福祉講座参加 (9月・10月・11月)	○

2. 出来た事案  
特にありません。



## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 さくらの苑  
施設長 掃部 久美代

さくらの苑は、新天地にて2年が経過しました。竹田地区でお世話になっている「さくらの苑」を知っていただくために地域の方々との交流行事に参加させて頂き、さくらの苑地域貢献委員会を中心に計画している内容について、日々取り組んでまいりました。

5月は1周年記念行事を、さくらの苑で地域の方との交流を中心に楽しいひと時を過ごすことができました。定期的に行われているお楽しみ会老人会、元気老人会と各地域で開催されているミニデイにも参加させて頂き、情報交換することで地域の方の声を聞き、ニーズ把握をすることができました。そして、さくらの苑の窓口相談に来られ、さくらの苑としての役割が少しずつではありますが、現れて来るようになりました。さくらの苑周辺のゴミ拾いに参加し、地域への行事等に参加し、顔馴染みになることや認知症キャラバンメイト研修に参加し、認知症サポーター養成講座を開催し、地域作りに取り組む等ネットワークの構築を目指していきたいと思っております。

利用者満足度調査、アセスメントを実施し、利用者に合わせたカリキュラム作りを行い、利用者主体の支援と安心・安全に利用できる環境を提供し、信頼され親しまれる施設として運営してまいりました。

しかし、検討すべき課題もみつき、利用者の常時見守りや転倒リスクへの対応など業務負担は増えています。これまで以上に多職種間の連携が求められ、現状の施設の課題を施設職員と共に共有し、顧客サービスの向上と健全な施設経営を目指していきたくです。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
・地域住民の困りごとの調査 ・ボランティアの受入れから育成までのシステムを確立 ・地域とのつながりの充実	<b>①地域の方の声を聞き、ニーズ把握を実施</b>	ア) 上町区と新町区の区長と民生委員の方と調査方法等について情報交換 (7～3月) イ) 上町区ミニデイにてアンケート実施 (5月) ウ) ニーズ調査を基に多目的室の開放 (1月～) エ) 新町区の体操に参加、情報交換 (10月～) オ) 地域住民の見守り実施 (3月)	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>・地域住民の困りごとの調査</p> <p>・ボランティアの受入れから育成までのシステムを確立</p> <p>・地域とのつながりの充実</p>	<p>①ボランティアの育成と活動支援</p> <p>②ボランティアマニュアルの作成・運用</p>	<p>①</p> <p>ア) 認知症キャラバンメイト研修 3 名受講 (6 月)</p> <p>イ) 中川小学校キッズサポーター養成講座開催 (6 月)</p> <p>竹田小学校認知症サポーター養成講座開催 (2 月)</p> <p>米屋町地区にて認知症サポーター養成講座開催 (8 月)</p> <p>新町地区にて認知症サポーター養成講座開催 (3 月)</p> <p>ウ) 新規ボランティア受け入れ個人 1 名 (8 月)、3 団体 (10、11、2 月)</p> <p>ボランティア受け入れについて委員会で話し合い (10～2 月)</p> <p>②</p> <p>ア) ボランティア受け入れ規定の作成 (8、9 月)</p>	○
<p>・地域包括ケアシステムを学び知識を身につける</p> <p>・介護予防事業の充実</p>	<p>①行事の計画、実施、評価</p> <p>②余暇活動の計画、実施</p> <p>①知識を活かした計画の立案</p> <p>②家族介護者交流事業の準備・実施</p> <p>①社会資源の開発・運用準備</p>	<p>①</p> <p>ア) 苑全体とユニット毎の行事計画を立案、実施、評価 (4、5、8、9、10、11、12 月)</p> <p>②</p> <p>ア) 委員会にて余暇活動の検討とボランティア委員との連携 (4～1 月)</p> <p>①</p> <p>ア) 新町区元気会との交流会をさくらの苑で実施 (6 月)</p> <p>イ) 米屋町認知症勉強会の開催 (11 月)</p> <p>②家族介護者交流事業の準備・実施</p> <p>ア) 地域貢献部会但馬地区と協力し、計画・準備 (5～8 月)。実施 (8、11、1、3 月)</p> <p>ア) 地域ケアスタッフ研修会に 5 名参加 (6 月)</p> <p>イ) 地域福祉専門ゼミナールに 1 名参加 (9 月)</p> <p>ウ) 生活支援のボランティアの受け入れ開始 (11 月)</p>	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
・地域サポート型施設への参入	①地域サポート型施設への参入準備	ア)委員会にて情報共有を実施(4、5月) イ)参入に向けた準備(6、7、8、9月) ウ)情報収集と委員会内での検討(10～3月)	○
・事業所の特長やサービス内容をわかりやすく伝える事の出来る	①パンフレットの内容検討と作成	ア)委員会と業者と内容検討し、完成・配布開始(9月)	◎
・パンフレットの作成・配布 ・施設見学の柔軟な受け入れと施設案内の実施	①見学マニュアルの内容検討と作成	ア)HP作成時に見学案内についての記載(8、9月) イ)入所申し込み者や短期入所と通所介護利用希望者の見学実施(4～3月)	△
	①入浴介助リフト導入に向け資金の確保	ア)職員会議にて職員へ周知(4月) イ)利用実績の確認(4～3月)	○
・安定した収入の確保 ・経費削減 ・目標値に沿った積立金の確保	①空床期間の短縮 ②居宅介護支援事業所へ情報収集	① ア)入所判定委員会の開催(4～3月) イ)空床期間平均日 12.3日 ② ア)毎月初めに事業所へ訪問し、入所・短期入所・通所介護の利用希望者の情報収集実施(4～3月)	△
	①他施設に資金面で頼らない経営力をつける	ア)2018年度の加算条件の確認(4月) イ)利用率、実績、光熱水費の確認(4～3月)	△

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種マニュアルの更新及び作成</li> <li>・ 先進施設の取り組みを学ぶ</li> </ul>	①第三者評価の受審	ア) 10 月受審に向けマニュアルの準備 (4～9 月)・実施 (10 月) イ) 評価報告会 (1 月)	○
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセスメントを実施し、個々を知り、個々のニーズを把握した支援の実施</li> </ul>	①24 時間シートの運用開始 ②利用者満足度調査の実施	① ア) 運用に向けて担当ごとに作成 (4～9 月) イ) 家族様へ配布 (10 月) ウ) シート運用と見直し (11～3 月) ②利用者満足度調査の実施 ア) 満足度調査実施 (12、1 月)	○
	①利用者の地域参加	ア) 地域の行事へ参加 (4、8、10 月) イ) ミニデイへ参加 (4～3 月) ウ) 竹田地区内ゴミ拾い実施 (6、8、9、11 月)	○
	①自立支援 (ADL や認知症の改善)	ア) アセスメントを実施、利用者に合わせた役割の構築、余暇活動の充実による認知症状の安定 (4～3 月) イ) 生活リハ、機能訓練の実施 (4～3 月)	○
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的な研修の実施</li> <li>・ 人事考課制度の継続、浸透</li> <li>・ エルダ一制度の活用</li> </ul>	①各事業所の課題を把握し、課題にあった研修に参加 ②内部研修年間計画	① ア) 外部研修会へ延べ 97 名参加 (4～3 月) ② ア) 内部研修へ延べ 54 名参加 (4～3 月)	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
・ 計画的な研修の実施 ・ 人事考課制度の継続、浸透 ・ エルダー制度の活用	①ユニットリーダー研修、喀痰吸引研修等の受講 ②資格取得の研修参加	① ア)ユニットリーダー研修 2 名 (9、10、11、12 月) イ)喀痰吸引 2 号研修 1 名 (8、9 月) ② ア)認知症実践者研修参加 (7、8、9 月) イ)実習指導者講習会参加 (2、3 月)	○
	①人事考課制度の継続 ②エルダー制度の活用	① ア)毎月各職員の目標進捗状況の確認実施 (4～11 月) イ)進捗状況に応じたアドバイスの実施 (4～11 月) ウ)評価の実施・面接実施 (1～3 月) ② ア)新規正規職員 4 名と臨時職員 6 名のエルダー実施 (4～3 月) イ)習熟度チェックシート活用 (4～11 月)	○
・ キリスト教福祉の理解 ・ 法人基本理念を学び、理解を深める	①理念研修、キリスト教福祉講座に参加	ア)小西牧師による理念勉強会を開始 (9～3 月) イ)法人ハンドブックを活用した理念勉強会の実施 (7～3 月) ウ)キリスト教福祉講座に 2 名参加 (9、10、11 月)	○

## 2. 出来した事案

- (1)「短期入所利用者の受け入れに関して、職員の言葉かけ等でさくらの苑に対して不信感を持たれ、施設へ苦情として訴えられた件」(4 月)

短期利用者の方が利用中、体調不良となられ、家族に連絡させていただくが、家族の要望を十分にお聞きすることなく、また、言葉かけの対応も悪く、家族が不信感を持たれ苦情として連絡してこられました。

直ぐに謝罪の連絡をさせていただき、何度となく話しをさせていただき、また、常務理事との対応にてその後ことなく至っております。

苦情の内容を把握し、関係者含めて分析を行い、注意しなければならないこと等施設全体に周知いたしました。また、内部研修等計画し、職員のスキル向上に努めて参ります。

(2) 入所利用者の介助中の事故（7月）

車いすからベッドに移乗介助する時、左足膝骨の骨折。

利用者の異変に気づき、直ぐに医療センターを受診し、入院となり、手術をされました。今は、退院されベッド上での生活が中心となっていますが、通常通りの生活をしておられます。しかし、家族はこの事故に対して介護する際の責任、要介護者の立場に立った介護を行っていただければ防げた施設事故であると言われ、今まで通りの生活ができなくなったことは重大な問題であると納得されておられず、話し合いをする中で、現在は保険会社を通じて、話しを進めさせて頂いています。

事故後、直ちに事故の分析と対策を検討し、施設全体に周知し再発防止に努めています。

(3) 通所利用者の転倒による事故（12月）

歩行器移動時、転倒される左大腿骨骨折。

歩行器にて自力でトイレに行かれる際、転倒され、直ぐに医療センターを受診し、入院手術をされました。しかし、家族より事故当日の緊急対応の判断について危機管理体制に不安を感じられ、また、事故後の対応が十分でないことに立腹されました。

直ぐに謝罪と話し合いをさせていただき、理事の方々にも対応していただきました。その後ことなく至っております。

直ちに事故の分析と苦情の内容を把握し、関係者を含めて分析を行い職員会議、ユニット会議等で周知いたしました。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 恵生園

施設長 田路 松代

第3期中期計画の2年目として、昨年度に準備してきたことを実行に移す年となりました。特に日中活動の見直しでは、ご利用者の今後の生活をさらに豊かに送って頂く事を目的として、スポーツ・調理・音楽・創作・園芸の5つの活動を開始しました。週替わりでの活動提供を行っています。今年度は、参加を希望されるご利用者で行ってききましたので、参加に偏りがありました。次年度は更に一人でも多くのご利用者が活動に興味を持っていただけるよう進めていきます。そして、恵生園で40年来行ってきたゴミ袋製造作業の終了時期を2019年12月と決定し、受注先の南但広域行政事務組合の承諾を得ました。作成工程での高リスクの作業を別事業所へ移行し作業活動を縮小するのではなく、これまで作業に関わられてきたご利用者へ新たな作業提供を行う為、新規作業を現在試行しており前向きに検討していきたいと考えています。

ご利用者の高齢化による身体機能の低下で、平均障害支援区分が4となり、次年度より職員配置基準が5:1と変更になります。配置数変更をみこし支援業務の見直しを行い、職員の日勤勤務形態を変更いたしました。ご利用者の転倒防止と残存機能維持の為毎日リハビリ支援を26名実施して参りましたが、転倒による救急搬送や骨折が相次ぎ、ご利用者にも危険予知の勉強会の必要性を感じています。また、昨年度のインフルエンザ蔓延のリスクを踏まえ、感染症流行期から毎日2回検温を実施しました。風邪症状のある方については早期受診と4人部屋から個室へ部屋替えをし、感染拡大防止に繋がりました。感染流行期を終えても継続して検温を実施し、体調の変化の把握に努めていきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの抽出	<b>情報発信</b> ①機関紙「しあわせ」発行(2回/年) ② SNS(ホームページ・パンフレット・ブログ)発信 ③ あったかプラザを活用した情報発信	① ア) 機関紙「しあわせ」発行(12月) ② ア) ホームページ新様式(9月) イ) ホームページ更新(4回/年) ウ) パンフレットデータ更新(4月) エ) facebook 更新(6.8.10.12.2月) ③ ア) フォトフレームを活用したイベント情報発信	○
	<b>地域ニーズの把握</b> ① アンケート内容検討・調査実施	① ア) イベント時にニーズ調査実施(5月～9月 81名、10月 51名) イ) 地域交流部会と合同でグラウンドゴルフ大会時にニーズ調査実施(5月 75名)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの抽出	<b>地域ニーズの把握</b> ①アンケート内容検討・調査実施 ②他施設のアンケート結果内容検討と対応	㊦ アンケート結果をイベント内容に反映(1月～) ㊧ アンケート結果におむつ交換ベッド設置要望に対し、朝来市へ設置要望し整備完了(2月) ② ㊦ 地域交流部会にて他施設のアンケート結果を情報共有し検討会実施(6.7.9月) ㊦ 地域ニーズにより盆踊り大会に協賛(8月)	○
地域貢献への取り組み	<b>地域交流の開催</b> ①イベント計画・実施・振り返り(1回/月) ②メニューの見直し	① ㊦ あったかプラザで毎月イベントを開催 ・折り紙(5月：10名) ・お抹茶体験(6月：23名) ・脳トレ体操(7月：15名) ・クッキング教室(8月：23名) ・手芸「お地藏さん」(9月：10名) ・脳トレ体操(10月：19名) ・押し花/しおり作り(11月：14名) ・Xmas ツリー作り(12月：15名) ・オセロ・かるた大会(1月：21名) ・脳トレ体操(2月：15名) ・あったか定食提供(4～9月129食、10～3月139食) ② ㊦ 新メニュー実施と価格見直し検討 ・親子丼(4月～) ・アイス・パインパフェ(7月～) ・ハンバーグ定食(11月～) ・メニュー価格・見直し検討会議(8月.2月)	◎
外部向けマニュアルの作成	<b>外部者への対応</b> ①施設見学者・来訪者対応・ボランティア受け入れマニュアルの作成	㊦ 来園者受付マニュアル作成周知と実施(8月) ㊦ 電話対応マニュアル作成(7月)周知と実施(8月) ㊦ ボランティア受け入れマニュアル作成(10月)周知と実施(11～3月)	○



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
安定した介護給付費の確保	<b>定員の充足</b> ①相談支援事業所等へ空床情報提供と情報収集 (1回/月) ②入所受け入れ検討委員会の開催・職員間情報共有	① ア) 事業案内送付(4月:13市町村) イ) 空床情報案内送付(14相談事業所/毎月) ② ア) 入所受け入れ委員会(4.6.7.10月) イ) 入所、短期入所前に利用者情報とアセスメントシートを職員に個別配布し情報共有 ウ) 利用希望者訪問面談(3件)、体験利用(2名)	○
	<b>確実な積立</b> ①経営進捗状況報告	ア) 職員会議にて目標値達成状況表(利用延人数・給付費)配布、周知 イ) 目標件数の確認(5.6.7.8.10.12.3月)	◎
無駄の排除と固定費の削減	<b>無駄の排除</b> ①新たな消耗品の見直し 整理による物品管理 ②経費削減への具体的な検討・取組み	① ア) トイレトペーパーの試用による商品見直し検討(7月) イ) 物品庫整理(10~12月)、消耗品在庫確認 ② ア) 事業所ゴミ(作業排出)処理を産廃業者と契約(5月) イ) リサイクル資源ゴミ、不燃ゴミを処理施設へ持ち込み処分(11回/年)	○
建物改修と居住環境の向上	<b>建物改修</b> ①屋上防水、浴室改修の実施 ②外壁工事時期の検討	① ア) 工事入札・請負契約締結(4月) イ) 工事着工(5/21) ウ) 工事完工検査(7/31) ② ア) 外壁工事実施時期の園内検討(2019年度)	◎
	<b>QOLの向上</b> ①利用者にとって魅力ある施設づくりの検討・改善 ②満足度調査の実施	① ア) 作業場にデータ通信テレビ設置(12月) ② ア) ご家族向け職員の接遇調査実施(7月:37名回答) イ) 利用者満足度調査実施(9月:57名回答)	○
新たなサービスの提供	<b>新たなサービスの提供</b> ①送迎支援の拡充 ②在宅者向けサービスの検討・実施	① ア) 短期利用の事業所間送迎サービスの開始(5~9月15件/延、10~3月12名/延) ② ア) 施設見学会実施(8月:44名参加)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
日中活動全般の見直し	<b>製袋機を和生園へ移設</b> <b>①和生園と移設時期の決定</b> <b>②ご利用者ご家族へ説明</b>	<b>①</b> ア) 和生園と合同会議開催(5.6.7.9月) イ) 合同会議の結果、移設時期を決定(1月) ウ) 南但広域行政事務組合・朝来市社会福祉課・材料購入先業者へ説明、承諾(7~8月) <b>②</b> ア) 全体集会(4/2)、家族会総会(4/28)に和生園移設計画について説明(4月)	◎
	<b>日中活動の充実</b> <b>①活動回数の増、視覚障害者でも楽しめる活動の提供</b> <b>②他施設ご利用者との交流</b>	<b>①</b> ア) 日中活動の5項目を毎週木曜日の午前に提供開始(8~3月) イ) ワークホーム明友・小野起生園の日中活動見学(6月:4名) ウ) 知的障害者オープンカレッジ参加(4名) エ) 日中活動出席簿にて参加者集計延べ人数(創作105名、音楽61名、園芸60名、調理79名、スポーツ107名) <b>②</b> ア) 視覚障害者用オセロ盤購入(2台) イ) 新行事のオセロ大会に他施設のご利用者参加(8月:5名)	◎
標準化した支援の提供	<b>マニュアルの見直しと運用</b> <b>①各種マニュアルのリスト化と更新手順の周知</b> <b>②標準化マニュアルの作成</b> <b>③医療情報書の更新(1回/年)</b>	<b>①</b> ア) 支援マニュアル一覧表作成(10月) <b>②</b> ア) 更新が必要なマニュアル(35件)を確認し更新について役割分担を実施(5月) イ) 支援マニュアル59項目更新、配布(2月) ウ) 防犯マニュアル(標準・案)の作成(12月) <b>③</b> ア) 医療情報書の更新(4~9月:34名、10~3月:34名)	◎
事故防止対策の強化	<b>事故対策と防止策</b> <b>①早期の感染症予防対策実施及び救急時の対応習得</b>	<b>①</b> ア) ノロウィルス対応マニュアルの作成と勉強会の開催(9月) イ) 感染症流行期、全体集会にて手洗い方法の説明・注意喚起(11月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
事故防止 対策の強化	事故対策と防止策 ②事故ヒヤリ報告の検 証と防止策の検討・ 対応	② ア) 月初めのミーティングにて前月の事故、 ヒヤリハットの情報共有、発生傾向を注 意喚起(4~3月) イ) ADLの維持・向上、転倒防止の為、理学療 法士による福祉用具の使用指導(24名)	○
虐待・不 適切ケア の検証と 対策	身体拘束ゼロの理解と 取組 ①身体拘束検証、防止 策検討・実施	ア) 身体拘束状況一覧表の更新(4.11月) イ) 身体拘束承諾書署名(4月:センサーマ ット使用者1名、9月:4本柵・腰ベル ト使用者1名) ウ) 身体拘束解除検討会議の開催 (4.1.3月) エ) 身体拘束勉強会実施(5月) オ) 4本柵使用拘束解除(2月:1名)	○
	個人情報保護の取り組 み ①個人情報書類の確 認・一覧表による管 理	ア) フェイスシート更新完了(5月) イ) 保管期限過ぎの書類整理(5月) ウ) 個人情報書類管理一覧表作成(5月) エ) 個人情報保護勉強会実施(8月)	○
	虐待防止の取り組み ①不適切ケアについて 考える場の設定 (1回/月)	ア) 虐待防止勉強会実施(5月) イ) 虐待・不適切ケア判定基準表勉強会実施 (5月) ウ) 「虐待・不適切ケア判定基準表」訪問学 習会事前事例検討会実施(8月) エ) 虐待チェックリスト実施(9.2月) オ) 虐待不適切ケア判定基準表:訪問学習会 開催(10月) カ) 支援の振り返り会議開催(11.12.1月)	○
成年後見 制度利用 の推進	制度理解 ①成年後見制度勉強 会・研修会の開 (2回/年)	ア) 家族会合同成年後見制度開催(9月:家族 15名出席) イ) 職員会議で利用者の成年後見制度利用状 況と学習会実施(2月) ウ) 成年後見制度利用(後見2名)	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
誰もが発言できる職場づくり	<b>自主的ミーティングの開催</b> ①ミーティングの開催（1回/週）、対応策の実施、振り返り ②情報共有方法検討	① ア)週1回（各30分）のミーティング開催（4～9月22回69件、10月～3月37回62件）事案に対して対策の検討・実施・振り返り <b>【内容】</b> 事故・ヒヤリハット検証、業務改善提案、マニュアルの見直し、支援方法の検討・情報共有の実施 ② ア)ホワイトボードを活用した情報共有の開始（5月）	◎
	<b>業務の見直し</b> ①個々の業務・各種担当の見直し	ア)残業削減に向けた取組み開始（5月） イ)リフレッシュ休暇取得（11名取得） ウ)業務改善アンケート実施（8月） エ)業務改善会議の開催（9, 11, 12, 1月） オ)日勤勤務時間の変更開始（10月）	◎
リーダーの育成と新人の育成	<b>指導者の育成</b> ①研修参加とOJT実施 ②体験学習での指導者育成（手話の新規指導者1名）	① ア)OJTによる育成実施（4～6月：2名、10～11月：2名） イ)次年度OJT実施者2名の確認と書式変更の検討（3月） ウ)外部講師によるOJT研修実施（9～3月：全5回シリーズ/6名） ② ア)体験学習への講師派遣：点字（5、6月）、手話（9月）、視覚障害者手引き講師（7、9月） イ)手話・点字の次期指導者の体験学習への参加（2名）	◎
障害支援記録システムの運用	<b>記録支援ソフト運用</b> ①ケアパレットの活用 ②統計に基づいた支援	① ア)撮影機能を活用し受診時に詳細な状況報告を実施（6月） イ)撮影機能を活用し、他施設の環境情報を利用者へ提供。PT指導内容をミーティングで共有（7月） ② ア)ケアパレットを活用して毎日体温記録開始（1月） イ)日中活動参加者の傾向把握（8～12月）	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
専門知識・技術・記録能力のアップ	勉強会の開催 ①勉強会の開催 (3ヶ月に1回)	ア) 外部講師による OJT 研修の開催: 恵生園 6 名、他施設より 3 名の参加 (9、10、11、12、3月) イ) 研修での振り返り会議実施(3月) ウ) 勉強会開催(5~3月) (個別支援計画、身体拘束、視覚障害・点字、OJT、個人情報、リスクマネージメント、防災対応力、ノロウイルス、人権研修、理念、成年後見制度)	◎
法人基本理念・キリスト教福祉の理解推進	法人基本理念・キリスト教福祉の理解・推進 ①神戸聖隷ハンドブック等を活用したグループディスカッションの実施 ②牧師によるキリスト教福祉の理解 (1回/月)	① ア) ハンドブックを活用したグループディスカッションの開催(5~9月: 25名、10~3月 22名、9回) イ) 越智顧問による歴史勉強会実施(4名) ② ア) 職員朝礼・全体集会で牧師メッセージ聴講(11回/毎月) イ) 開園記念日に牧師による講話(6月)	◎

## 2. 出来した事案

### (1) 恵生園相談事業所のモニタリング実施方法について

2/21、相談者から計画相談のモニタリング実施方法について苦情申し出を受け付けました。相談者から朝来市社会福祉課へも恵生園相談支援事業所の対応について苦情申し出をされており、3/14「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年法律第123号)第10条第1項に基づき実地指導を受けました。3/29朝来市社会福祉課へ改善書提出後、4/2相談者に改善回答します。(継続)

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 真生園

施設長 大橋 幸司

2018 年度は、介護支援用ロボット HAL®の導入、ナースコール更新、昨年導入した記録ソフトの更なる活用として、Wi-Fi を活用した見守りセンサー(眠りスキャン)等の導入等、職員の身体への負担軽減そして業務の効率化に加え、重度化するご利用者へのきめ細かな対応として安心安全な支援の在り方を考え、より良い支援へ繋げることができています。

地域の視点では、個別外出支援や地域行事への参加、ユニットの取組みとしてプランターに育てた花を竹田地区の店舗等に置かせていただき交わりの機会をもつ等、積極的に地域参加をいたしました。QOLの視点では、平日週5日実施する日中活動プログラムを作成掲示し、個々が選んで参加することのできる機会の提供や余暇活動としての月1回のおやつ作りは、作る楽しさと味わう喜びを感じられ多くの参加があり、満足度調査でも好評価が得られています。又、3月にはレクレーションの新たな機器を試験導入し、観る・歌う・体を動かす・遊ぶといった新たな楽しみもスタートさせています。財務の視点は、目標とする利用率は達成し積立も実現いたしました。長期入院も多く退所後の欠員補充が非常に難しい状況が続きました。人材育成については、エルダー制のマニュアルを更新し新採用職員への育成に活用し取り組むことができています。また、繰り返されるリスクの中でも服薬事故0週間への取組みや研修は成果が見える状況となっています。

ただ今年度後半は、職員確保に苦慮し早急な対応が課題となっています。あらゆる方法で人材確保に取り組めます。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
利用者が地域に出ることで地域と繋がりを作る	利用者外出 ①竹田地区(行事等) へ利用者が積極的に外出	ア) 竹田地域へ外出(18名) イ) イオンへ外出(64名) ウ) 地域行事へ外出(13名) エ) 竹田地区新店舗案内ポスター作製・掲示 オ) 竹田地区散策マップ作製・掲示 カ) 地域店舗等へ向日葵などの花のプランターを配布	◎
地域から望まれるニーズ調査に取り組む	①南但自立支援協議会に参加し情報収集	ア) 南但馬自立支援協議会出席し南但馬の情報を収集(10回) イ) 竹田地域へ職員が積極的に出向き、公共施設や店舗で利用者が利用しやすい環境かを検証、また情報を収集	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
利用者の確保・待機者確保	<b>利用者・待機者確保</b> <b>①市町・相談支援事業所・病院等へ情報収集</b> <b>②地域ニーズに対応した受け入れを実施</b>	<b>①</b> ア) 入所者確保 (4月1名・6月1名・10月1名・12月1名) イ) 入所希望者見学・面談 (5名) ウ) 体験利用 (2名) <b>②</b> エ) 和田山特別支援学校卒業生 (1名利用) オ) 地域の重度医療障害者利用 (1名利用)	○
新規サービスへの取組み(地域ニーズを把握)	<b>地域ニーズに合わせた新規サービスの実施</b> <b>①旧さくらの苑の維持管理と方向性を確定</b>	ア) 旧さくらの苑の日々の清掃実施・巡回点検実施 イ) 但馬地区施設連絡会にて、旧さくらの苑の今後の活用について意見集約し、常任理事会にて報告 ウ) 黒田建築設計事務所が旧さくらの苑の現地確認と見積り依頼実施 エ) 2019年度浴室改修工事に関わる仮設浴室を旧さくらの苑で検討調査実施	◎
重度高齢化に伴う入院予防対策	<b>口腔ケアの見直しと継続</b> <b>①個々の口腔ケアの現状把握・改善</b>	ア) 歯科検診実施 (58名) イ) ブラッシング指導実施: 9月 (4名) ウ) ST指導実施3月 (9名)	◎
	<b>感染症予防研修の実施</b> <b>①感染症予防研修実施</b>	ア) 嘔吐物処理物品の確認・補充、感染症マニュアルの見直し実施 イ) 感染症予防研修会開催: 5月 (朝来健康福祉課の保健師による指導) ウ) 加湿器追加 (1台)	◎
	<b>診療所によるフォロー</b> <b>①定期健診に基づくフォローと緊急時の早期処置・判断を実施</b>	ア) 健康診断実施 (59名) イ) 定期健診結果説明と面談実施 ウ) 随時、利用者急変時の処置と判断を実施 エ) 緊急時の早期対応に関する面談実施 (2名) オ) インフルエンザ予防接種実施 (利用者・職員) 罹患者なし	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
継続した積立金の確保と経費削減	<b>積立金確保・経費削減と把握</b> ①利用定員を確保し、年 3000 万円を積み立てる ②月別水道光熱費・物品の集計	① ア) 積立金 3000 万円の積立実施 ② ア) 毎月、職員会議にて水道光熱費を報告し経費削減への意識づけを実施 イ) 消耗品等の在庫管理・価格管理を実施 ウ) 施設の設備点検を実施し、より安価で修繕できるよう業者との調整を実施	◎
意思疎通できない利用者の方にも、その人らしい生活を送って頂ける支援を提供します	①利用者主体の支援の追求（グループ研究発表）	ア) 4 月から研究グループ 4 チームを結成し「利用者主体の支援と地域貢献」をテーマに取り組み実施 イ) 職員会議時に、毎回各チームより進捗状況報告実施 エ) 真生園研究発表会実施 オ) 法人総合職員研修参加（北寮）	○
利用しやすい施設作り	①運営会議・懇談会・食事委員会の開催（月 1 回） ②アメニティの充実 屋上防水工事の実施	① ア) 運営会議実施（12 回） イ) 衛生委員会実施（10 回） ウ) 懇談会実施（12 回） エ) 食事委員会実施（12 回） オ) テーマ食、誕生日食を毎月実施 カ) 行事食の提供実施（七夕、鍋パーティー） ② ア) 屋上防水工事完了（7 月末）	◎
日中活動プログラムの検討と実施	<b>日中活動の充実</b> ①日中活動の実施マニュアル作成 ②利用者満足度調査実施し、課題の抽出と改善	① ア) 日中活動マニュアル作成 イ) 日中活動プログラムを作成し利用者に分かりやすく掲示実施 エ) 職員紹介ポスターの作成 ② ア) 満足度調査実施（10 月） イ) 利用者の希望に応じたプログラムを実施	◎



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
IT、ロボットプロジェクトチームを立ち上げ、ロボット導入を目指す	<b>職員の身体的な負担を軽減</b> ①介護ロボット導入を目指す	ア) 介護支援ロボット HAL 導入 (5月) イ) 見守りセンサー2台導入(8月)、センサー2台追加導入(1月) ウ) 介護支援ロボット HAL の安全講習会を実施 エ) HAL 用センサーベルト 2本追加購入実施 オ) HAL 使用職員全員 30時間達成(1月)	◎
業務の効率化 1) ナースコールのIT化	①ナースコールの更新・運用	ア) ナースコール更新工事完了(7月) イ) ナースコール PHS 運用開始(8月) ウ) コール対応業務から新たな業務体制の検討実施 エ) 記録ソフトシステムとの連携について、業者へ調査実施	◎
業務の効率化 2) 障害支援記録システムの導入	①記録システムの定着	ア) 職員、利用者の情報更新 イ) iPad 転送バイタル機器導入 ウ) 記録システムPC 1台・iPad 1台追加導入 エ) 記録システム勉強会参加 オ) 記録システムの個別指導随時実施	◎
IT、ロボット等に関する情報を地域へ発信	①施設の最新情報を地域へ発信 ②最新情報をホームページに掲載	① ア) ホームページ説明会に参加(5月) イ) フェイスブック IT ロボット記事投稿(6月) ウ) 機関紙 132号発行準備 ② エ) 施設ホームページリニューアル	○
エルダー制のシステム見直し	①エルダー制の修正版マニュアル作成 ②更新されたエルダー制を実施	① ア) 習熟度チェック表を新人職員へ配布し、各担当エルダーにて評価を実施 イ) 新任職員の技術習得状況の確認と振り返り面談を各担当エルダーにて実施し、振り返り結果を生活委員会で共有 ② ア) エルダー制の更新マニュアルを活用(3月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
継続した 専門研修 への参加	<b>職員の資質向上</b> <b>①専門的外部研修の 参加と情報共有</b> <b>②サービス管理責任 者・喀痰吸引等に係 わる資格取得</b> <b>③法人内研修への参 加</b> <b>④法人研修助成制度 を活用した職員の 外部研修・資格取得 を奨励</b>	① ア) 福祉人材基礎研修参加 (5月) イ) 但馬長寿の郷介護基礎研修参加5名 ウ) 全国障害者協議会研究大会参加3名 エ) 経営計画策定リーダー研修参加1名 オ) 防災対応力向上研修参加2名(8月) カ) 虐待対応力向上研修参加1名(9月) キ) 高次脳機能障害研修参加2名(3月) ② ア) サービス管理責任者研修参加1名 イ) サービス管理責任者研修参加(11月) ウ) 喀痰吸引研修参加1名(7月・8月) エ) 喀痰吸引の実務研修実施中1名 ③ ア) 新任フォローアップ研修参加2名(4月) イ) 理念研修参加1名 ウ) 一般職員ビジネスマナー研修参加1名 エ) 主任副主任研修参加(全主任副主任) オ) 一般職員研修Ⅰ参加1名 カ) 一般職員研修多職種連携参加1名 キ) 普通救命講習会参加3名(9月) ク) 主任副主任OJT研修参加2名(10月) ケ) 中級一般職員研修Ⅱ参加(10月) コ) フォローアップ研修2名(10月) サ) 中級一般職員研修参加(12月) シ) 法人総合職員研修参加7名(2月) ④ ア) 介護福祉士実務者研修2名(6月) イ) 管理栄養士受験対策講座1名(3月)	◎
清潔感が あり働き やすい服 装へ見直 す	<b>ユニフォームの改善</b> <b>①業務中の服装につ いて課題と改善を 検討</b> <b>②統一した制服に更 新</b>	① ア) ユニフォームの目的・内容・価格の確認 イ) 職制会にてユニフォーム導入に向けた プロジェクトチームと選定業者による導 入内容のプレゼン実施 ウ) 各部署にて、制服サンプル試着実施 ② ア) ユニフォーム更新検討を継続	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
リスクマ ネジメン ト対策の 強化	<b>リスクマネジメント 対策の強化</b> <b>①リスクマネジメン ト委員会の開催</b> <b>②リスクの検証・評 価・共有</b>	① ア) リスクマネジメント委員会実施（毎月） イ) 事故報告書・ヒヤリハット集計方法の マニュアル作成 ② ア) ヒヤリハットBOX の設置（6月） イ) 欠食届を食堂に設置（6月） ウ) 食事選択メニュー：食札の色分けマニ ュアルの掲示（6月） エ) 服薬事故防止ポスター掲示と組み 組みを実施（7月） オ) 服薬事故0週間実施（10月・11月・12月 1月・3月） カ) 配薬、服薬マニュアルに基づいた個別指 導実施（12月） キ) ヒヤリハット件数 186 件/年 ク) 事故件数 172 件/年	◎
管理医師 との協働	<b>衛生管理の継続とフ ォロー</b> <b>①衛生委員会の開催</b> <b>②職員へのストレス チェックとフォロ ー（田中医師）</b> <b>③ノー残業デーの実 施強化・有給休暇利 用促進</b>	① ア) 管理医師を交え衛生委員会実施（毎月） イ) 衛生委員会での意見から、ノー残業デーの曜日変更を検討（10月より木→金に変更） ② ア) ストレスチェック実施とフォロー（9月） ③ ア) ノー残業デー実施（毎週） イ) 有給休暇5日取得に向け、リフレッシュ休暇（3日）と誕生日休暇（2日）の実施 ウ) 次年度に向け、有給休暇5日間の取得希望調査実施（3月）	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
基本理念とキリスト教福祉を学ぶ	<b>基本理念の理解</b> ①地の塩伝道所牧師によるメッセージ（月1回） ②基本理念を学び、神戸聖隷の歴史を知る ③神戸聖隷ハンドブックの活用	① ア) 小西牧師による朝礼メッセージ実施（毎月） ② ア) 越智顧問による神戸聖隷歴史講座実施（6月・10月） ③ ア) 小西牧師による神戸聖隷ハンドブックの解説と意見交換実施（8月～3月） イ) 神戸聖隷ハンドブックを朝礼時に唱和	◎
	<b>キリスト教福祉の理解</b> ①キリスト教福祉講座への参加 ②理念研修(浜松・タイ)への参加（各1名）	① ア) キリスト教福祉講座参加2名（9月・10月・11月） ② ア) タイ研修事前研修体調不良にて不参加 イ) 他法人理念研修参加1名（6月・1月）	○

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 和生園

施設長 松本 雄二

第3期中期計画を実践するうえで、これまで以上に地域へ目を向ける取り組みを行いました。また、各事業の抱える課題に対し少しずつでしたが取り組み、成果を得ることができました。

和生園の作業面では、主力作業である㈱セイバンの肩ベルト生産数の減少に対して、小泉製麻(株)の作業を継続して実施するとともに、朝来溶工の作業を増産することで対応することが出来ました。

第2和生園での生産作業においては、城崎温泉ライスサブレの安定的な受注に加え、ゆば製品の委託生産や地域イベント等での販売を積極的に行い、売り上げの安定に繋げることができました。また、市内事業所と連携をしてふるさと納税返礼品への登録や市役所庁舎内での販売へ向けた協議を行い、製品の認知向上に努めました。

就労移行支援については、安定した作業受注による訓練と就労に向けたプログラムを提供し、1名が一般就労することができ、年度末には新たに1名をトライアル雇用に結び付けることが出来ました。しかし、一般就労された後の利用者の確保については、関係機関等へ情報提供を行いました。補充をすることが難しいのが現状となっています。

また、10月より開設した就労定着支援事業については、就労移行のみならず和生園(就B)から一般就労された既就職者への利用説明、指定申請手続き等を行いました。年度内の利用には至りませんでした。

グループホームもみの木・かしの木では、共同生活を行う上での利用者間の人間関係についての課題が山積しましたが、職員の的確な対応で関係改善に努めました。また、様々なニーズを持つ幅広い年齢層の利用者への適切な支援を目指し、関係機関等と連携し地域資源を活用しながらの個別支援を実施しました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
利用者が地域に出での活動	①資源回収等の地区行事への協力 ②地域清掃活動の継続 情報発信	① ア)秋葉台資源回収へ協力(5・10・2月) イ)朝来市一斉クリーン作戦に併せ、GH横空地の法面、和生園周辺の除草実施(6月) ウ)秋葉台夏祭りに出店協力(7月) ② ア)竹田駅周辺～円山川左岸歩道のゴミ拾い実施(1回/週)	◎
施設活動のオープン化	①ホームページの定期的な更新と、Facebookへの積極的な投稿	ア)Facebookへの定期投稿(5・10・2月) イ)児童対象イベントをFacebook投稿(8月) ウ)GH日帰旅行をFacebook投稿(11月) エ)和生園ホームページの更新(8月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
住民参加型イベントの実施	①児童対象イベントの開催	ア) 児童対象イベント(ビッグパフェづくり)を開催し、竹田地区児童 15 名参加(8月) イ) 竹田小学校 2 年生を対象とした、あさごドリームアップに事業協力(10月)	◎
年間目標値の達成	①年額工賃/20,000 円増によるモチベーションの向上 ②(旧)朝来町方面への送迎サービスの検討・開始 ③就労定着支援事業に係る情報収集と検討 ④障害支援区分の計画的な見直し申請の実施	① ア) 新工賃評価基準(案)を作成し、シミュレーションによる課題を抽出 イ) 2020 年度より新工賃評価基準の運用開始を決定(2月) ウ) 2018 年度平均月額工賃/22,023 円確定 ② ア) (旧)朝来町方面への送迎サービスはペンディングを決定(10月) ③ ア) 就労定着支援事業の開設に係る申請書類の提出(8月) イ) 既就職者 4 名へ就労定着支援事業の概要説明の実施(7月) ウ) 事業に係る関係機関との調整(11・12月) エ) 2 名と利用契約締結し支援開始(3月) ④ ア) 5 名の認定調査を受け 1 名が障害支援区分 2→3 に変更(平均支援区分 2.0)	△
魅力のある施設づくり	①高工賃に繋がる新たな作業の模索 ②楽しみのある生産(日中)活動の実施 ③生活訓練プログラムの見直しによる社会生活スキルの向上	① ア) 羽倉作業を導入するが、今期製造分で委託加工契約を終了(10月) イ) 小泉製麻/フロートカバー作業を増産(月産平均数 1100 枚) ② ア) ホットケーキ作り等の楽しみに繋がる余暇活動を毎月 1 回実施 ③ ア) 余暇活動支援を含む月次生活訓練プログラムを作成し、毎週木曜日に実施 イ) さくらの苑と合同ゴミ拾いの実施(10・11月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
魅力のある施設づくり	④GH利用者の日帰旅行の実施と全体行事(2回/年)の実施 ⑤利用者満足度調査の実施	④ ア)花見会を開催し12名参加(4月) イ)公共交通機関を利用した姫路への買い物外出に10名参加(8月) ウ)城崎マリンワールドへの日帰外出へ4名参加(11月) エ)GH利用者忘年会の実施(12月) ⑤ ア)利用者満足度調査の実施(1月)	◎
製袋作業を恵生園から移設	①製袋作業の受入れのビジョン化と移設に向けた準備	ア)恵生園と移設に係る合同協議(5・6・9月) イ)(旧)ノア建物内の不要物の処分(6月) ウ)2020年1月中旬に製袋機完全移設完了を方針決定(9月) エ)(旧)ノア建物改修費を次年度予算に計上(見積額1,170千円→1,280千円)	○
高工賃の維持と安定作業の確保	①年間を通じた小泉製麻作業の受注 ②授産製品の訪問販売 ③新製品の開発	① ア)小泉製麻本社を理事長と共に訪問(8月) イ)フロートカバーの月産枚数を800枚で設定し生産(月産平均数1,100枚) ② ア)竹田地区施設にて訪問販売を実施 イ)おいでやすカーニバルで出店販売(9月) ウ)地域イベントへの出店(10・11月) エ)自立センターひょうご家族会にて販売(11月) ③ ア)専門人材マッチング事業を活用し、新商品開発を進めることを方針決定	○
就労が困難と思われる知的障害者の受入れ	①個別スペースの設置による知的障害者の過ごしやすい環境整備	ア)個別スペース設置(案)に基づき、設置に係る見積額を確定 イ)第2和生園事務所にパーテーションと静養用簡易ベッドを設置し個別スペースを確保(3月)	○
障害者就労に関する横断的活動	①就労関係会議への参加(12回/年)	① ア)南但馬自立支援協議会しごと部会に参加(毎月第2火曜日) イ)就労支援ネットワーク会議へ出席(7・12・3月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
障害者就労に関する横断的活動	<p>②就職先の定期訪問による既就職者の状況把握</p> <p>③既就職者への余暇活動支援の実施</p>	<p>②</p> <p>ア) 就職先の訪問計画を作成し、毎月2名の既就職者の訪問を実施（述べ19名訪問）</p> <p>③</p> <p>ア) 就労移行の宿泊訓練に併せ、既就職者4名が余暇活動支援として参加（7月）</p>	◎
就労移行支援事業のアピール	<p>①企業訪問計画作成・訪問</p> <p>②リーフレット作成と企業向け説明会の実施</p>	<p>①</p> <p>ア) 企業訪問計画を作成し、既就職者の就職先を訪問</p> <p>②</p> <p>ア) リーフレット内容検討するも未作成</p> <p>イ) 就労支援セミナーにて参加企業へ事業所紹介を実施（12月）</p>	△
SST（社会生活技能訓練）プログラムの実践	<p>①SST（社会生活技能訓練）専門研修の参加とプログラムの実践</p>	<p>ア) 毎月1回、水曜日に SST（社会生活技能訓練）プログラムを実施</p>	○
将来に繋がる利用者支援の提供	<p>①必要に応じた成年後見制度の個別説明と選任手続き支援の実施</p> <p>②モニタリング時の情報提供（1回/6ヶ月）</p>	<p>①</p> <p>ア) 保佐人申立て支援を継続し、選任決定（12月）</p> <p>イ) 成年後見制度の活用を2名のご利用者に提案し任意代理契約を含む、制度活用に向けて取組む</p> <p>ウ) 家族より成年後見制度の選任に係る相談があり、支援準備を開始（3月）</p> <p>②</p> <p>ア) 年間モニタリング表を作成と併せ、随時利用者と面談を実施</p>	○
統一したマニュアル整備と周知	<p>①標準化マニュアルの整備</p> <p>②事業所内マニュアルの整理・整備・周知</p>	<p>①</p> <p>ア) 和生園、第2和生園、グループホームの現状の共有とスタンスを確認</p> <p>②</p> <p>イ) 総務関係マニュアル一覧表を作成し、事業毎に視覚化重視のマニュアルを更新中</p>	△



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
知的障害者の正しい理解	①専門研修の参加と伝達研修による支援への反映 ②障害特性に応じた支援方法の学習会の実施	① ア)SST(社会生活技能訓練)に係る伝達研修を職員会議で実施(5月) イ)相談面接技術研修へ2名参加(7・8月) ウ)相談支援従事者初任者研修へ1名参加(8月) エ)サービス管理責任者共通講義を2名受講し資格取得(9・11・12月) オ)ダウン症研修会に2名参加(1月) ② ア)利用者理解に繋がる事例検討会実施(12月)	○
ステップアップの為の職員支援	①内部研修への参加 ②内部研修への職員派遣 ③職員募集活動への協力	① ア)主任・副主任研修参加(5・9月) イ)一般職員研修参加(7月) ウ)課長研修参加(9・11月) エ)普通救命講習会参加(9月) オ)総合職員研修研究発表参加(2月) カ)成年後見制度基礎研修会に利用者と共に参加(3月) ② ア)新任職員研修見学の受入れ(4月) ③ ア)セレクションイン但馬へ1名派遣(6月) イ)ハローワーク放映用、法人紹介ビデオ撮影に協力(7月) ウ)朝来市事業所インタビュー協力(11月)	◎
法人理念の浸透	①年間聖句の掲示・共有 ②基本理念の唱和 ③理念研修への参加	① ア)年間聖句を掲示。毎月曜日の朝礼で唱和 ② ア)毎月曜日の朝礼時、職員会議時、世話人連絡会にて基本理念を唱和 イ)各事務所内に基本理念を掲示(5月) ③ ア)イエス団理念研修に3名参加(6月) イ)但馬地区キリスト教福祉講座受講(9・10・11月) ウ)神戸聖隷特別講演会に5名参加(11月) エ)浜松理念研修に1名参加(1月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
法人理念の浸透	④理事長講話の実施(1回/年)	④ ア)理事長講話の実施(10月)	◎
理念の利用者支援への落とし込み	①神戸聖隷ハンドブックを活用したOJTの実施	ア)毎職員会議時、神戸聖隷ハンドブックを全員で朗読(毎月) イ)神戸聖隷ハンドブックアンケートへ回答(3月)	○
ワーク・ライフ・バランスの向上	①業務の効率化によるノー残業デーの1日増 ②全職員の有給休暇平均取得率50% ③労務管理の徹底による時間内業務の完結	① ア)3ヵ月間の退勤状況を分析し、施設外就労に係る職員の退勤時間に課題がある事を確認 イ)次年度より、火曜日をノー残業デーに追加決定(2月) ② ア)有給休暇取得の推進を目的としたインフォメーションを毎月発行 イ)全職員の有給休暇取得率59.4% ③ ア)施設外就労に係る業務改善の必要性を共有し改善策の検討開始(9月) イ)施設外就労に係る職員の業務課題を施設外就労先と共有(12月)	△

## 2. 出来した事案

- (1) グループホーム利用者の無断外泊による朝来警察への届出と捜索について(7月・9月)  
グループホームかしの木Ⅱ利用者が7月に無断外泊され、3日目に朝来警察へ相談し行方不明者として捜索依頼を行ないました。本人へは支援課長、グループホーム支援員の2名で常にSNSにて連絡を継続させ、無断外泊から9日目に大阪市内にて朝来警察と共に保護に至っています。  
また9月にも同利用者が6日間無断外泊され、本人との連絡はSMSにてグループホーム支援員と出来ていましたが、帰ホームの意志が伺えなかったため、6日目に朝来警察へ再度の相談を行い、神戸市内にて朝来警察と共に保護に至りました。
- (2) インフルエンザ集団感染について(3月)  
和生園一泊旅行から帰園した後、17名(利用者11名、職員6名)がインフルエンザに集団感染しました。一泊旅行のバス車中で感染が広がったものと推測します。朝来市と朝来健康福祉事務所へ報告を行い、指示に基づき対応して約1週間で終息しました。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 北但広域療育センター

施設長 久木田 憲彦

今年度4月、北但広域療育センターは、豊岡市・香美町・新温泉町からの指定管理継続受託となり、児童発達支援センターへの移行と放課後等デイサービス「らみい」（奈佐地区事業所）を開設し新たにスタートしました。第3期中期計画「地域の療育の中核を担う」というビジョンをめざし、北但広域療育センター全体が大きく変化して動き出した1年でした。

しかし、年度当初より市内各相談支援事業所のサービス等利用計画作成が追いつかず、児童発達支援センター「すまいる」の利用者数低迷の要因となっていました。その状況下でも徐々に見学希望から利用へ繋がり、2019年3月には当初の目標値を上回ることができました。

また、上半期の状況を職員全体が強く受け止めたことで、職員の意識変化をもたらし、利用率向上のための方策を各部署が真摯に議論し、対応策を具体化し実施したことは大きな成果でした。加えて、①就学先である特別支援学校・特別支援学級・普通学級に合わせた保護者を含めた療育の企画・実施、②自己評価結果を踏まえた親子行事の企画・実施、③放課後等デイ（重心）利用者への夏休み等の利用促進の案内文の配布、④チラシを作成し関係機関へ配布、⑤放課後等デイサービス「らみい」への見学会など、利用者確保・利用率向上に向けた多くの実践を行いました。

利用者支援では、重症心身障害児（者）へのコミュニケーション機器の使用へ向けた研修を受け、視線入力による支援を継続実施しています。放課後等デイサービス（重心）では、特別支援学校への送迎も開始し、児童発達支援、放課後等デイサービスの自己評価や指定管理施設利用者アンケートを行った結果、いずれも高い満足度評価をいただきました。

一方で、今年度は新規採用職員が増加したことから、支援者の資質向上と求められる職員像を明確に伝達していくため、朝礼時の「支援の手引き」「神戸聖隷ハンドブック」の輪読や、会議時に「利用者の権利擁護と意思決定支援」研修、虐待防止研修、外部研修の伝達研修等を行うとともに、業務マニュアルの改善や作成にも力を入れていきました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
法人の歴史を学ぶ	①和田山歴史資料館の見学 ②顧問より講話の実施 ③浜松聖隷への見学	① ｱ)越智顧問をセンターに迎えて実施したため資料館への見学は未実施 ② ｱ)越智顧問をお迎えし講話の実施（8月） ｲ)小西牧師によるキリスト教福祉講座を3回実施（6月、9月、2月） ③ ｱ)浜松聖隷への研修へ参加(1月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
北但広域療育センターで求められる職員像の明確化	①求められる職員像を言語化し共有	ア) 昨年に続き、毎週火曜日の朝礼にて「利用者支援の手引き」を輪読（4～9月） イ) 「利用者の権利擁護と意思決定支援」のテーマで津田講師を迎え研修を実施（10月） ウ) 朝礼にて「利用者支援の手引き」輪読2月終了後、「神戸聖隷ハンドブック」を輪読開始（3月） エ) 毎日朝礼で、施設長より「利用者の気持ちに寄り添う支援をお願いします」と伝達 オ) 風会議で外部研修参加者による伝達研修の実施 カ) 虐待防止研修を風会議で実施（3月）	◎
業務マニュアルの作成	①児童発達支援センター「すまいる」および放課後等デイサービス「らみい」の業務マニュアルの作成	ア) （児童発達支援管理責任者）サービス管理責任者会議を行い、モニタリング様式、個別支援計画様式の見直しを検討し様式を統一（7月、9月） イ) 「らみい」で『行動と学習に関する基礎調査表（評価表）』を記入し、支援の視点を確認（74名分）（8月、9月） ウ) 災害マニュアル（防災・防犯）、虐待マニュアル（児童虐待対応、虐待防止）の作成	○
重心児者へのコミュニケーション機器の使用支援	①理学療法士、作業療法士の研修参加や重心児者へのコミュニケーション機器による支援	ア) 理学療法士、作業療法士が中心となり、八鹿病院での研修に参加（6月） イ) 森ノ宮医療大学小林氏（作業療法士）を講師に迎え研修会を開催。 トゥモロー利用者8名、保護者11名、関係機関4名参加（7月） ウ) 視線入力装置を購入。トゥモローにて使用開始（12月）	◎
放課後等デイサービスの受入れの体制整備	①授業終了後の重心児利用確保（4名/週）	ア) 理学療法士、作業療法士による個別リハの実施（4月～） イ) 出石特別支援学校への送迎の実施（7月～） ウ) 冬休みの案内をご家族へ配布（11月）	△

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
ひとり一人の担う業務量の把握と適正化	<p>①業務内容と業務量の把握</p> <p>②面接を実施し業務分担等の見直し</p>	<p>①</p> <p>ア)「超過勤務命令・申請書」の事前申告を再度職員に周知(6月)</p> <p>イ)個別超過勤務量の確認、業務量の確認を行い一部職員と面接実施(7月)</p> <p>②</p> <p>ア)面接の実施(11月～12月)</p> <p>イ)再度、面接の実施(2月～3月)</p> <p>業務内容、来年度有給休暇の計画的所得の時季指定確認(5日)</p>	○
関係機関との話し合いを持ち、北但広域療育センターの機能と役割を明確化する	<p>①放課後等デイサービス(奈佐地区)で定員10名とし、利用者7名/日確保</p> <p>②放課後等デイサービス評価表(ご利用者アンケート)を1回/年実施し、結果をHPに公開</p>	<p>①</p> <p>ア)5月利用率70%を達成するが、夏休み未達成となる。(7月、8月)</p> <p>イ)香美町での利用が少なく、行政へ働きかけ(11月)</p> <p>ウ)「すまいる」利用者へ対して「らみい」見学会を実施(2月)</p> <p>②</p> <p>ア)2017年度放課後等デイサービス評価表を公表(7月)</p> <p>イ)2018年度児童発達支援、放課後等デイサービスアンケートを実施。252名(すまいる76名トゥモロー8名らみい168名)に送付、回収(9月)</p> <p>ウ)児童発達支援管理者会議を開催し、自己評価を踏まえた改善目標と内容を各部署で検討し、再度会議を開催(12月・1月)</p> <p>エ)自己評価結果をHPへ公開(1月)</p> <p>オ)北但広域療育センター運営連絡会を開催(3月)し公表</p> <p>カ)代表保護者会、合同保護者会を開催(3月)し、公表</p> <p>キ)指定管理 施設利用者アンケート調査の実施(1月)</p>	◎
	<p>①「ほっとかへんネット」(社会福祉法人連絡協議会)豊岡市ネットワークへの参加</p>	<p>ア)豊岡市社会福祉法人連絡協議会の設立に参加(9月)</p> <p>イ)「ほっとかへんネット」(社会福祉法人連絡協議会)実務者会議へ参加(1月)</p>	◎

2. 出来した出来事  
特にありません。

# 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 エスポワールこじか  
 施設長 伊崎 辰夫

## エスポワールこじか中期事業目標

### 地域に必要とされる資源に（物も人も）なる

第3期中期計画の2年目の今年を実践の年として位置付け、「成果を残す・始める」ことを中心に取り組みました。計画した内容は概ね達成でき、継続に向けた取り組みも出来つつあります。

「エスポワールこじか」「療育」とは何かを地域の方に知ってもらうために取り組んだ「体験（オープン）療育」は、2市1町の保健師さんの協力もあり8組の家族が参加して下さり、アンケートは「実際に体験して療育を知ることが出来、大変良かったです」との意見を多くいただき、参加者全員がこじかの利用を希望して下さいました。すでに次年度の日程と流れをスタッフ、市町保健師等と共に協議を始めています。

保護者満足度調査を実施、56家族に配布し47家族から回答（回収率84%）を頂きました。非常時対策の項目では満足度が50%と低くなりましたが、その他22項目の平均満足度は86%とほぼ支援に満足頂いている結果となりました。改善策を含め神戸聖隷福祉事業団ホームページに公表いたしました。

職員育成としては、全員の施設内ビデオ研修を実施し自らの支援の振り返りを行い、また1人1回以上の専門研修に参加しました。特に発達障害実務者養成研修、強度行動障害支援者養成研修（基礎、実践）の研修も受講し資質の向上に繋がっています。

利用状況は、欠席に対する積極的な振替での対応を行ったことと、地域への周知と関係機関と良い関係を保つ努力の成果から、目標81%に対し約87%と大きく飛躍し、収支面において自立へと向かう足がかりが出来ました。

行政との連携では、今年度第2期の指定管理期間が終了しますが、単独指名として次年度からも指定管理を継続することが決定しました。また、施設改修工事を行うことも決まりました。次年度は児童発達支援センター設置の要望に向けた協議を継続します。

基本理念の浸透におきましては、毎日の聖書朗読を継続し、理事長による理念勉強会の実施とキリスト教福祉講座への参加を通し理念の大切さを意識付けしました。

## 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
学習会の実施	①ニーズに合わせ実施 (年5回)	ア)4回実施 保護者延べ22名 「メンターさん相談会3回」「言葉の発達」 イ)3回実施 保護者延べ18名参加 「療育の意味」「子育ての工夫」 「就園就学前に準備すること」	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
グループ勉強会の実施	①3 グループへの保護者へ勉強会の実施	ア)3 グループに 4 回、「褒める」「行動理解」「就学の流れ」 イ)3 グループに 5 回、「まとめの意味」「サポートファイルについて」	◎
ステップアップマニュアルの作成	①認知面（個別学習：ワーク）のマニュアル作成継続	ア)素案作成、課題の当てはめ作業中 イ)未実施	△
マニュアル見直し	①標準マニュアルの作成	ア)未着手	×
保護者満足度アンケートの実施	①ガイドラインに添った満足度調査の内容に変更 ②満足度調査の実施と公表	① ア)行政ガイドラインに沿った調査表作成 イ)56名の保護者にアンケート実施 ② ア)56家族回収（回収率84%） イ)施設内評価会議実施、12月神戸聖隷ホームページにアップ、兵庫県へ公表の報告	◎
担当制と保護者同伴の個別療育実施	①担当制の実施・保護者同伴の実施を継続	ア)担当制と保護者同伴は、契約時に説明しており、継続実施 イ)担当制及び保護者同伴継続実施	◎
相談体制の充実	①療育活動後に食事や排泄への助言・相談等の時間確保 ②医師の療育相談 ③専門家による様々な困り感に対する個別相談の実地 ④療育終了児童・保護者への相談窓口を設置	① ア)食事指導を含めた相談。延べ36回 イ)下期は延べ47人 ② ア)医師による療育相談5回実施 イ)下期は6回実施 ③ ア)困り感への相談。電話31回、来園3回、療育中7回等 イ)電話27回、療育中9回 ④ ア)第4月曜日に相談日を設定 利用は0名（設定されている安心感） イ)設定日通知するも利用は0名	◎
お試し療育の実施	①オープン療育を2市1町別に実施	ア)2市1町と調整、3回実施8組参加 アンケート調査し、療育への理解9割8名利用希望あり（7～8月） イ)各市町へ福祉課・健康課へ結果報告次年度の日程等協議	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
来園者対応の統一。ホームページの活用	①来園者対応マニュアル・ホームページ活用方法の検討	ア) 来園者対応マニュアル未着手 利用内容、満足度調査結果等盛り込んだ改訂版ホームページアップ(9月) イ) 満足調査結果公表タブ開設、毎月のこじか便りをアップ継続	○
園校訪問及び参観の実施	①保護者の同意を得て、在籍園校への職員訪問 ②在籍園校の先生の参観受け入れ	① ア) 延べ12カ所の園校へ職員訪問し連携 イ) 下期8カ所訪問 ② ア) 延べ9カ所の園校先生が参観に来園 イ) 下期6ヶ所参観	◎
地域子育て支援への職員派遣及び地域協議会・委員会等への参画	①のびのび教室、家庭療育支援講座への派遣実施 ②自立支援協議会、福祉計画策定会議等への参画	① ア) 朝来市のびのび教室へ言語聴覚士2回派遣 イ) 朝来市1回派遣 ② ア) 南但馬自立支援協議会専門部会、香美町障害者自立支援会議会(全体、専門部会)、養父市社会福祉協議会評議員に参画 イ) 下期も継続して参画	◎
施設内研修(ビデオ研修、反省会)の実施と見直し	①療育活動を撮影し、自らの実践の振り返りと特性を理(各職員1回、全体2回) ②療育を振り返り、課題の確認、次回の計画、共通理解を図る	① ア) ビデオ研修4回実施 イ) ビデオ研修4回実施 ② ア) 療育終了後に毎日毎回、反省会を実施。支援の振り返りと次回療育への課題確認 イ) 毎回の反省会を継続	○
研修の奨励	①一人1回以上の研修参加と児童発達支援管理責任者研修受講	ア) 外部研修5名参加 相談支援従事者現任研修、発達障害実務者養成研修、強度行動障害支援者養成研修など。(児童発達支援管理責任者応募するも3年連続受講不可) イ) 外部研修6名参加 特性等専門研修、強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	◎



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
新事業の検討	①児童発達支援センター設置に向け、市町行政及び関係機関との情報共有	ア) こじか運営委員会にて2市1町よりセンター設置要望あり(6月) イ) 但馬圏域相談連絡会等にも要望 ウ) 設備面、人材面、給付費減額等課題を共有(9月) エ) 2市1町運営委員会にてセンター化の依頼有り、次年度に向け検討継続(12月)	○
指定管理事業の継続	①次年度指定管理応募に向けた準備	ア) 公募時期、指定管理料等相談実施(9月) 10月内部意思決定、12月市議会等予定 イ) 養父市役所内制度運用会議にて「指名型応募」確認(11月)、養父市市議会にて5年間の指定管理継続決定(12月)、兵庫県事業指定6年間更新(1月)	◎
保護者希望の時間帯確保	①保護者の希望時間帯確保のため面談実施	ア) 保護者送迎が基本となる為、利用開始時に面談し、ほぼ希望に沿った時間帯にて提供 イ) 下期もほぼ希望に沿った時間帯を提供	◎
欠席時の振替確保	①欠席連絡時に積極的に振替を調整する体制を作る	ア) 実欠席200件中78回振替 約4割実施 イ) 実欠席239件中73回振替 年間34%実施	◎
計画相談件数の確保	①サービス計画60件、継続計画を140件確保	ア) サービス計画55件。継続計画123件。 イ) サービス計画下期30件。継続計画83件。計画目標200件に対し、実績291件。91件増	◎
朝礼での聖書の朗読、基本理念等の唱和	①聖書の朗読と基本理念の唱和を継続する	ア) 聖書朗読「マタイによる福音書13章44節」より開始 朝礼時「基本理念、施設方針、平和を求める祈り」の唱和継続 イ) 聖書朗読、朝礼時唱和継続「ルカによる福音書4章29節」まで	◎
キリスト教福祉の勉強会実施	①キリスト教福祉及び理念の勉強会実施	ア) 理事長による理念勉強会実施(8月) 但馬地区キリスト教福祉講座1回参加 イ) 但馬地区キリスト教福祉講座2回参加	◎

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸聖生園  
 施設長 西郷 昌一

第3期中期計画も2年目を終了しました。

今年度は、地域との関係性を重視し、定期的に地域に出向き、地域との交流を積極的に進めました。「寿喫茶」に定期訪問を実施するのに合わせ、地域で活動されている太極拳の講師をお招きし、太極拳を習うことで、交流を持つことが出来ました。しかしながら、できなかった部分も多くあり、新年度は中期計画最終年に向けて、しっかり取り組む必要があります。

施設更新工事は施工が今年度にずれ込みましたが、順調に経緯し、予定通り終了することが出来ました。しかしながら、工事の関係で当初予定になかったゴールデンウィークを休業することとなり、4月、5月で減収となりました。6月以降、臨時営業や新たな利用者の確保を目標に取り組みました結果、おおよそ回復することができ感謝です。

支援面では、職員の体調不良による休職者が下半期にまで長引き、全職員でカバーせざるを得ない状況が続きました。

従たる事業所の「せきもり」は、昨年度に無事移転をしましたが、2年間という有期限での借用となった関係から、活動場所の確保が早々に必要となります。2020年度には終の住みかとしての場所の確保ができる見込みとなりましたが、それまでの過ごす場所が与えられるよう願っています。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
地域行事参加計画の策定と実施(職員・利用者参加)	①情報収集 ②半期ごとに見直し職員主体で顔づくり ③利用者による自治会館・高齢者施設への訪問	① ア) 自治会と連絡をし、情報を取得(4月) ② ア) 自治会館を訪問し、文化的交流について協議(毎月) ③ ア) 寿喫茶訪問(毎月)、 イ) 聖生園の広報紙を配布(7月、2月)	◎
地域住民及び自治会との交流・情報交換(顔づくり)	①地域ニーズの聞き取り ②対応を検討	① ア) 自治会館を訪問し、ニーズの調査を実施(毎月) ② イ) 寿喫茶にて、地域の方との交流を実施(毎月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
文化教室や住民の方の技能を生かした交流機会を創出	①交流機会の検討 ②交流提案	① ア) 自治会健康体操指導員と面談（4月） 内容について検討（5月） ② ア) 自治会館を訪問し、太極拳を体験し交流（6月以降毎月）。 イ) 太極拳講師が来所し交流（7月、8月、9月） ウ) 啓明学園の軽音楽部のミニコンサートを園で開催（8月）	◎
利用者受診の付添いと医療機関との連携	①利用者の関わっている病院リストアップ ②近隣の病院マップ作成 ③本人・ご家族に受診付添いを依頼 ④付添いの継続、主治医との関係を構築し支援の共有を図る	① ア) アセスメントシートに併記してもらい、情報を収集。 ② ア) 未実施 ③ ア) 一部実施 ④ ア) 継続実施中	△
災害種別に応じた準備及びマニュアル作成	①地震防災マニュアル作成 ②津波防災マニュアル作成 ③地震防災訓練 ④受入れマニュアル素案・検証 ⑤備蓄品リスト作成・予算	① ア) 作成済 ② ア) 未作成（不要） ③ ア) 未実施 ④ ア) 未作成 ⑤ ア) リスト、場所の検討	△
業務の向上と効率化	①業務見直し・検討 ②改善業務の実施、反省と改善 ③収入と支出の毎月の報告と分析	① ア) 支援課：記録時間の見直し（4月） 総務課：書類提出の期限見直し（4月） ② ア) コスト改善のため「たのめ〜」導入（6月〜） イ) 書類提出期限の徹底（毎月） ③ ア) 職制会で実施（毎月）	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
業務の向上と効率化	④生活介護新規利用者募集の為、各地域生活支援センター、特別支援学校への広報を進める	④ ア) 各事業所訪問を実施（6月～8月）	○
サービスの創造と提供	①ニーズ調査 ②サービスとプログラムの検討	① ア) モニタリング実施時に調査実施（随時） イ) ターミナル清掃メンバーへアンケート実施（5月） ② ア) B型のあるべき姿の勉強会実施（4～6月）	△
目標設定と課題の可視化と分析	4半期毎 ①取り組みと改善報告 ②課題・達成内容の掲示	① ア) 生活介護、就労継続支援B型それぞれに勉強会実施（毎月） ② ア) 口頭報告実施。掲示未実施	△
各月毎の収支分析の実施と報告	①取り組みの実施 ②3ヶ月毎にサビ管も入り意識付ける	① ア) 収入不足に対し、追加営業実施（5月、6月、7月、11月、2月） ② ア) サビ管に情報共有（毎月）	◎
研修活用による接遇力の向上	①電話対応・挨拶・受容等接遇力向上 ②テーマ・講師の調整 ③研修① ④研修② ⑤新規職員研修プログラム作成 ⑥障害特性研修プログラム作成	① ア) 未実施 ② ア) 未実施 ③ ア) 未実施 ④ ア) 未実施 ⑤ ア) 作成着手 ⑥ ア) 作成着手	△
各マニュアル作成とPDCAサイクルによる運用と管理	①マニュアル作成 ②整備状況の確認と周知 ③マニュアル改善点を検証	① ア) 車両運用マニュアルの作成（8月） ② イ) 各マニュアルの整備関係調査実施（8月） ③ ウ) 未実施	△

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
移行時期の周知と移行先の確保	①せいれいやさか だいと協議・調整 ②物件取得の予 算・手続き ③移行場所・物件情 報の精査 ④利用者・家族への 周知、意向確認、 説明	① ア) 方向性について協議 (10月) ② ア) 未実施 ③ ア) 未実施 ④ ア) 将来の在り方について説明実施	△
対象者への支援とサービス提供	①アンケート実施 ②メニュー・仕組み 検討 ③講師調整・予算化	① ア) モニタリング時に実施 (随時) ② ア) 個別取り組み検討 (毎月) ③ ア) 未実施	△
個別給食マニュアル作成・配食サービスの準備	個別給食 ①アンケート ②調理課題検討	① ア) アンケート未実施 イ) 随時聞き取り実施 ② ア) 個々の内容について検討	△
聖生園の広報誌発行	①年間テーマ作成 ②地域情報・トピッ ク等の収集と発 信 ③広報誌発行	① ア) 年間テーマを作成 ② ア) 情報の収集 (5月～6月、11月～1月) ③ ア) 広報誌発行 (7月、2月)	◎
不動産 (賃貸・土地) 情報と資金調整	①賃貸物件確保 ②永続物件の検討	① ア) 借用物件の検索を不動産業者に打診 ② ア) 友が丘プロジェクト新築物件に永続使用 が決定	○
研修参加と資格の修得 (サビ管・防火管理者他)	①申請、受講、資格 取得	① ア) 新受講者の選定、受講開始、受講済み、 資格取得済み。	◎
業務内容の省力化	①書類の見直しと 改善 ②試行・改善・採用	① ア) 就Bと生活介護の業務記録の変更見直し 実施 ② ア) 新業務記録の施行実施	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
業務内容の省力化	③その他業務の見直し	③ ア) 休憩時間の取り方検討	○
人事考課と育成システム(OJT)の活用	①人事考課取組目標設定 ②フィードバック ③OJT担当による職員支援 ④半期毎振り返り ⑤新職員研修プログラム作成	① ア) 法人のスケジュールで実施 ② ア) 1月実施 ③ ア) 日々の業務で実施 ④ ア) 未実施 ⑤ ア) 作成着手	○
専門家に相談	①利用者支援の課題検討 ②愛生園PTへの相談継続 ③専門家へ相談と課題解決	① ア) 支援困難事例の医師への相談実施 ② ア) 対象者転出により未実施 ③ ア) 該当事例なく未実施	○
研修機会の充実	①基本理念唱和の継続 ②歴史資料館見学 ③キリスト教福祉講座	① ア) 毎週月曜日朝礼で実施 ② ア) 昨年度実施で終了 ③ ア) 法人キリスト教福祉講座に出席(10月)	○
人権擁護(成年後見制度)・虐待防止の実践	①理念について考える ②人権擁護・虐待防止研修(2/年) ③不適切対応研修	① ア) ハンドブックの活用について検討 ② ア) 3月施設内研修として実施 イ) アンケート実施 ③ ア) 3月施設内研修として実施	○

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 グループホームしおや

管理者 西郷 昌一

昨年度末の大幅な職員の交代がありましたが、幸い人材が与えられ全般的に運営が出来ました。しかし、職員の長期入院に伴うバックアップ施設から応援が必要となりましたが、ホームを閉鎖することなく、運営できました。

昭和40年代の建物を賃貸している当ホームは、今後消防設備（スプリンクラー）の設置や建物の耐震基準との整合性を問われることとなり、場所の移転も視野に入れ解決策が急務であり、移転を軸に思慮してきましたが、候補地になる物件が見つかり、移転に向け推移しました。

今年度は、長雨、台風の襲来などが頻発し、神戸市から避難準備情報や避難勧告などが多く発令されました。法人下、各施設の協力により、無事避難が出来ました。感謝いたします。

下半期については、天候が安定し、避難などをすることなく過ごせました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
職員体制（夜間支援体制）について	①基本理念周知のために会議での唱和 ②支援体制の継続 ③支援力の強化（研修参加・会議の実施）	① ア) ミーティングで実施 ② ア) 支援体制継続実施 ③ ア) ミーティングで研修実施	○
建物の維持・継続条件の確認と物件（建物・土地）依頼と協力	①修繕必要箇所を家主との相談の上、修繕を実施 ②消防設備（スプリンクラー設置）の設置 ③建物の検証と移設に向けた物件・土地の確保	① ア) 必要に応じて実施 ② ア) 移設に伴い検討中断 ③ ア) 建て貸し方式で物件確保	◎
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修と振り返りの実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施	① ア) ミーティングで実施 ② ア) 研修未実施。振り返り実施 ③ ア) 未実施	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	④満足度調査の実施	④ ア) 未実施	○
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施	① ア) 定期健診未実施（日中施設で実施） ② ア) 必要に応じて実施 ③ ア) 必要に応じて実施	○
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期的訪問・顔の見える支援(2回/月の実施) ②地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供(自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施(2回/年)避難経路の掲示	① ア) 非定期で月2～3回実施 ② イ) 地区の清掃等に参加 ③ ア) 対応必要時に即座に実施 ④ ア) 避難訓練未実施 イ) 避難経路の掲示実施	○
利用率の確保	①利用率94%を目指す ②家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施継続 ③365日開所を目指す	① ア) 利用率89.25%で未達成(入院がなければ、94.79%) ② ア) 協力依頼、短縮実施 ③ ア) 365日開所実施	○
建物の老朽化と修繕・コスト削減	①早期移転を考慮し、GH部会・常任理事会と協議 ②老朽化に伴う修理を適宜実施 ③自主的に行えるものは出来る範囲で実施	① ア) 常任理事会と協議、神戸地区施設長会で協議実施 ② ア) 必要に応じ実施 ③ ア) 神戸聖生園と連絡調整し、実施	◎



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
耐震補強・消防設備等への課題対応	①耐震補強対象事業所として市の判断を仰ぐ ②簡易スプリンクラー設置に向けた検討	① ア) 早期移転により判断を未依頼 ② ア) 早期移転につき、検討せず。	○
支援者の安定的雇用	①職員の給与・残業等の検証とコストカット ②人材(知人等)情報の収集と確保	① ア) 未実施 ② ア) 必要に応じ収集確保	○
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設(神戸聖生園)の体制継続 ②バックアップ職員へ支援内容提示と共有化(ホームの支援マニュアルの整理)継続 ③環境美化・除草の実施(年2回)	① ア) 体制継続実施 ② ア) マニュアル作成の着手実施 ③ ア) 除草実施	○
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③世話人・支援員とのミーティング継続 ④バックアップ職員と情報共有継続	① ア) 1名参加 ② ア) 家族会未実施 ③ ア) ミーティング実施(毎月) ④ ア) ミーティング時に実施	○
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の周知・定期的な支援達成の確認 ②世話人・サービス管理責任者・職制を含めたケア会議の実施 ③家庭訪問実施(モニタリング・個別支援計画説明) ④ホームの支援に関わるマニュアルの整備・充実	① ア) 全職員と共有実施 ② ア) 未実施 ③ ア) 一部実施 ④ ア) 作成済	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	⑤利用者支援に必要な調整会議の実施 ⑥日中活動先の定期訪問(2回/年) ⑦ケア記録・業務日誌等の定期チェックの実施継続	⑤ ア) 個別で実施 ⑥ ア) 随時実施。 ⑦ ア) 定期チェック実施	○
帰省状況の把握とホーム利用日数増加	①週末帰省、夏季・年末年始の帰省状況の把握 ②家族との定期的な連絡の実施 ③日数増加に必要な支援の実施	① ア) 完全把握実施 ② ア) 一部実施 ③ ア) 関係機関と連絡調整実施	○
余暇の提供支援	①季節に応じたイベントの提供(バーベキュー・旅行・クリスマス会・新年会など)を継続	① ア) 年間計画により実施	◎

## 2. 出来した事案

- (1) 2019年1月、通所施設から帰宅途中に交通事故で受傷。骨盤骨折などにより、重傷。それ以後、入院加療中。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 グループホームたいのはた東  
 管理者 西郷 昌一

開所から3年目を迎え、各機関との連携の強化に合わせ、入居しておられる利用者様が安心、安定して生活できるようにご家庭との連携をし、週末にもホームがご利用できる環境を整えてきました。その一つとして、支援者会議の開催に合わせ、連絡を密にし、サービス管理責任者とバックアップ施設との連携強化を進めています。

設置より大きなテーマの一つであった、地域との関係は安定しており、お互いに助け合える関係に成りつつあります。

また、体験利用の実施については、目標値に足りませんでした、多くの方々の利用していただきました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
職員体制について	①職員体制（夜間支援体制）の継続 ②職員研修・会議の定期的開催	① ア) 継続実施（毎日） ② ア) 第二金曜実施（毎月）	◎
体験型利用者の受入れ拡大	①15日／月の提供	① ア) 平均 11.06 日／月実施	○
権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修(年2回)・スタッフ会議(毎月第3金)の実施 ③成年後見制度理解の勉強会の実施	① ア) マニュアルの作成検討 ② ア) 虐待研修実施(3月) イ) スタッフ会議実施(毎月) ③ ア) スタッフ会議内で実施	○
利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添い継続 ③利用者の状況に合わせた送迎の実施	① ア) 受診付き添い実施 ② ア) 受診付き添い実施 ③ ア) 必要に応じて実施	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期訪問・顔の見える支援(2回/月) ②地域の方たちとの関係構築、交わりの機会提供(自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施(2回/年)避難経路の掲示	① ア) 非定期で月2~3回実施 ② ア) 地区の清掃等に参加 ③ ア) 対応必要時に即座に実施 ④ ア) 避難訓練未実施 避難経路の掲示実施	○
利用率の確保	①利用率83%→85%維持を目指す ②体験型利用者を含めた利用率は100%を目指す ③家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施 ④365日開所を目指す ⑤体験利用者の受入れ拡大	① ア) 利用率88.0%達成 ② ア) 利用率平均95.28%につき未達成。但し、6月、7月、2月、3月は達成 ③ ア) 協力依頼、短縮実施 ④ ア) 365日開所未実施 ⑤ ア) 広報は実施。利用は未達成	○
コスト削減	①消耗品や調味料等の無駄を省く努力 ②水光熱費等の節約 ③残業等の見直し	① ア) 職員会議で伝えた。取り組み実施 ② イ) 取り組み実施 ③ ウ) 取り組み実施	○
支援者の安定雇用	①職員の給与検証とコストカット ②人材(知人等)情報の収集と確保	① ア) 未実施 ② イ) 必要に応じ収集確保	○
バックアップ体制の継続	①バックアップ施設(神戸聖生園)の体制継続	① ア) 体制継続実施	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
バックアップ体制の継続	②バックアップ職員への支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理） ③共有化・連絡・相談の拡充のためパソコンでの連絡 ④環境美化・除草の実施（毎月）	② ㊦) マニュアル作成の着手実施 ③ ㊦) PC 導入・操作訓練開始 ④ ㊦) 除草実施	○
専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会の開催（年2回） ③定期的なミーティングの実施（毎月第3金14:00～） ④バックアップ職員と情報共有	① ㊦) 1名参加 ② ㊦) 実施できず ③ ㊦) ミーティング実施（毎月） ④ ㊦) ミーティング時に実施	○
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の周知・定期的な支援達成の確認 ②世話人・サービス管理責任者・職制を含めたケア会議の実施 ③家庭訪問実施（モニタリング・個別支援計画説明） ④ホーム支援に関するマニュアルの整備・充実 ⑤利用者支援に必要な調整会議の実施 ⑥日中活動先の定期訪問（2回/年） ⑦ケア記録・業務日誌等の定期チェックの実施	① ㊦) 全職員と共有実施 ② ㊦) 未実施 ③ ㊦) 一部実施 ④ ㊦) 作成済 ⑤ ㊦) 個別で実施 ⑥ ㊦) 未実施（必要時に訪問実施） ⑦ ㊦) 定期チェック実施	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
帰省状況の把握・勤務体制の確立とホーム利用日数の増加	①週末帰省、夏季・年末年始の帰省状況の把握 ②家族との定期的な連絡の実施 ③日数増加に必要な支援の実施	① ア) 完全把握実施 ② ア) 一部実施 ③ ウ) 関係機関と連絡調整実施	○
余暇の提供支援	①季節に応じたイベントの提供（バーベキュー・旅行・クリスマス会・新年会など）と提示	① ア) 年間計画により実施	◎

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸愛生園  
施設長 加藤 航

2018 年度は職員によるご利用者への経済的虐待が発生致しました。本来お守りすべきご利用者の財産を侵害する事はあってはならない事です。幸いにも被害額は全額弁済され、神戸市への報告も行いましたが、性善説の元、長らくずさんな管理体制であった誹りは免れません。今後再発防止に努め、失った信頼は時間をかけて取り戻していきます。

年度当初より、欠員状態でありましたが、入所待機者を職制会議で確認する事により、年度当初 3 名あった入所者の欠員が解消されました。

折からの人材不足の波を直接受け、また人材の定着にも苦慮した 1 年でした。4 名の職員がメンタル不調になり、内 2 名は退職しました。休職者も複数名でました。その他にも全部署合わせ、年度途中に 4 名の退職がありました。事業計画に挙げておりました夜勤 3 名体制に向けた取り組みは、達成することができませんでした。深刻な人材不足の中、ご利用者の高齢・重度化も加速度的に進み、食事介助を始めとしたリスクが増加しております。その様な中で、職員の疲弊感も増しております。看護師の増員、医師の役割の再考など、医療体制の見直し、今後の課題となって行きます。

一方で、2017 年度より参加しました EPA による外国人材の確保は、マッチングに成功し、2019 年 12 月中旬より、2 名のインドネシア人を迎え入れる事になりました。今後は受け入れ体制の整備を行って行きます。職員寮の改修を行い、候補者の住居も整備致しました。同時に設備改修として、職員寮の屋根、外壁の大規模改修や光庭、中廊下の改修など実施致しました。その他、9 月に送迎車を 2 台入替え、主に通所利用者の送迎を充実させました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
フェイスブックの実施・運用	①フェイスブックの実施・運用 ②ホームページの更新	① ア)各部署で振分し、毎月投稿を実施 (法人、施設あわせて年間 20 回投稿) ② ア)9 月リニューアル、12 月更新	◎
入所利用者の増員	①待機者の確認・51 人目の利用者増員	① ア)毎月の職制会議にて待機者の確認を定期的に行った結果、3 名の方の入所に繋げ、定員が満たされた イ)神戸市指導監査にて、生活介護の利用率超過についての指摘あり。それを踏まえ、増員の計画を取り下げた	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
視覚・聴覚 支援体制 加算取得	①加算取得に必要な 資格取得 ②障害者手帳の書き 換え支援	① ア)点字勉強会 7/30、8/30、10/1、10/23、 11/22、1/9。3月の試験にて2名が合格 ② ア)受診と手帳の書き換え支援については 職員体制が厳しくなり、実施できず	○
業務と人 員配置の 見直	①支援課新勤務シフ ト検討	① ア)入所職員の体調不良者による不足が続 き、通所遅出勤務履修ができず イ)代案として、通所職員によるショール トステイ併用者の一部対応を7月より実施	○
	①2017年度業務見直 しによる業務改善 策の定着と安定	① ア)12月に支援記録システムを導入し、PC 等の端末による入力管理となった イ)パート会議を継続実施。夜間配茶の 方法を変更することで業務改善を行った	◎
短期入所 登録者を 増やす	①利用ニーズの把握	① ア)入所希望者の体験利用を推進(5、6、 7、3月)	◎
	①登録数増による利 用日のシミュレー ション	① ア)新規登録者16名 イ)キャンセルを見越した上での予約受け 入れを実施	◎
栄養マネ ジメント 加算の取 得	①加算の取得	① ア)栄養マネジメント加算取得(12月)	◎
接遇向上 委員会の 活動継続 と更なる 活発化	①効果的な接遇向上 の継続実践	① ア)その月の接遇週間を同じ課題にて共有 した	◎
	①満足度調査実施	① ア)QOL部会要請の質問事項を加え、書式を 改めた。10、11月実施	○
中堅層の 指導力向 上	①リーダー勉強会の 開催・振り返り	① ア)リーダー会に提案をさせ、7月以降実施	◎



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
ISOシステムの定着	①内部監査・サーベイランス審査の実施	① ア)内部監査実施(7月、2月) イ)サーベイランス(11月)、継続認証(12月) ウ)職制会議レジュメの改善実施、	◎
キャリアパス制度・内部研修制度の運用	①キャリアパスモデル試行とそれに基づいた内部研修制度の実施	① ア)新任職員研修実施(4/16.23.30.8/20) イ)メンタルヘルス研修(3/8)	◎
エルダー制度の継続	①エルダー制度の継続・見直し	① ア)エルダーと新任職員振返り(5,6,7,8,10,12,1,3月)	◎
喀痰吸引研修修了者の増員	①研修の受講・修了(2~3名)	① ア)園内研修(業者委託)にて2名の職員が修了 イ)県の介護福祉士会主催の研修にて1名が修了	◎
障害特性について学ぶ	①研究発表の実施	① ア)ユマニチュードをテーマに研究発表実施	◎
利用者支援の基本的な考え方に关する研修の実施	①研修の実施	① ア)介護技術向上研修(5/17,7/17,9/18,11/27,12,18,2/19,21,27、) イ)相談援助研修(5/25,7/30,9/26,10/5,1/25,2/17、)	◎
各部署会議などで意見交換をし、日々の仕事で実践できたか振り返る	①神戸聖隷ハンドブックの活用	① ア)職制会議、入所会議、通所会議、医務会議、総務会議でハンドブックの読み合わせと感想の共有を実施	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
EPA等による外国人実習者の受け入れ	①受け入れ準備	① ア)受け入れ施設として認定 イ)現地合同説明会参加 ウ)第1次マッチング参加 エ)マッチング成功 オ)国家資格講師決定	◎
朝礼メッセージの活用	①職員の朝礼メッセージ担当	① ア)6/5より毎週火曜日の朝礼にて現場職員によるメッセージを実施	◎

## 2. 出来した事案

### (1) 支援員による入所利用者の預金侵奪事件

支援員によるお二人のご利用者への経済的虐待が発生。ご利用者へ謝罪し、被害額は全額弁済、3/27神戸市に報告。再発防止に取り組んでいます。

# 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 すま障害者地域生活支援センター  
 施設長 三木 卓也

第3期中期計画の2年目においても、地域で生活する障害者(児)とそのご家族等からの困りごとや相談に対し、親身に思いを受け止め豊かな関係性を育み、適切な情報提供や助言を行うとともに、関係機関とのネットワークを図り適切な障害福祉サービスを利用調整するなど、住み慣れた地域で安心して安全に孤立することなく暮らすことができるよう包括的な相談支援を実施しました。特に今年度は台風等による豪雨災害が頻発したことを顧みて、災害時の要援護者支援に重点を置き、平常時からの備えとして、アセスメント様式に避難場所の記入項目を設ける工夫を取り入れました。

また、須磨区自立支援協議会の事務局として、行政、関係機関、関係団体と協働しながら、障害の有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心した暮らしを過ごすことができるよう、地域特性に応じた6つのテーマ別部会(就労支援、自主製品の販路拡大、共生社会への取り組み、支援力の向上、障害のある子どもとその保護者支援、地域課題)を中心に様々な取り組みを実施しました。

さらに、相談者の多様なニーズに包括的な相談支援を実施していくために、相談員が抱え込み過ぎたり燃え尽きることがないように、職場内のコミュニケーションがとりやすい風通しの良い職場環境の整備に努め、相談員ごとの知識や経験の差が影響しないよう、心理的フォローを含めたスーパーバイズとヒアリングを計画的かつ継続的に定期で実施し、センター全体の相談支援力の向上に結びました。

2019年度も、第3期中期計画の最終年度として、また3ヶ年の委託契約期間の2年目を迎えますが、中期事業目標に掲げる「障害のある方が気軽に思いを伝え相談ができる地域の身近でやさしいセンター」を目指していきます。

## 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握・整理	事務局運営 ①全体会(1回/年) ②運営委員会 (4回/年)の開催	① ア) 須磨区自立支援協議会 全体会を開催 (5月) ② ア) 須磨区自立支援協議会 運営委員会を開催 (5月、8月、11月、3月)	○
	就労支援部会 ①研修会(1回/年) ②当事者セミナー (1回/年)の実施	① ア) 就労支援(当事者)セミナーを実施 (9月) ② ア) 研修会(支援者)セミナーを実施(2月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握・整理	すまいんど部会 ①アンテナショップ ②地域交流バザー ③ギフトセット販売の実施	① ア) アンテナショップ(すまるしえ)の開催(毎月第4木曜日)(年12回) ② ア) 地域交流バザー(すましあ)の開催(11月) ③ ア) 冬のギフトセット販売の実施(12月)	○
	まなぼー!!部会 ①事例検討会(1回/年) ②地域啓発行事(1回/年)の実施	① ア) 事例検討会を実施(10月) イ) 地域移行検証会を実施(11月) ② ア) 市民フォーラム(映画上映会)を開催(3月)	○
	ともいき部会 ①地域防災大会(1回/年) ②地域交流イベント(1回/年)の実施	① ア) 須磨区防災福祉コミュニティ大会に参加(10月) ② ア) 須磨海浜水族園交流会を開催(2月)	○
	親子部会 ①動作法研修(3回/年)の実施 ②サポートブックの更新	① ア) 動作法研修を開催(6月、10月、2月) イ) 家族向け支援教室を開催(8月) ② ア) サポートブック勉強会を開催(9月)	○
	相談支援部会 ①連絡会(1回/2ヶ月)の開催	ア) 相談支援連絡会を開催(4月、6月、8月、10月、12月、2月) イ) 事例検討会(PCAJIP法)を実施(10月)	○
	ピアカウンセリング ①発達の気になる子どもを持つ保護者向けのグループピアカウンセリングの実施(10回/年)	ア) グループピアカウンセリングの実施(5月、6月、7月、9月、11月、2月、3月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
計画相談支援サービス対象者の内容精査と適切なケース受任	①計画相談支援（サービス等利用計画）の質・量の見直し	ア) 報酬改定に伴う勉強会を実施（4月、5月） イ) 個別加算創設に伴う勉強会を実施（6月） ウ) 契約状況、進捗状況の確認、見直しを実施（毎月） エ) 「精神障害者支援体制加算」研修1名修了（9月） オ) 「相談支援従事者初任者研修」1名修了（9月） カ) 「行動障害支援体制加算」研修1名修了（12月） キ) 「要医療ケア児者支援体制加算」研修1名修了（2月）	◎
ケース検討会の継続	①ケース会議(1回/月)の開催と内容の充実	ア) ケース会議、事例検討会の開催（毎月）	○
内部研修の充実	①専門テーマに関する勉強会（1回/年）の企画、実施	ア) 「すまっこナビ」（発達のお子さんご家族のための情報冊子）の読み合わせ勉強会を実施（6月） イ) 障害福祉と介護保険の関連に関する勉強会を実施（9月） ウ) グループスーパービジョン勉強会を実施（3月）	◎
スーパーバイズの強化	①スーパーバイズの実施（1回/2ヶ月）	ア) 個別スーパーバイズの実施（1名/5月、3名/6月、3名/7月、2名/8月、2名/9月、2名/10月、3名/11月、3名/12月、2名/1月、2名/2月）	○
定期ヒアリングの実施	①全職員を対象に定期ヒアリングを実施（1回/4ヶ月）	ア) 定期ヒアリングの実施（6月、10月、2月）	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
法人理念、 権利擁護 の実践及 び委託事 業の意義、 役割につ いて学ぶ 機会の提 供	①基本理念の唱和 (2回/月)	ア) 職員会議、ケース会議時に基本理念を唱 和 (2回/毎月) イ) 職員会議時に「平和を求める祈り」を唱 和 (1回/毎月)	○
	①学びの機会の提供	ア) 「神戸聖隷ハンドブック」の読み合わせ を実施 (7月～毎月)	○

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸聖隷総合相談センター  
 施設長 三木 卓也

第3期中期計画の2年目においても、地域で生活する障害者とそのご家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援（サービス等利用計画の作成）サービスの提供等、地域で生活する方々のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢等に関係なく、生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談、ニーズ把握に努め、住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができるよう丁寧な相談支援を行いました。

事業の中心となる計画相談支援サービス（サービス等利用計画作成）においては、主に法人内の事業所を利用されている方を中心に、今年度も約270名の方々のサービス等利用計画の作成を推進することができました。一方で、利用を希望される方々のニーズに応えきれていない現状があり、地域貢献に向けた取り組みとあわせて体制拡充を検討していきます。

さらに、必要性が高まっている「成年後見制度」に関しては、12月に「親族後見」をテーマとした学習会をご家族向けに開催し多数の方にご参加いただき、制度の普及・啓発を図ることができました。今後は、制度を必要とする方々への制度利用に関する相談、情報提供、申立に係る支援の提供が出来るように努めていきます。

2019年度も、第3期中期計画の最終年度として、センターの本来の目的である地域の身近なセーフティネットとしての役割を果たしていくために、まだまだ道半ばではありますが、積極的に地域との繋がりを深め、中期事業目標に掲げる「地区住民の方のお困りごとの相談（障害、発達、児童、高齢など）が気軽に安心して相談できる地域に開放されたセンター」を目指していきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握	①地域行事への積極的な参画（随時）	ア) 北須磨団地自治会「支え愛学習会」に参加（5月、11月） イ) 北須磨団地自治会「夏祭り」に参加（8月） ウ) 「おいでやすカーニバル」に参加（9月） エ) 「ほっとかへんネットすま研修会」に参加（2月）	△
	①地域向け学習会の開催（1回/年）	ア) 成年後見制度活用推進委員会と協働で事前打合せを実施（9月、10月、11月） イ) 成年後見制度研修会を開催（12月）	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
計画相談支援サービス対象者の内容精査と適切なケース受任	①計画相談支援（サービス等利用計画）の質・量の見直し	ア) 報酬改定に伴う勉強会を実施（4月、5月） イ) 個別加算創設に伴う勉強会を実施（6月） ウ) 契約状況、進捗状況の確認、見直しを実施（毎月）	○
特定事業所加算取得に向けた検討	①加算取得に向けた手続き準備等	ア) 「精神障害者支援体制加算」研修1名修了（9月） イ) 「相談支援従事者初任者研修」1名修了（10月）に伴い特定事業所加算取得（150単位/件→300単位/件） ウ) 「行動障害支援体制加算」研修1名修了（12月） エ) 「要医療ケア児者支援体制加算」研修1名修了（2月）	◎
ケース検討会の継続	①ケース会議（1回/月）の開催と内容の充実	ア) ケース会議、事例検討会の開催（毎月）	○
内部研修の充実	①高齢障害者等、社会的テーマに関する勉強会（1回/年）の企画、実施	ア) 内部研修「一人ひとりが大切にされ、いきいきと輝く社会を」を実施（7月）	◎
スーパーバイズの強化	①スーパーバイズの実施（1回/3ヶ月）	ア) 個別スーパーバイズの実施（6月、9月、12月）	○
定期ヒアリングの実施	①全職員を対象に定期ヒアリングを実施（1回/6ヶ月）	ア) 定期ヒアリングの実施（6月、12月）	○



実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
法人理念、権利擁護の実践及び相談支援事業の意義、役割について学ぶ機会の提供	①基本理念の唱和 (1回/週)	ア) 神戸愛生園朝礼に参加して基本理念の唱和、竹内牧師のメッセージに触れる (毎週) イ) 職員会議時に「平和を求める祈り」を唱和 (1回/毎月)	○
	①学びの機会の提供	ア) 神戸聖隷歴史資料館の見学 (8月) イ) 「神戸聖隷ハンドブック」の読み合わせを実施 (毎月)	○

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸友生園  
 施設長 井上 待子

### 神戸友生園総括

第3期中期計画を基にした事業計画の2年目が終了しました。

大きな取り組みとして、公営住宅を利用したグループホーム事業がありました。神戸市の補助金の関係や改修工事の兼ね合いで、2019年10月に事業開始になりますが、プロジェクトチームを立ち上げ、業務内容や勤務時間などを検討するにあたり法人内のグループホームを見学に行きました。また、住民説明会を実施し大きな反対も無かった為、事業開始に向けて準備を進めていきたいと思えます。

6月に定員を30名から37名に増員しました。作業量も比較的安定しており工賃収入も予算より微増で終わっております。特に自主生産のお茶販売については、今年度ギフト商品を充実させたこともあり、98万円の売上となりました。

収入面では、当初予算よりも減収となってしまいました。要因は上半期の台風による5日の休業と利用者の入院などが考えられます。

ジョブコーチ事業については、6月に1名一般就労につながった利用者もおり、その他2名の新規支援を行いました。今後も地域の就労支援機関とも連携しながら、障害者雇用促進に努めていきます。

虐待・不適切ケアの防止につながる「気づきツール」の活用が定着しつつあり、各職員の意識付けにも繋がっていると思えます。

臨時職員が多くなってきており、理念研修や支援の基本を学ぶ内部研修を実施いたしました。利用者への支援向上を目指して、今後も定期的な内部研修の開催を実施していきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの把握	①イベント・会合への参加	ア)神戸まつり『須磨区音楽の森』参加(5月) イ)北須磨団地『ふるさと祭り』参加(8月) ウ)すまるしえにて出店(5月・8月・10月・1月・2月) エ)近隣地域の2地区の民生委員と情報交換(9月) オ)『すましあ手作り広場』参加(11月) カ)神戸女子大学園祭参加(11月) キ)明舞祭にて委託販売(11月) ク)こんにちはカーニバルに出店(3月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの把握	<p>②お茶プロジェクト委員会にて地域ニーズを具現化</p> <p>③ほっとかへんネットへの積極的参加</p>	<p>②</p> <p>ア)お茶プロジェクト委員会の開催(12月・1月・2月・3月)</p> <p>③</p> <p>ア)ほっとかへんネットの定例会の開催が無いため未実施</p>	○
支援学校との連携強化	①定期的に話し合う場を持つ	<p>ア)青陽須磨支援学校評議委員拝命(4月)</p> <p>イ)学校訪問には至らずだが進路部長との情報共有を行う(6月)</p> <p>ウ)話し合いの日程調整を行う(9月)</p> <p>エ)懸案困難ケースの実習受け入れ(10月)</p> <p>オ)特別支援学校とのカンファレンス実施(3月)</p>	○
作業種の見直し	<p>①見直し・計画策定</p> <p>②作業担当者による納品業務の継続</p>	<p>①</p> <p>ア)新生工業所作業単価見直しのためのリスト作成(7月)</p> <p>イ)新生工業所単価交渉に必要な書類作成(8月)</p> <p>ウ)新生工業所へ単価改定申し入れ(9月)</p> <p>エ)新生工業所単価交渉成立(11月・1月・2月)</p> <p>②</p> <p>ア)作業担当による納品は毎月実施(4月～3月)</p>	◎
ジョブコーチ認定申請	①関係機関と協力して活動・助成金活用	<p>ア)稼働実績</p> <p>4月：22日      5月：20日</p> <p>6月：25日      7月：22日</p> <p>8月：20日      9月：18日</p> <p>10月：21日     11月：16日</p> <p>12月：15日     1月：25日</p> <p>2月：14日      3月：6日</p> <p>年間：224日活動</p>	◎
安定的経営の模索と経費削減の取り組み	①実習・見学の受け入れ	<p>①</p> <p>ア)専門学校実習(前期：18名、後期：15名、職業関連実習：12名)支援学校実習3名、介護等体験5名、ワーキャン1名、</p>	

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
安定的経営の模索と経費削減の取り組み	①実習・見学の受け入れ ②超過勤務労働の削減 ③月ごとの時間管理 ④効率化検証、時間管理 ⑤有給休暇の積極的な取得	ｲ)見学 14 回約 110 名 (4 月～3 月) ② ｱ)朝礼・終礼時に早期退勤を促す ③ ｱ)職員会議で状況を報告 (6 月～9 月・12 月・2 月) ④ ｱ)効率化検証について職員会議で意見交換を行う (1 月・2 月) ⑤ ｱ)取得数が少ない職員に対して、年間カレンダーにて年度初めに取得日を職員と相談。3 月までに予定していた有休は取得	◎
個別状況に配慮しながら出勤率向上	①営業日数管理	ｱ)請求時に日数管理を実施 (4 月～3 月)	◎
個別プログラム実施計画を作成	①就労プログラム充実 ②検証	① ｱ)模擬面接の実施 (4 月) その後対象者が就労したため下半期は未実施 ② ｱ)就労プログラムの検証は担当で話し合いを行うも成果物には繋がらず	△
商品力の強化	①生産の安定 ②ギフト商品のカタログ化	① ｱ)ギフト商品の注文に対応 (4 月・9 月) ｲ)お茶の夏ギフト企画立ち上げ (7 月) (限定 120 個@500 円 完売) ｳ)すまいんど部会の施策にて、冬ギフトの斡旋販売に参画予定となる (8 月) ｴ)すまいんど部会、冬ギフトイベント申し込み (9 月) ｵ)冬ギフト販売開始 (12 月) ② ｱ)パンフレット作成 (9 月) ｲ)「夏ギフト」用販促チラシ作成 (5 月～7 月)	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
商品力の強化	②ギフト商品のカタログ化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ) 「冬ギフト」用販促チラシ作成 (10月)</li> <li>エ) オリジナル商品のラインナップチラシを作成 (11月)</li> <li>ウ) 「春ギフト」の販売検討 (3月)</li> </ul>	◎
作業手順書作成	①順次作業手順書作成・活用・修正	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 材料等置き場所の表示物更新 (5月～6月)</li> <li>イ) 明興産業作業の作業手順見直し、手順書改定 (7月)</li> <li>ウ) 新作業 (箱折り) の手順書作成</li> </ul>	△
作業評価基準の改定と活用	①フォーム見直し ②活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>ア) 工賃規定案作成 (5月)</li> <li>イ) 工賃配分規定作成に着手 (6月)</li> <li>ウ) 作業評価基準表改定に着手 (6月)</li> <li>② 活用には至らず</li> </ul>	△
共同受注窓口の充実	①連携課題整理 ②課題の分析 ③企業訪問と検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>ア) 課題整理に向けてのアンケート実施 (5月)</li> <li>イ) 共同受注ワーキングにて各事業所の受注状況把握 (6月)</li> <li>ウ) 共同受注作業開始 (6月～9月)</li> <li>エ) フレークシール作業の振り返りを各事業所にヒアリング実施 (10月)</li> <li>オ) (株)アイールコーポレーションより新規作業の受注案件があり各事業 (1月～3月)</li> <li>②</li> <li>ア) 課題の分析は状況把握に留まり分析に至らず</li> <li>③</li> <li>ア) ワーキングにて企業訪問の情報共有、情報提供依頼 (6月)</li> <li>イ) 提携企業情報を随時受入れ (7月)</li> <li>ウ) 企業訪問実施 (8月)</li> <li>所と打ち合わせを実施</li> </ul>	○
ケース会議の実施	①年間予定通り実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 予定通り実施 23名 (4月～3月)</li> </ul>	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
サービスの 質の向上	<b>①サービス提供表作成・活用修正</b> <b>②満足度調査 1 回/年</b>	<b>①</b> ア) ケース会議と同時に修正を実施 23 名 (4 月～3 月) <b>②</b> ア) 満足度調査表原案作成 (8 月) イ) 満足度調査表完成 (9 月) ウ) QOL 推進部の調査票と比較検討し 施設独自の設問を反映 (10 月・11 月) エ) 満足度調査実施 (1 月) オ) 満足度調査集計 (2 月)	◎
グループホ ーム事業開 始に向けた 取り組み	<b>①プロジェクト立ち上げ 具体的事業着手</b>	ア) 月 1 回会議を実施 (4 月～3 月) イ) PJ 内で業務分担を決める (4 月) ウ) GH みなみたもん見学 (5 月) ヲ) 県営住宅物件申請 (5 月) カ) GH みなみたもん見学 (6 月) キ) 利用者向け GH 勉強会準備 (6 月) ク) 神戸市指定係へ申請事前相談 (7 月) ケ) 第 1 回利用者向け GH 勉強会実施 (7 月) コ) 第 2 回利用者向け GH 勉強会実施 (8 月) サ) 市営住宅物件申請 (9 月) シ) 市営住宅物件下見 (10 月) ス) 神戸市指定係へ事前相談 (11 月) セ) 住民説明会の事前打ち合わせの為 神戸市施設支援係訪問 (12 月) ソ) 住民説明会開催 (1 月)	◎
防災対策	<b>①訓練実施</b>	<b>①</b> ア) 三園で火災合同避難訓練の日程調 整 (4 月) イ) 聖生園の避難訓練に職員参加 (6 月) ウ) 三園防火管理者による合同避難訓 練打ち合わせ (7 月) エ) 三園合同避難訓練の一環として各 施設のレイアウト確認を実施 (10 月) 火災避難訓練、通報訓練、	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
防災対策	①訓練実施 ②数量確認 ③マニュアル作成	消火訓練を実施（11月） ㉞地震想定避難訓練実施（1月） ㉞三園合同避難訓練実施（2月） ② ㉞備蓄品について購入日、消費期限、消費方法等のリスト作成（6月） ㉞備蓄品購入のため新カタログ申請（8月） ㉞備蓄品購入（10月） ③ ㉞防災マニュアル作成のための利用者アンケート内容の検討（4月） ㉞アンケート内容の精査（5月～9月） ㉞新マニュアルに向け、必要項目の洗い出しを実施（6月） ㉞災害時の利用者情報「災害時対応カード（仮称）」作成の検討（9月） ㉞災害時の利用者情報『災害時対応カード』に向けたアンケート実施（10月） ㉞『災害時対応カード』作成に向けて情報不十分な項目について再調査（1月～3月）	○
内部研修の実施と充実	①内部/外部研修実施	㉞施設内部研修実施 9月：理念について（水野理事長講師） 10月：虐待防止判定基準表を元に事例検討（判定委員会共同） 12月：虐待防止研修（稲松真人氏による） 2月：ジョブコーチ事業について（長島ジョブコーチ講師） 3月：臨時職員研修（2回、担当井上）生活介護等事業の仕事（高見支援員講師） ㉞法人内研修参加 5月（2回）、6月、9月、11月（2回）、12月、1月、3月	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
内部研修の実施と充実	①内部/外部研修実施	㊦外部研修 キリスト教社会事業同盟（6月） ジョブコーチスキルアップ研修（7月） 防火管理研修（11月）	○
各種マニュアルの整備	①既存マニュアルの精査・ブラッシュアップ ②骨子作成・最終盤作成	① ㊦業務マニュアル（案）作成し職員間で確認（8月） ② ㊦業務マニュアル骨子作成（10月） ㊨業務マニュアル骨子の修正などを職員間で検討（11月～2月）	△
法人理念と支援指針の共有	①内部研修を通して理解共有（ハンドブックの活用）	㊦朝礼にて理念唱和、職員会議にて聖書朗読（4月～3月） ㊨ハンドブック活用し内部研修を実施（3月）	○
虐待・不適切ケアの防止	①「気づきツール」の周知徹底と活用 ②事例検討の実施 ③虐待の内部研修会実施	① ㊦気づきツール活用状況 4月：3件、5月：1件、6月：5件、7月：4件、8月：3件、9月：7件、10月：2件、11月：12件、12月：5件、1月：9件、2月：4件、3月：5件 ㊨気づきツール掲示用ボードを事務所内に設置（5月） ㊦気づきツール更新（6月・8月・10月） ② ㊦職員会議で事例の共有を実施（4月～3月） ③ ㊦虐待防止判定基準表運用委員会事例学習会に参加（6月）	○
中期計画進捗状況を全職員で共有	①職員会議にて進捗確認	㊦全体職員会議で進捗報告（4月・5月、10月～3月） 正規職員会議で毎月検討会実施（6月～9月）	○

2. 出来た事案  
特にありません。



## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸光生園  
 施設長 吉本 ひろみ

職員全員で取り組んだ第3期中期計画2年目は、チームによって結果にばらつきが出たようです。策定段階から続けて取り組めた職員は意義・目的がしっかりと認識できており多忙な中でも比較的懸命に取り組めたようですが、途中参加の職員の場合は困難な取り組みだったかも知れません。その中でも毎月会議を行い計画を進め進捗状況を報告してくれたリーダー・メンバーに感謝です。発達障害に関する取組みは、多機能型の当施設では受入れは困難と判断し、ニーズはあるものの断念しました。しかし、就労移行事業へのスムーズな利用を前提とした「就労準備プログラム」は何とか3年目には着手できそうです。10月から開始した「就労定着支援事業」は対象者は少ないながらも対象利用者5名全員の支援が出来、実際に離職を防いだ成果もありました。法人全体の実習受入体制については他施設の協力もお願いし福祉人材育成に繋がります。利用者の作品を新商品にという試みも色々な挑戦を行いあと一息というところまでこぎつけました。また施設全体の収入アップ、経費削減への意識向上の取組みも少しずつ浸透していき、今後も継続して定着させることを目指します。防災への取組みも継続して行い、地域の様々な団体とつながりを持ち「私たちに出来る事」を実行していきたいと考えます。理念研修は今年も2名の職員が聖隷福祉事業団を見学させて頂き良い刺激を受けています。一人ひとりが小さなステップアップを遂げる事により大きな力になる事を祈ります。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
発達障害の理解と支援方法の確立	<b>①発達障害に関する研修受講（継続）</b> <b>②SST の技法を使った支援方法を習得（継続）</b>	① ア) 発達障害の研修は未受講 ② ア) SST 研修を受講し、内部研修を実施 イ) SST の技法を実際に活用している他事業所の見学実施 試行的なプログラムの実施までできているが、確立までは未達成	△
就労支援に特化した環境の構築	<b>①実習先の新規開拓</b> <b>②就労支援専用の場所を検討</b>	① ア) 障害者雇用で館内清掃等を実施している事業所の実習は未達成ではあるが、見学と実習受入の許可を得る ② ア) 就労支援専用の場所については、物理的な場所の確保が不可能であることが分かり計画中止	△

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
就労支援に特化した環境の構築	<p>③発達障害に特化したプログラム検討</p> <p>④「就労準備コース」のプログラムの構築</p>	<p>③</p> <p>ア) 発達障害者の事業所を見学するが、受け入れイメージとのギャップが大きく知的障害中心の当園の事業内容と合わない判断して計画中止</p> <p>④</p> <p>ア) プログラムの検討委員を立ち上げて、検討を行い、大まかなイメージまで共有できるが構築には至らず</p>	△
送迎ニーズの調査	①法人全体の送迎システムに合わせて、現送迎利用者、送迎希望者の乗降場所の再確認を行い効率的な送迎ルートの再考を行う	ア) 法人の送迎サービスと連動して、送迎ニーズ（顕在・潜在）を再検討し、10月以降、マイクロバスについては業者とルート・対象者の選定を行い、同時に園の送迎ルートも変更を行い、2月から実施	◎
送迎車両の確保	①上記ルート再考により、増車が必要な場合にはリースなどの車両の確保を検討する	ア) 車両の購入は未着手だが、新規車両を検討の際は、車いす利用の方の送迎利用の可能性も鑑みリフト付きの車両を検討、今年度の車両購入はなし	△
マニュアルの整備と見直し	<p>①業務マニュアル整備</p> <p>②支援マニュアル作成</p> <p>③第三者評価の結果を受け、不測のマニュアルの作成を行う</p> <p>④法人基準マニュアル作成分担を担う</p>	<p>①</p> <p>ア) 不足業務マニュアルの洗い出しを行い、下半期に不足分について追加作成実施</p> <p>②</p> <p>ア) 個別支援計画の書式を変更し個々の計画書に支援マニュアルを記載</p> <p>③</p> <p>ア) 第三者評価の事後セミナーを7月に実施するが、その後の不足マニュアルの検討や指摘事項も含めた自己評価が未着手</p> <p>④</p> <p>ア) 法人標準マニュアルは、第1期分について2月以降から着手</p>	△
接遇マニュアルの製本化と運用	①前年度実施出来なかった製本化を行い、改訂・新人教育に活用	ア) 製本化に向けた原案の作成まで実施するが、製本、及び活用には至らず	×

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
多機能型施設の強みを活かすことが出来るスーパーバイザーを育てる	<p>①スーパーバイザーとして利用者支援に関して助言を行う</p> <p>②研修等で研鑽を積む(継続)</p>	<p>①</p> <p>ア)4名のバイザーを選出して、8月よりケア記録のスーパーバイズを実施したが、現場での指導が上手く実践できず未達成</p> <p>②</p> <p>ア)上半期は昨年度の研修内容をバイザー間で共有したが、下半期の研修は、該当者がいないため実施せず</p>	△
経営計画を現場職員がより理解擦るための方法を考える	<p>①土曜開所時の利用率向上の為に1日開所を実施(月1回)、イベントの充実</p> <p>②光熱水費の経費削減、収入増への取組</p> <p>③ノー残業デイを週2日に増</p>	<p>①</p> <p>ア)土曜日の半日開所と1日開所を実施するが、利用率に大きな変化なし</p> <p>イ)1日開所日に園の行事(夏祭り・防災イベント・クリスマス会)を設定した時は利用率増</p> <p>②</p> <p>ア)節約に対する意識向上のためにチェック表を作成し、10月より実施したことで、職員間の経費に対する意識向上</p> <p>イ)欠席時対応加算については、取りこぼしや職員ごとの判断による差異が無いように統一のマニュアル作成、職員会議等での周知を図り改善</p> <p>③</p> <p>ア)6月より週2回のノー残業デーを完全実施し、超勤時間については昨年度より減少するが、個人の偏りとノー残業デー以外の日に残業が集中</p>	△
専門家との連携を継続し、創作活動の充実を図る	<p>①月1回の専門家からのアドバイスを継続</p> <p>②専門の大学からボランティアを募る</p>	<p>①</p> <p>ア)月1回専門家と商品開発会議継続実施については、1月～3月は実施できず</p> <p>②</p> <p>ア)専門大学からのボランティアについては確保できなかったが、元デザイン関係の仕事経験者のボランティア確保</p>	○
専門家による職員への指導とスキルアップ	<p>①セミナー、研修会への参加</p>	<p>①</p> <p>ア)6月に専門家による撮影ワークショップを実施して、活動の記録(動画)を撮影・公開</p>	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
専門家による職員への指導とスキルアップ	②アートに特化した施設や展覧会への研修及び視察	② ア)9月「アートセンターHANA」10月「グッジョブセンター」視察実施	
デザイン事務所との連携と商品開発	①月1回のデザイン事務所との商品化会議の継続 ②瓶詰め味噌のブランディングの充実 ③作品保管庫の機能性の充実を図る ④ギフトショーへの出展のための企画立案及び、販路の開拓 ⑤カタログの作成のための商品開発の継続	① ア)月1回のデザイン事務所との商品化会議の継続実施し、試作品が完成。商品化会議は1月～3月は実施できず 年度内の商品化を目指す、タグの試作が進まず、実施できず ② ア)瓶詰め味噌のブランディング化は未着手 ③ ア)作品保管庫については、新商品の製作開始後に必要な為保管ケース2点購入 ④ ア)ギフトショーについては、求められる受注量・生産能力・品質等について協議の結果、対応が困難であることから不参加 ⑤ ア)新商品については、セレクトショップ等への販売に変更、販路開拓できず	△
1年間の活動を記録する	①随時活動を記録する ②施設紹介、見学者用(記録用)、就業者向(人材確保)の3パターンで記録を行う	① ア)撮影ワークショップにて撮影の指導を受けた職員による撮影実施 ② ア)神戸芸術工科大学学生による撮影を実施	◎
SNSの実用化	①フェイスブックの活用、インスタグラム開設	ア)フェイスブックとインスタグラムを開設して、活動やイベントの告知をSNSに公開するが、定期的な公開が実施できず。 次年度システムの再構築を行い定期的に公開できる様システム化を図る	△

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
専門大学との連携	①専門大学の学生と共同しDVDを作成する。施設紹介、見学者用（記録用）就職者向け（人材確保）の3パターンで作成を行う	ア) 神戸芸術工科大学に DVD（施設紹介用・見学者用・就職者用）作成依頼し DVD は完成、クリスマス祝会にて利用者・家族に公開 見学者用は、4月完成予定	◎
神戸光生園の実習プログラムの作成する	①現状の実習指導の内容等を分析する ②実習プログラムの運用と見直しを行う	① ア) 職員向け実習受け入れのマニュアルが未整備のため新たに作成し、実習前に職員に周知、実習中は事務所に掲示 ② ア) 実習生向けの個別支援計画作成用資料を新たに作成し、神戸学院大学と神戸女子大学の実習指導に運用 イ) 昨年度作成の保育実習用実習プログラムを常磐大学実習指導に運用	○
大学との連携を強め、人材確保に努める	①実習指導者講習会を受講する資格のある職員は必ず受講する ②実習受入校の研修会、発表会等に積極的に参加し、関係性を強化 ③実習プログラムを法人内で統一化する事を検討	① ア) 実習指導者講習会を受講する資格のある職員がいないため未受講 実習指導者向け研修「組織で実習生を受け入れる体制作り」(2/9)に参加(職員1名) ② ア) 神戸学院大学研修会(5/28)に参加(利用者1名・職員1名)、神戸学院大学主催のオープンカレッジ(6/23・30・7/14)に参加(利用者5名・職員3名) 神戸女子大学特別講義(11/1)を行う(職員1名) 神戸女子大学実習教育研究会に参加(職員1名) ③ ア) 法人内の実習指導者の確認と指導者情報交換会(3/15)実施(職員2名と神戸愛生園より1名)各施設の実習プログラムについての意見交換を実施	△

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
外部研修を現場で行かせるシステムを作成する	①内部研修を定期的に行い、外部研修で得た物を支援や活動に取り入れる仕組みを作る（障害特性の理解・個別支援計画の作成の標準化）	ア) 内部研修（個別支援計画）（5/25・7/31・10/31）を実施（職員17名） 内部研修（自閉症学習会 11/28・職員15名）（行動障害の支援 1/30 職員14名）を実施 年間5回の内部研修を行うが、外部研修を現場で活かせるシステム作成までには至らず	△
人材育成プログラムを作成する	OJT 研修受講者によって人材育成プログラムを作成 ①検討中の人材育成プログラムの運用と見直しを行う ②OJT 研修への参加	① ア) 職員に対してアンケート実施（日中業務チェックシートについて） イ) 「記録のまとめ」を配布（8月） ウ) 中堅職員へのスーパービジョンを開始（8月） ② ア) OJT 研修（3/5・7）に参加（職員1名） イ) 新任職員オリエンテーション研修について内容を検討し実施案を作成（1月）	△
防災計画と訓練の実施	①防災イベントの実施（小・中学校との連携）	ア) 地域の中学校・高校との連携は、学校行事と重なり取り組めなかったが、神戸学院大学と連携（10/27 実施） 防災イベントでは、地域自治会や大学・企業の協力を得て、地域住民70名程の参加があり成功 イ) 自立支援協議会、地域のふれあいのまちづくり協議会、自治会等との関係構築、地域活性の企画に参画して、11月に地域のイベントである明舞祭、3月に東谷公園でのイベントに参加	◎
防災計画に基づく備蓄品の見直し・補充	①地域も視野に入れた防災備品の整備	ア) 備蓄品の入れ替えと非常災害時に必要となる備品の追加購入実施（ガスコンロ）したが簡易ベッドは未購入 イ) 防災計画の見直し・マニュアル策定は未着手	△
バリアフリー化（トイレ・EV）	①多目的トイレ整備を2019年度実施に向けて計画 ②EV 設置は断念、スロープを活用整備	ア) 職員会議で意見を集め、整理した多目的トイレの案を黒田建築事務所に提案 1階作業場トイレのウォシュレット・温便座交換、多目的トイレの設置を予算計上	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
垂水区社会福祉法人連絡協議会・自立支援協議会に参加	①「ほっとかへんねっとたるみ」に参画 ②ヘルプカードの活用推進	① ア)多聞地域のふれあい喫茶で福祉相談員実施 イ)ベルデ名谷のふれあい喫茶に参加(今年度より一般職にも参加を拡大(5月・1月)) ② ア)ヘルプカードについては、家族会にて情報提供を行い、希望のあった家族にはヘルプマークを提供	◎
神戸聖隷の成り立ちについて、創生期の方の講話を聴き、理解を深める	①越智顧問に講演頂き、法人の成り立ちと、先人の方達との強い意志を引き継ぎ学ぶ	ア)9月に越智顧問による講演を実施して、法人の創生期の話しや基本理念の理解について共有し、レポート提出	◎
長谷川保氏の著書を読み、神戸聖隷のルーツともなる聖隷福祉事業団の歴史を知る	①「夜もひるのように輝く」を輪読してレポート作成	ア)毎月3名の職員が1カ月の期間で輪読と感想文の提出実施を計画していたが、提出が不十分であり未達成 イ)昨年度の「長谷川保の生涯」の感想文のファイル化については未着手	△
浜松の歴史資料館や施設、神戸聖隷の歴史資料館を見学し、聖隷の歴史を身近に感じる	①聖隷福祉事業団への見学実施。聖隷福祉事業団への見学実施 ②神戸聖隷歴史資料館の見学実施	① ア)聖隷福祉事業団への見学希望者2名が1月に見学研修参加 ② ア)下半期に自主制作品の味噌の大豆収穫作業と併せて実施(12月)	◎

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 グループホームみなみたもん  
 管理者 吉本 ひろみ

これまで大きな問題はなく運営してきたホームでしたが、利用者の預り金が一部紛失するという事態が発生し、複数の職員が金銭管理に関わる事に対して管理者が二重三重にチェックを行うしっかりとした体制作りが基本的に出来ていない事に気付きました。また、お1人の方が身体状況から退所となり、集合住宅を利用したホームでのサービス提供の限界も感じました。今年度見直しできなかったマニュアルについても、しっかりと整備する事が様々なリスク管理に繋がると痛感し次年度への課題を残しました。専門性を高める研修には参加できませんでしたが、月1回の世話人会議では利用者の方への対応について統一した対応が出来るよう意見交換を行い、また自閉症の方への対応方法など具体的な提案を行い有意義に実施できました。今後も継続し利用者・支援者双方にとってより良い環境のホームを目指します。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
権利擁護のための支援	①入居者の後見人・保佐人との報告・連絡・調整を密に行い本人の意志を尊重した支援を徹底 ②後見人を選定していない1名への働きかけ	① ア) 入居者の後見人・保佐人との報告・連絡・調整は定期的実施、本人の希望する余暇支援等を調整 ② ア) 後見人を選定していない方への働きかけは関係機関の協力により進行。次年度には選定の予定	◎
マニュアルの整備	①世話人・生活支援員業務についてマニュアルの見直し	ア) 世話人・生活支援員業務についてのマニュアルの見直しは着手出来ず イ) 預り金のチェック体制等の見直しを実施 ウ) 「防災マニュアル」の改訂は未着手	△
健康管理	①医療機関との連携による適切な健康管理	ア) 医療機関との連携による適切な健康管理は適宜実施、服薬管理も継続	○
地域との連携	①地域の一員としての地域・自治会行事への積極的な参加	ア) 地域の一員としての地域・自治会行事への積極的な参加は、日程が合わず不参加	×



実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
防災対策	①消防設備を使用しての避難訓練・通報訓練の実施（年2回） ②地域自治会の防災への取組みに参加	① ア) 消防設備を使用しての避難訓練・通報訓練は11月・3月に実施 ② ア) 地域自治会の防災への取組みは日程が合わず不参加	○
利用率の安定維持	①365日の運営で入居者に安定した生活を提供	ア) 365日の運営で入居者に安定した生活を提供	◎
堅実なバックアップ施設	①緊急時等の神戸光生園による速やか且つ臨機応変な対応 ②安定的な支援体制の確保（支援員の育成）	ア) 緊急時等の神戸光生園による速やか且つ臨機応変な対応 イ) 安定的な支援体制の確立（支援員の育成）	○
キリスト教理念の浸透	①基本理念におけるキリスト教精神の理解 ②神戸聖隷ハンドブックの活用	① ア) 月1度の世話人会議時に基本理念唱和 ② イ) 神戸聖隷ハンドブックの活用は未着手	△
専門性の向上	①世話人・生活支援員の専門研修への参加 ②月1回の世話人会議での専門性向上研修実施	① ア) 職員の専門研修への参加は出来ず ② ア) 月1回の世話人会議で専門性向上研修は未実施だが具体例で対応策を提案	△
虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を1回実施 ②関係機関等実施の外部研修に参加 ③月1回定例の世話人会議を実施、支援方法や利用者対応についての相談を実施 ④年2回の虐待防止セルフチェックの実施	① ア) 神戸光生園での研修に参加（3月） ② ア) 虐待対応力向上研修に2名参加（9月） ③ ア) 月1回定例の世話人会議で支援方法や利用者対応についての相談を実施 ④ ア) 虐待防止セルフチェックを実施（9月・2月）	◎

## 2. 出来した事案

### (1) 利用者の預かり金紛失

2018年11月にご利用者2名の預り金の内、一部のお金が紛失するという事がありました。残高が高額になっていた事に対してバックアップ施設で管理をすることを怠っていました。管理者が不定期に残高確認を行っていましたが、きちんとしたシステムになっていませんでした。全職員に対して専任理事と管理者で1人ずつ聴き取りを行いました。原因は特定できませんでした。ご利用者お2人共それぞれ後見人・保佐人がおられ、報告と謝罪を行い紛失分を弁済しました。再発防止策として預り金の管理方法を統一し、週に1回はバックアップ施設による確認を実施すること、預り金が1万円を大きく超えないよう施設で預かり、必要に応じて補充する事を徹底しました。

### (2) 利用者の転倒事故

最高齢74歳のご利用者が、日中活動事業所の神戸光生園から送迎でホームへ帰宅する際、エレベーター前でバランスを崩して壁で顔面を打撲し、軽度の頸椎損傷と診断されました。入院し治療を受けましたが半身に軽い麻痺がありホームでの自立生活は困難となり後見人の意向により介護保険を利用することとなりました。高齢になり介護が必要となった場合のグループホームの在り方を考えさせられました。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 グループホームふくだ  
 管理者 吉本 ひろみ

開所 2 年目を迎え、少しずつですが運営は安定してきました。利用率も一定の帰省はあるものの目標を上回りました。ご利用者はホームでの生活を楽しみ、良い関係性を築いておられます。課題は、支援者の専門性を高める事に中々着手する余裕がない事です。日々の生活を支える為の「人手の確保」がまず第一となっている現状があり、内部研修は 2 回実施しましたが、支援員を外部の専門研修に参加させることが出来ませんでした。また、コーディネーター（サービス管理責任者）が現場の管理運営に追われ、法人内のグループホームをバックアップする体制を構築する事案に着手することができませんでした。この課題は次年度に持越しとなります。

まずは、コーディネーターが不在でも、支援員でしっかりと対応できる力をつける事、その為には支援の専門性を高め、マニュアルを更新し活用する事が大切です。また様々な来訪者（ガイドヘルパーやご家族等）への適切な対応力をひとり一人が持てるようになることも必要です。

10 名のご利用者の生活を機能的に構築することは課題が多いですが、今後グループホームを増設していくためには重要なことだと痛感した一年でした。

### 1. 進捗状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
権利擁護・虐待防止のための支援	①支援員・世話人への研修実施 ②年 2 回のセルフチェックの実施	① ア) 支援員・世話人への内部研修を実施 (2 回) (7 月・10 月) イ) 1 名成年後見制度利用を開始 (補助) ② ア) 年 2 回セルフチェックを実施 (9 月・2 月)	◎
マニュアルの整備	①世話人・生活支援員業務についてマニュアルの見直し ②利用者個々の支援マニュアルを適宜更新	① ア) 世話人・生活支援員業務についてマニュアルの見直し ② ア) 利用者個々の支援マニュアルを適宜更新	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域との連携	①地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃等地域の活動に参加 ②地域行事（夏祭り）等への積極的な参加	① ア) 地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃等地域の活動に参加 ② ア) 地域行事（夏祭り・初詣）などへの積極的な参加	◎
防災対策	①年2回の避難訓練の実施 ②地域自治会の防災への取組みに参加	① ア) 避難訓練・通報訓練の実施（2回）（11月・3月） ② ア) 地域の防災の取組みは実施なし イ) 備蓄品の購入	○
利用率の安定維持	①週7日のサービス提供と利用率85%維持 ②週末帰省が長い利用者へのレスパイトを日中活動事業所と連携し実施検討	① ア) 週7日のサービス提供と、利用率85%目標に対して94.4%達成 ② ア) 週末帰省が長い利用者家族へのレスパイトを日中活動事業所と連携し帰省減少	◎
バックアップ機能の体制整備	①コーディネーター（サービス管理責任者）配置によるバックアップ機能の構築 ②「ふくだ」を中心とした法人内グループホーム全体のバックアップ体制整備	① ア) コーディネーター（サービス管理責任者）配置によるバックアップ機能の構築は実施出来ず ② ア) 法人内全体のバックアップ体制整備について未着手	×
基本理念の浸透	①キリスト教精神に基づく基本理念の理解 ②神戸聖隷ハンドブックの活用	① ア) 月1回の職員会議開催時に基本理念の唱和 ② ア) 神戸聖隷ハンドブックの活用には至らず	△
専門性の向上	①世話人・生活支援員の専門研修への参加	ア) 生活支援員1名感染症対策研修に参加（7月）	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
虐待防止・ 人権擁護の 取組み	① 全員参加の内部研 修を 1 回実施 ② サービス管理責任 者管理者による月 1 回の支援会議の実 施、支援方法や利用 者対応についての サポート ③ 年 2 回の虐待防止セ ルフチェックの実 施	① ア) 神戸光生園で全体研修を実施 (3 月) ② ア) サービス管理責任者、管理者による 月 1 回の支援会議を実施 ③ ア) 年 2 回虐待防止セルフチェックを実 施 (9 月・2 月)	◎

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸明生園  
 施設長 山本 隆志

第三期中期計画のビジョンに掲げた「笑顔」については、QOLの向上へ向けた新たな取り組みの一つ、音楽療法を開始し、少しずつ対象者を拡大しています。ご利用者の「笑顔」を支えられたことを実感でき、ご家族、支援員にとっても「笑顔」につながりました。また、新たなグループホームの展開をより具体化するために、委員会を担う中堅職員が、様々な種類の特色あるグループホームの見学を実施し、視点を広く持ち取り組んでいけるように準備を進めたことは、人材育成にも繋がりました。重度障害者支援加算要件として必要な支援計画シートの作成が完了し、改訂にも着手し、対象外のご利用者についてもシートの整備を進め、個別支援の統一を図る取り組みが発生しました。

今年度受審した第三者評価により、今後取り組むべき課題を確認できました。明確化された課題に取り組むと同時に、施設建設当時の「明るく」「生きよう」「しあわせに」に立ち返る年度ともなりました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
短期入所の安定した受け入れ	①稼働率目標達成	ア) 地区内施設への利用呼びかけ実施 (7月) イ) 通所利用者への利用呼びかけ実施 (7月) ウ) 新規利用者の積極的受入れ (通年)	○
短期入所受け入れマニュアルの作成	②マニュアルの策定	ア) マニュアルの一部改訂 (12月)	△
地域ニーズ、法人内ご利用者のニーズ再調査	①法人内ご利用者の短期入所希望者の積極的な受け入れ	ア) 利用促進の呼びかけ実施 (7月以降) イ) 新規受け入れ実施 (通年) ウ) 緊急事案対応実施 (7件)	◎
ニーズに合った生活の場、活動の場の再考	①しあわせの村内でのグループホーム建設について関係機関と調整を開始	ア) 村内 GH 見学実施 (5月) イ) 委員会 5 回実施 ウ) 医療型 GH、法人内 GH 見学実施 (7月) エ) シェア金沢及び近隣 GH 見学 (9月) ウ) 通所利用者家族への聞き取り開始 (9月) カ) 神戸市への事前相談 (2月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
重度加算への対応	①研修の追加受講 ②支援計画シートの整備	① ア)2名追加受講済み(9月)、(12月) ② ア)全対象者のシート作成完了 イ)シートの改訂実施(9月)(12月)(3月)	◎
積立金の計上	①3千万の積み立て ②法人スケールメリットを活かした経費削減	① ア)月次把握継続 ② ア)大塚商会の活用開始 イ)部会との連動	◎
PTとの連携による、リハビリの実施	①活動の見直しに着手	ア)介護基礎研修の実施(6月) イ)神戸愛生園の見学2名実施 ウ)適時、個別の機器導入	○
重度高齢化への設備面での対応	①施設改修の検討及び、福祉機器の選定	ア)必要に応じて介護ベッドの導入を実施 イ)旧館床材の張替、床材選定実施(6月) ウ)張替工事实施(12月)	○
業務分析・業務標準化の実施	①業務改善委員会でのマニュアル策定完了 ②第三者評価受審	① ア)委員会1回開催 進捗滞る(5月) ② ア)受審完了(10月)結果を受理(2月)	○
支援記録システムの導入	①支援記録システムの活用ヒヤリハットの分析及びフィードバックの実施 ②i-padの追加導入	① ア)新人職員への記録研修実施(4月) イ)ヒヤリハットの打ち込み実施中 ② ア)導入完了(7月) 連動機器の導入 体温、血圧	○
虐待防止の徹底・接遇改善の推進	①3か月に一度のチェックリスト実施 ②虐待防止基準表の活用 ③スローガンポスター掲示の継続	① ア)3か月に1度実施中(6月、9月) ② ア)2事例検討実施(5月) ③ ア)3か月に1度の掲示物更新実施(7月、10月、1月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
豊かな暮らしへの支援	①神戸明生園作品展の開催継続 ②音楽療法を実施 ③スヌーズレン活動の拡充	① ア)開催済み(3月)盛況に終えた ② ア)音楽療法を開始 ③ ア)対象者拡大	○
業務に必要な技術の習得と研修内容・研修計画の検討	①施設内研修計画の策定 ②外部研修助成制度の利用促進	① ア)新着任者用の研修内容決定、作成(12月) イ)介護基礎研修、防犯訓練、AED研修 おむつに関する研修、記録に関する研修を内部で実施 ② ア)1名利用(介護福祉士)	◎
法人理念の理解、浸透と理念に基づいたサービスの提供	①歴史資料館見学 ②理念研修への参加 ③基本理念と平和を求め祈りの唱和 ④神戸聖隷ハンドブックによる学習会を実施する	① ア)11月実施(5名) ② ア)他法人理念研修2名、海外研修1名、キリスト教福祉講座1名参加 ③ ア)継続実施中 ④ ア)下半期より毎週金曜朝礼時にハンドブックの輪読開始 イ)10月18日理念研修実施(吉川牧師)	◎

## 2. 出来した事案

### (1) ご利用者(女性)の単独転倒事故による怪我の件

2019年1月12日(土)13:30、新館1階浴室前廊下で、木製の椅子に座ろうとした際に目測を誤られ、転倒し椅子の角で後頭部を打撲された。意識障害が確認されたため、直ちに救急車を呼び病院に搬送しました。診察の結果、左急性硬膜下血種と診断され、手術を受けました。現在、療養型病棟にてリハビリを継続中です。浴室前の木製の椅子については撤去し、柔らかい素材の物(ベンチソファー)に変更しました。

### (2) ご利用者外出活動中の公用車自損事故の件

2019年1月29日(火)14:07、神戸市西区にてドライブ外出中の公用車ハイエース(9名乗車)が支援員の居眠り運転により、空き工場の側壁に衝突しました。外傷の無い方も含めて念のため全員を直ちに救急搬送し、診察を受け、全員がその日の内に施設へ帰園しました。骨折3名、裂傷3名(運転者含む)の受傷状況となりました。再発防止策を立て、徹底した安全管理を行っています。



## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 ケアホームきたすま  
 管理者 山本 隆志

今年度は、ご家族の高齢化により、週末帰省が困難になられた方への余暇支援の調整や、地域生活をより実感していただくための外出などに取り組みました。

上半期に、非常に激しい気象現象が起こり、非常時の支援体制を検討する必要が現実的に出てきました。日中活動が休止の場合の昼間支援など、急な対応に迫られましたが、本体施設からのバックアップでご利用者には安心して過ごしていただけました。下半期は、安定した気候であったため、平常通りの活動参加ができました。

サービス管理責任者との連携については、継続課題として残りました。バックアップ施設の職員1名が地域分野のサービス管理責任者研修の受講を終え、フォローが必要な際に備えることが出来ました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
高齢重度化への対応	①個々の状況に合わせたサービスの提供（入浴、食事）	ア) 個別の食事テーブルを更新した。 給湯設備の更新をオーナーと連携し実施頂いた（オーナー負担）	△
利用者の安全確保	①消防と連携した火災訓練の実施 ②体調不良時などへの対応方法の検討 ③防犯対策の推進	① ア) 下半期実施予定 ② ア) 本体施設からの応援、電話相談実施 ③ ア) 本体との連携強化、施錠の徹底	△
地域生活の定着	①自治会活動への参加などを通し、近隣住民との交流と利用者への理解・協力を図る ②移動支援等外部サービスの積極的調整	① ア) 地域清掃へ参加済 イ) 日常的な挨拶から始まり、地域住民と利用者の良好な関係を維持できた ② ア) 新たに2名の利用者が移動支援を活用開始。総合相談センターとの連携済	○
予算に沿った収入の確保	①利用率の向上	ア) 週末帰省を一泊にさせていただきをお願いを実施（1名）	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
設 備 改 修・永続 的運営に 向けて	①物件オーナーとの 連携	ア) 賃貸契約更新時に、スプリンクラーの 耐用年数以上の契約をお願いし、了承 を得た（10年）	◎
専門性の 向上	①外部研修への参加 ②虐待防止の徹底 ③サービス管理責任 者との連携強化 ④バックアップ体制 の強化	① ア) 参加できず ② ア) チェックリストの実施 （6月、9月、1月） ③ ア) 会議1回開催 ④ ア) 本体施設職員のトレーニングを行い、 新たに1名、対応可能職員を増やした	△

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 神戸市立ワークセンターひょうご  
 神戸市障害者就労推進センター  
 神戸障害者就業・生活支援センター  
 障害者就職拡大推進事業  
 所 長 森崎 康文

第3期中期計画2年目の一番大きなトピックスは、「就労定着支援事業」の開設です。ワークセンターひょうごでは、これまでも卒業生の就職後の定着支援を独自で行ってききましたが、今年度から就労定着支援事業の新設により、事業として定着支援を行うこととし、具体的な動きに着手しました。まず、事業所指定を受けるための申請書類の準備、対象となる方への意向調査の実施、企業あての依頼文や各種書類の作成等の準備を進め、8月に神戸市から指定を受け、事業を開始することができました。その後も、適宜、対象利用者・家族に案内を行い、3月末時点では30名の方に利用していただいています。今後も、より効果的な就労定着支援の在り方を模索していきたいと思えます。

地域交流については、当センターの見学や1月には食事交流会の機会の設定など、少しずつですが、キャナルタウン自治会の方などとの交流を進めることができました。また、ほっとかへんネットへの参加、地域の小学校からの見学受け入れも行いました。今後も地域の中のセンターとして、積極的に地域との交流を進めていきたいと思えます。

神戸市障害者就労推進センターをはじめとする就労相談部門では、第3土曜日の開所を、今年度から本格的に実施できました。今後も、引き続き、案内チラシの作成・配布、ホームページでの広報等により周知し、必要な方に活用していただけるようにしたいと考えています。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<b>【共通】</b> 区役所を通じ、近隣の自治会とのつながりを持つ	<b>①自治会長、役員の方に当施設の見学をしてもらう</b> <b>②地域交流行事を開催する</b>	① ア) 自治会の方4名が当施設を見学(5月) ② ア) ほっとかへんネットの生活環境改善事業に参加(5月) イ) キャナルタウン自治会役員会に出席し、地域交流行事について説明(6月) ウ) ほっとかへんネットの平野夏祭りでの相談ブースに参加(8月) エ) 地域の小学2年生が学校の生活科授業で当施設を見学(9月) オ) 地域交流行事(食事交流会)の計画(11月) カ) 地域交流行事(食事交流会)を開催(1月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 福祉避難所としての施設整備</p>	<p>①市知連を通じ、福祉避難所の協定締結を行う</p>	<p>ア) 市知連を通じてではなく、中部在障として指定を受ける方向に転換  イ) 神戸市障害者支援課を訪問し、中部在障としての福祉避難所について調整を依頼(6、9月)  ウ) 基幹福祉避難所開設訓練に参加(7月)  エ) キャナルタウン高齢者介護支援センターにおける基幹福祉避難所開設訓練に参加(10月)  オ) 神戸市から神戸市版の福祉避難所マニュアルを受領(11月)  カ) ほっとかへんネット主催の研修「熊本地震に学ぶ～災害時の福祉施設運営を考える～」に参加(1月)</p>	<p>△</p>
<p>【共通】 法人基本理念、事例検討会を含めた内部研修の充実</p>	<p>①事例検討会の開催  ②法人基本理念を含めた内部研修の実施  ③法人内部研修への積極的な参加</p>	<p>①  ア) PCAGIP 学習会、ビデオ上映会を実施(9月)  イ) 事例検討会(PCAGIP)を開催(12月)  ウ) 事例検討会の振り返りを実施(1月)  ②  ア) 法人の海外研修報告会に出席(5月)  イ) AED 講習会を開催(10月)  ウ) 応用行動分析勉強会を開催(1月)  エ) 発達障害に関する研修会を開催(2月)  オ) 精神科医の意見照会を実施(3月)  ③  ア) 主任副主任研修(5月)  イ) 伝わる撮影ワークショップ、一般職員研修、2018年度第1回他法人研修(6月)  ウ) 法人新副主任研修、法人一般職員研修(7月)  エ) 課長研修・事前研修、海外研修・事前研修、主任・副主任・エキスパート研修、虐待防止基準表・評価表運用学習会(9月)  オ) キリスト教福祉講座、海外研修・事前研修、中級一般職員研修(10月)  カ) 一般職員研修、課長研修、海外研修(11月)  キ) 中級職員研修(12月)</p>	<p>◎</p>

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 法人基本理念、事例検討会を含めた内部研修の充実のつづき</p>	<p>(続き) ③法人内部研修への積極的な参加 ④内部会議での基本理念の唱和 ⑤神戸聖隷ハンドブックの活用</p>	<p>㌿) 上級一般職員研修、他法人理念研修 (1 月)          ㍲) 総合職員研修 (2 月)          ㍳) 虐待防止研修 (3 月)          ④          ㍴) 職員会議での基本理念の唱和 (4、6、8、10、12、2、3 月)          ⑤          ㍵) 全体職員会議や就労部門の会議において、ハンドブックを活用しながら、理念と指定管理の関係や神戸聖隷の職員としてどんなことを大切に働いているかについて職員間で情報共有を実施 (10、11、12 月)          ㍶) 就労部門の会議において、他法人研修・海外研修等、基本理念を理解するための研修で学んだことを職員間で情報共有を実施 (1 月)</p>	○
<p>【共通】 福祉の基礎研修の実施</p>	<p>①研修実施と研修の内容の見直し</p>	<p>㍷) 必要な資料を収集しファイリングを実施          ㍸) 経験の浅い職員が就業支援基礎研修(ラーニングセッション)を受講 (8、9 月)          ㍹) 昨年度の外部研修受講リストを作成          ㍺) 神戸明生園、神戸愛生園の見学実施 (11 月)          ㍻) 就業支援担当者研修を受講 (10 月)          ㍼) 新任職員オリエンテーションのプログラム及び資料作成 (3 月)</p>	○
<p>【就労】 精神・発達障害者への支援の強化</p>	<p>①現場実習の実施</p>	<p>㍽) (創) CAC (就労移行支援事業所) の SST プログラムに参加 (6、10 月)          ㍾) 精神障害の方を中心とした就労移行支援事業所の見学 (7 月)          ㍿) SST 普及協会主催の研修に参加 (9 月)          ㎀) 湊川病院の見学については、次年度実施予定。依頼を行うが、調整がうまくできず未実施 (10、11 月、1 月)          ㎁) 兵庫障害者職業センターのリワーク事業の説明会に参加 (3 月)</p>	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>【就労】 事業内容の充実と誠実な遂行</p>	<p>①ネットワーク会議、就労移行支援部会の開催 ②教育関係機関就労支援連絡会の開催 ③ラーニングセッションの開催 ④中部地域ネットワーク会議の開催、6 者会の開催 ⑤在職者交流会、ドリームの開催 ⑥登録確認・現況調査の実施</p>	<p>① ア)神戸地域障害者雇用・就業支援ネットワーク会議の開催 (5、2月) イ)就労移行支援部会の開催 (7、12月) ② ア)教育関係機関就労支援連絡会の開催 (10、1月) ③ ア)兵庫障害者職業センター、神戸市精神保健福祉センターとの共催でラーニングセッションの開催 (8、9月) ④ ア)中部地域ネットワーク会議の開催 (8、11、1月) イ)6 者会の開催 (月 1回) ⑤ ア)在職者交流会を開催 (7、10、12、2月) イ)毎週金曜日にドリームを開催 (年 48回、述べ 1040 人が参加) ⑥ ア)645 名の登録者に現況調査を送付。うち 570 名には併せて登録確認も送付。回収率は 71.0%。</p>	<p>◎</p>
<p>【ワーク】 積極的な営業活動</p>	<p>①積極的な営業活動 (訪問、見学や体験実習の積極的な受け入れ)</p>	<p>ア)特別支援学校、普通校、定時制高校等、計 14 校を訪問 イ)特別支援学校等から 197 名、一般 199 名、計 396 名の見学を受け入れ ウ)オープン見学会 (神戸市主催) を開催 (8月) し、34 名の見学者を受け入れ エ)特別支援学校等から 51 名の体験実習を受け入れ</p>	<p>◎</p>

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 ホームページの充実</p>	<p>①タイムリーな情報発信、アクセス状況分析による内容の充実 ②効果検証 ③法人ホームページ、フェイスブックとの連動</p>	<p>① ア) 就職者の声コンテンツ（7月）、動画コンテンツ（11月）を追加し、タイムリーな情報を発信（毎月2回以上更新） イ) 見学者向け資料にホームページのQRコードを掲載、また実際にホームページの内容を紹介してPR ウ) 早朝キャンペーンの配布グッズにホームページのQRコードを掲載 ② ア) アクセス件数は12,596件（昨年度比+4550件） ③ ア) 法人ホームページの内容を更新（9、11、12、2、3月） イ) 法人フェイスブックに投稿し、当センターのホームページもリンクを作成（5、11、1月）</p>	◎
<p>【ワーク】 開所日数の増加と利用率向上</p>	<p>①計画的な土曜開所とプログラムの充実</p>	<p>ア) 年間計画表を訓練生に配付（4月）。年間24回の土曜訓練を計画。 イ) 年間23回の土曜開所を実施（1回は警報のため中止）。平均利用率は83.1%</p>	◎
<p>【ワーク】 一般就労者のグループホームの開設</p>	<p>①土地情報の収集 ②家族会・ファミリー会に向け、3年以内にグループホームの利用を希望する人を募り、検討会議を実施</p>	<p>① ア) セキスイハイムから駒ヶ林の土地情報があり、打合せを実施（7月）。しかしその後、セキスイハイムと地主との打合せで進展せず、当面の建て貸し方式でのグループホームの話は見送り。 ② ア) 医療ケア対応グループホーム「あいすくりーむの家」を見学（11月） イ) 土地情報がないため、検討会議は未開催。</p>	△

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>【就労】 土曜開所の検討(月1回～)</p>	<p>①月1回の土曜開所 ②ホームページ等を通じた周知</p>	<p>① ア)月1回、第3土曜の開所を実施。正面玄関のインターホン、自動ドア等の設定を見直し イ)神戸障害者就労支援システム研究会で土曜開所のチラシを配布(7月) ② ア)先3か月の土曜開所の予定をホームページに掲載</p>	◎
<p>【共通】 研修受講一覧の整備と外部研修の積極的な受講</p>	<p>①外部研修の積極的な受講</p>	<p>ア)主任就業支援担当者研修、社会福祉施設新任職員研修、就業支援基礎研修、障害者虐待対応力向上研修、リカバリー全国フォーラム等、106研修190名が外部研修を受講 イ)受講した研修は、新システムに入力</p>	◎
<p>【就労】 未登録の相談(新規相談)の記録のデータ化</p>	<p>①未登録の相談記録のデータ化と分析</p>	<p>ア)今年度から相談記録の新システムを導入。未登録相談もシステムに入力し、データ化を実施 イ)昨年度の未登録相談のデータ分析 ウ)未登録相談のデータ分析を踏まえ、「相談の流れについて」のマニュアルを完成(10月)</p>	○
<p>【共通】 日々の業務のマニュアル化</p>	<p>①個人情報管理、リスク管理等についてのマニュアル運用と見直し ②ワークセンターひょうごの業務・支援マニュアル運用と見直し</p>	<p>① ア)個人情報管理、リスク管理マニュアルの内容を再検討し修正。6月の全体職員会議で説明し、7月から運用開始 ② ア)履歴書用写真撮影、就職支度金申請、体験実習、食堂片付け(訓練生の役割)、基礎評価(筋力・調理補助)についてのマニュアルを改訂</p>	◎



実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 日々の業務のマニュアル化のつづき</p>	<p>③ほっとロビー、ドリームについての支援マニュアル運用と見直し ④法人の標準化マニュアル作成への協力 ⑤見学者・ボランティア受け入れマニュアルの整備 ⑥業務の見直しによる職員のワークライフバランスの改善 ⑦顧客満足度調査の実施</p>	<p>③ ア)ドリーム当番マニュアルの改訂、ドリームボランティアマニュアルの運用開始。書類やチラシの更新を実施 ④ ア)第1期協標準化マニュアル（移乗、食事、送迎、入浴、排泄、服薬介助）が配信されたが、今回は作成する必要のあるマニュアルはなし ⑤ ア)見学者・ボランティア受け入れマニュアルは、法人のマニュアル提示後に検討予定 ⑥ ア)有休取得率 50%未満となりそうな職員の確認をし、個別で取得勧奨を実施。 ア)月 30 時間以上の時間外勤務者はなし ⑦ ア)就労相談部門の満足度調査を実施（12月・対象者 34 名）。満足度調査結果を集計し報告（2、3月） イ)ワークセンター訓練生・家族を対象に満足度調査を実施（1月）。調査結果を集計し報告（2、3月）</p>	<p>◎</p>

2. 出来た事案  
特にありません

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 ひょうご障害者地域生活支援センター  
神戸市障害者基幹相談支援センター  
神戸市発達障害者中部相談窓口  
所長 森崎 康文

第3期中期計画の2年目となる2018年度の取り組みを報告いたします。

最初に、障害者地域生活支援センター、基幹相談支援センター、発達障害者中部相談窓口の共通の重点計画として掲げましたワンストップサービスの強化をすすめる上で、ケースや各事業の動向の共有を行い、日々の相談支援での連携強化に努めてきました。

地域交流については、2018年度も「ほっとかへんネット兵庫」への参画と地域におけるニーズ把握等に努めてきました。9月には「地域ケア会議」に参加し、地域にお住まいの高齢者の課題について、高齢福祉、医療、民生委員、行政機関の方々とともに検討する機会を持ちました。また、地域の夏祭りに参加し相談窓口を開設、「福祉なんでも相談事業」のPR活動を行いました。地域ニーズの把握についてですが、区自立支援協議会の部会活動を通じて、障害当事者や関係機関からの声を聞く機会を設けました。

次に基幹相談支援センターは、神戸市内の特定相談支援事業所の後方支援に努めてきました。年に3回（8月、11月、2月）連絡会及び研修会を開催し参加者の声を踏まえながら、市内の特定相談支援事業所の方々に資する研修等を提供できるよう神戸市障害者支援課とも打ち合わせ、振り返りをしながら開催しました。兵庫県相談支援従事者研修コア会議や圏域コーディネーター連絡会、相談支援者初任者研修、現任者研修の企画、運営にも携わってきました。

最後に発達障害者中部相談窓口ですが、「発達障害を理解する」というテーマで相談支援事業所向けに講演をしたり、就労移行支援事業所で勉強会を実施しました。昨年度訪問した専門学校に連絡し勉強会の開催を打診しましたが、学校側の都合が合わず実施には至りませんでした。来年度も引き続き学校訪問等アプローチを続け大学、専門学校との関係強化に努めます。また若年の発達障害者への支援に関して兵庫県専修学校各種学校連合会を訪問し、今後も具体的な支援について取り組みを継続します。

1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>【地域】 「ほっとかへんネット兵庫」の活動への参画</p>	<p>①「ほっとかへんネット兵庫」の構成メンバーとの関係構築 ②公益的取り組みの検討・実施、振り返り</p>	<p>① ア) ほっとかへんネット兵庫実務者会議に出席 (4, 10, 3 月) イ) 「ほっとかへんネット兵庫」総会に出席 (5 月) ウ) 「福祉なんでも相談窓口相談員研修」に参加 (7 月) エ) 地震に学ぶ、災害時の福祉施設運営を考える」研修会に参加 (1 月) ② ア) 生活環境改善事業審査会に出席 (4, 10, 3 月) イ) 生活環境改善事業に参加 (5 月) ウ) 福祉なんでも相談窓口プロジェクト会議に参加 (6, 7, 10 月) エ) 地域のお祭り等で「福祉なんでも相談窓口」のPR活動を実施 (8, 9 月)</p>	<p>◎</p>
<p>【地域】 地域におけるニーズの把握と対応</p>	<p>① 地域のニーズ把握・結果分析の継続と対応</p>	<p>ア) 活性化部会 (6, 7, 8, 11, 1, 3 月) イ) 相談支援部会 (4, 7, 9, 11, 1, 3 月) ウ) 防災を考える部会 (6, 8, 10, 12, 1, 3 月) ヒ) ひとり地区防コミとの打ち合わせ (9 月) エ) 就労継続 B 型事業所部会 (6, 8, 10, 12, 2 月) オ) ふれあいワークショップ (1, 2 月) カ) 区協議会総会 (5 月)</p>	<p>◎</p>
<p>【地域】 調査業務の分担に関する調整、及び小規模センターの設置要望</p>	<p>①調査業務等の確実な実施とそのための継続的な区との業務に関する協議 ②業務の進め方の見直しによる職員のワークライフバランスの改善</p>	<p>① ア) 区役所との調査の割り振りについて協議 (各月) ② ア) 区役所の課長、係長、担当職員と調査業務の進め方について協議、意見交換 (6, 2 月) イ) 上記の協議後、調査件数について月 60 件から月 50 件未満にまで整理し、業務を軽減 (7, 8 月) ウ) 計画相談の進捗管理、児童の新規契約 (1 件/10 月) エ) 区の課長、係長、担当を交えて調査業務、上乘せ等の現状確認と意見交換 (2 月)</p>	<p>○</p>

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>【地域】 調査業務の分担に関する調整、及び小規模センターの設置要望</p>	<p>①調査業務等の確実な実施とそのため の継続的な区との業務に関する協議 ②業務の進め方の見直しによる職員のワークライフバランスの改善</p>	<p>① ア)区役所との調査の割り振りについて協議(各月) ② ア)区役所の課長、係長、担当職員と調査業務の進め方について協議、意見交換(6,2月) イ)上記の協議後、調査件数について月60件から月50件未満にまで整理し、業務を軽減(7,8月) ウ)計画相談の進捗管理、児童の新規契約(1件/10月) エ)区の課長、係長、担当を交えて調査業務、上乘せ等の現状確認と意見交換を行った(2月)</p>	○
<p>【共通】 他の福祉分野との連携による相談支援の拡充と総合相談窓口化に関する動向の把握</p>	<p>①ケアマネ等との交流の場の検討 ②総合相談窓口化に関する、国・市等の最新動向を逐次把握</p>	<p>① ア)近隣にある地域包括支援センターを受託している法人職員と今後の連携について意見交換を実施(6月) イ)介護保険の事業所との勉強会に参加(8月) ウ)近隣の地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席(9月) エ)兵庫障がいサークル主催の勉強会「介護保険サービスと障害福祉サービスの違いについて」に参加(11月) ② ア)圏域コーディネーター会議に出席するも、最新情報は未入手(各月) イ)兵庫県障害者自立支援連絡協議会相談支援部会に出席(8月) ウ)相談支援従事者指導者養成研修を受講(6月)</p>	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 法人フェイスブック (FB)、支援センターブログ等の有効活用</p>	<p>①FB、ブログの更新・内容の充実 ②効果検証</p>	<p>① ア) 法人 FB に記事を掲載 (6 月・基幹相談支援センター、9 月・地域生活支援センター、3 月・発達窓口) イ) 区協議会のブログを更新 (5 月) ウ) 神戸光生園主催の研修「伝わる撮影ワークショップ」に参加 (6 月) 実施状況 ② ア) 年間を通じてブログの更新の回数が少なく効果検証は未実施</p>	<p>△</p>
<p>【共通】 各事業の内容の共有化と見える化(職員会議、各事業に関する資料整理など)</p>	<p>①各事業内容の共有 ②振り返り ③整理した資料の更新と活用</p>	<p>① ア) 全体職員会議で各事業の最新動向、トピックスを共有 (各偶数月) イ) 地域生活、基幹、発達窓口合同の朝礼により、ケース共有等を実施 (原則、毎日)。 ウ) 地域生活、基幹、発達窓口合同の会議時にケース検討やトピックスを共有 (毎月) ② ア) 振り返りは未実施 ③ ア) 各相談機関の事業関係の書類を整理・更新 (各月)</p>	<p>○</p>
<p>【共通】 各事業の内容の共有化と見える化(職員会議、各事業に関する資料整理など)</p>	<p>①各事業内容の共有 ②振り返り ③整理した資料の更新と活用 ④各相談支援事業の内容と相談支援の流れを作成</p>	<p>① ア) 全体職員会議で各事業の最新動向、トピックスを共有 (各偶数月) イ) 地域生活、基幹、発達窓口合同の朝礼により、ケース共有等を実施 (原則、毎日)。 ウ) 地域生活、基幹、発達窓口合同の会議時にケース検討やトピックスを共有 (毎月) ② ア) 振り返りは未実施 ③ ア) 各相談機関の事業関係の書類を整理・更新 (各月) ④ ア) 就労相談部門でまとめた「相談支援の流れ」(マニュアル) をもとに担当者と今後の方針を確認 (9 月) したが、具体的な整備は未実施</p>	<p>○</p>

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
【共通】 各事業の内容の共有化と見える化	⑤顧客満足度調査の実施	⑤ ア) 地域生活支援センターの満足度調査については、計画相談支援サービスの契約者4名を対象者に実施（1月） イ) 発達窓口の満足度調査は相談者から20名に対して実施（1月）	○
事例検討の開催	①事例検討の継続	ア) 就労移行支援事業所の職員を対象に応用行動分析を用いた事例検討会を開催（7、1月）	○
大学、専門学校との関係構築	①学校へのフォローアップ、個別ケース対応 ②振り返り	① ア) 昨年度訪問した学校にフォローアップのため連絡した際、2名の在学生に関して当方に繋がりたいとの意向から併設の就労移行支援事業所の見学実施（8月、9月） イ) 兵庫県専修学校各種学校連合会の事務局長を訪問、次年度の研修会に繋がった（2月） ② ア) 学校側の都合もあり今年度は訪問できなかったことを確認 イ) 来年度5月以降に研修会の具体的な動きや方向性を確認	△
教職員との勉強会の開催	①勉強会の実施 ②振り返り	① ア) 就労移行支援事業所で勉強会を実施（6月） イ) 学校側に勉強会の提案を行った結果、「必要性を感じながらも、業務多忙なため、実施が難しい」との回答があり未実施（7月） ウ) 相談支援事業所等からの要請で「発達障害を理解する」というテーマで講演を行う（12月） ② ア) 昨年度勉強会を開催した学校に連絡、今年度は気になる学生はいないと回答がありあり振り返りを行い、今後の学校訪問等の方針を確認（9月） イ) 年間を通じた振り返りは行えなかった	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
児童福祉分野の知識の習得とそれらの関係機関との連携	①研修への参加と関係機関との交流	ア) 須磨区自立支援協議会総会に出席 (5月) イ) 須磨区自立支援協議会親子部会に参加 (6月、9月、1月) ウ) 「すまっこナビ」説明会に参加 (9月) エ) 発達相談員連絡会に出席 (10月、1月)	◎
市内特定相談支援事業者連絡会の充実	①連絡会及び研修会の開催、検証	ア) 第1回市内特定相談真事業者連絡会 (参加者 46名) 第2回市内特定相談真事業者連絡会 (参加者 39名) 第3回市内特定相談真事業者連絡会 (参加者 29名) イ) 毎回の研修会の内容を神戸市障害者支援課と協議、実施後は振り返りを行う (8、12、2月)	◎
スーパーバイズ (SV) の強化	①SVの定例実施	ア) 主任によるSVを10月に実施、課長面談を1月に実施 イ) 法人主任研修 (OJT) に参加 (6月) ウ) スーパービジョンとコーチング研修に参加 (7月) エ) 神戸市主催相談支援機能強化研修 (スーパーバイズ) に参加 (10月)	△
相談支援従事者育成プログラムの作成	①育成プログラムの作成と実施 ②振り返り	① ア) 育成プログラム (案) について課長、主任で話し合い内容を確認した (11月) ② ア) 確認は行ったが具体的な運用に至らず、振り返りも未実施 (9月)	×

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
内部研修 の充実	<p>①施設内部研修の継続</p> <p>②全体職員会議での基本理念の唱和</p> <p>③神戸聖隷ハンドブックの活用</p> <p>④法人内部研修への積極的な参加</p>	<p>①</p> <p>ア)「(昨年度实际した PCAGIP 法による事例検討会の)ビデオ上映会」を実施(9月)</p> <p>イ)内部研修として事例検討会を実施【参加者35名】(12月)</p> <p>②</p> <p>ア)全体職員会議で、基本理念の唱和を実施(各偶数月)</p> <p>③</p> <p>ア)ハンドブックの内容を確認、ハンドブックの活用について説明(8,11,12月)</p> <p>④</p> <p>ア)海外研修報告会(5月)</p> <p>イ)ビジネスマナー研修(5月)</p> <p>ウ)一般職員研修Ⅰ(6月)</p> <p>エ)一般職員研修(多職種間連携)(7月)</p> <p>オ)主任・副主任・エキスパート研修(8,9月)</p> <p>カ)課長研修(事前研修9月、11月)</p> <p>キ)総合職員研修(2月)</p>	◎

2. 出来た事案  
特にありません。



## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 ひょうごデイサービスセンター  
 施設長 大嶋 信幸

少子高齢化により人材確保がより困難な状況ですが、当センターももれずに非常に苦労した年度となりました。その中において、65歳を迎えられた利用者に引き続き慣れた当センターを安心して利用していただけるよう「共生型通所介護（介護保険事業）」の事業指定を受けることができました。また、今年度より事業毎の看護師の配置をひょうごデイサービス全体の「医務」へと組織を再編し、看護師全員でセンターをカバーしていく体制に変更しました。サービス提供マニュアルの整備、看護師間の連携により安定してサービスを提供できつつあります。また、アクシスひょうご（短期入所事業）においては、夜勤専任の看護師を2名配置し、前年度よりも多くの要医療ケア利用者を受け入れることができました。IT、ロボットの活用については、先行している施設のアドバイスをいただき、次年度に導入することを決定しました。収支バランスについては厳しい状況が継続しています。利用率の低迷については、新たな利用者の確保に向け、各支援学校、障害者地域生活支援センターを訪ね、次年度以降の利用見込みとそのニーズの把握に努めました。現在、そのニーズに基づいたサービス提供の在り方について検討を重ねているところです。第三期中期計画最終年度となる次年度、人材を早期に確保し、ビジョンに掲げる「利用者とその家族が安心できる地域生活の実現」に向け、確実に事業を推進させていきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
緊急時の短期入所受入	<b>①緊急時の受入体制整備</b> <b>②緊急時の受入実施</b>	① ㊦緊急時受入フロー表、スペース整備図作成（5、8月） ㊧緊急時受入実施（7、8月） ㊨神戸市へ受入体制確認訪問（9月） ② ㊦緊急時受入実施（12、2、3月） ㊧神戸市へ実績報告（3月）	○
積極的参加	<b>①役員定例会への出席</b> <b>②生活環境改善事業等への参加</b>	① ㊦役員定例会へ出席（5月、9月） ㊧実務者会議、生活環境改善審査会、総会へ出席（4月、5月） ② ㊦生活環境改善事業へ参加（5月） ㊧実務者会議、生活環境改善審査会、総会へ出席（4月、5月）	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
ボランティアの募集から定着までのシステムの運用	<b>①受入マニュアルの完成</b> <b>②受け入れマニュアルの運用</b> <b>③受け入れマニュアルの見直し</b>	① ア) ボランティアマニュアル、台帳の作成 (5月、8月) ② ア) 須磨翔風高校へボランティア募集依頼 (5月、6月、7月) ③ 未着手	△
月次実績表内容を全職員と共に分析	<b>①月次実績表ファイル整備</b> <b>②実績共有会議の開催</b> <b>③各利用者利用率の可視化</b>	① 未着手 ②③ ア) 全体職員会議にて各事業の実績状況・分析を共有 (6月、9月) イ) インクルージョン、多機能・生活介護にて実績共有会議を開催 (7月、8月) ウ) 中間決算・年度末予算ヒヤリングの結果を用紙配布して共有。(10月、3月) エ) 全4事業の各利用者各月実績表を毎月職制会議にて共有 (9月～) ③ ア) 上記実績表を多機能・生活介護にて共有し、2019年度各利用者の利用見通しを各担当支援員が計上 (1月)	△
加算の見直し	<b>①リハビリテーション加算の取得</b> <b>②看護師加算の取得</b>	① ア) リハビリテーション加算開始 (6月～) イ) 継続して加算計上し、算定要件である各利用者のリハビリ計画のモニタリング・計画書を作成 (3か月毎) ② ア) 看護師加算Ⅱインクルージョンのみ加算開始 (5月～)	◎
共生型サービスの実施	<b>①事業申請</b>	① ア) 申請手続きし、事業認可 (8月) イ) 事業開始 (9月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
各行政機関、相談支援事業所への広報、案内等の推進。支援学校進路説明会での事業説明	①ひょうごデイサービスのわかりやすいリーフレットの配布 ②友生、明生等支援学校連絡説明会での事業説明 ③各支援学校訪問、事業のアピール	① ア)リーフレット配布継続(7月、8月) イ)友生支援学校訪問(8月) ② 事業説明会が開催なし ③ ア)ながた、中央支援センターへ訪問(7月) イ)友生支援学校卒2名様インクルージョン、多機能両事業新規利用調整(1月～)	○
職員配置・協力体制の見直し	①送迎運行ダイヤ改正と運行開始後の見直し ②「医務」の設置 ③入浴サービス提供体制の検討	① ア)運行ダイヤの再調整・シミュレーションを継続実施(4月～3月) ② ア)ひょうごデイ医療ケア一覧表作成(6月～9月) イ)生活介護の医療ケアレクチャー実施(7月) ウ)生活介護両事業相互で看護師の連携体制を常態化(4月～3月) ③ ア)利用率向上視野に入浴支援体制検討するも変更に至らず	△
HP、SNSを活用した積極的な広報の実施	①HPの1か月に1度の更新 ②SNSの立ち上げと定期的な更新	① ア)ホームページ改訂(9月) イ)スケジュール通りFB更新(8月) ② ア)HP、FB共定期的な更新実施(9月～)	◎
「医務」の新設とミーティングの定期開催	①医務ミーティングの定期開催と業務分担の見直し	① ア)毎月ミーティング開催(毎月) イ)ひょうごデイ医療ケア一覧表作成(6月～9月) ウ)要医療ケア利用者の情報共有(毎月) エ)2019年度医療ケア提供体制と在り方を討議(2、3月)	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
課長面談による職員フォローと組織課題の明確化	①年 2 回の課長面談の実施 ②組織課題の明確化	① ア)メンタルセルフチェック実施へ向けて討議中(8月) イ)課長面談下半期に実施を計画(9月) ウ)定期的な課長面談実施には至らなかったものの、各職員動静に応じて精力的に面談実施(10月～) ② ア)全職員セルフチェック実施、集計(2、3月)	△
経営方針の確認と共有・組織の活性化	①3 か月に 1 度の全体職員会議の開催	① ア)予定通り開催(6、9、12、3月) イ)各事業状況の共有、収入・利用率アップの取組状況共有(6月) ウ)理事長講話による理念研修を実施(12月) エ)36 協定、2019 年度事業計画説明等で 2 回開催(3月)	◎
有給休暇取得率の向上と残業の削減	①取得率 50%以下の職員の前年度プラス 1 取得の為 ・現状把握と誕生日休暇の計画的取得 ②月 30 時間以上の時間外勤務の削減の為 ・実態把握と業務分析	①② ア)本部データにて前年度実績を確認(6月、7月)	△
介護ロボット、IoTの導入	①ロボット導入検討 ②IoTの情報収集	① ア)サイバーダイン(株)による介護ロボ HAL 装着体験会を実施(10月) イ)パナソニックカーエレクトロニクス(株)による送迎支援システムの説明会を実施(10月) ② ア)イノフィス(株)によるマッスルスーツ装着体験会を実施、活用スケジュールを作成。2019 年度予算化(1月～3月) イ)上記送迎支援システムのデモンストラーション開始(2月)	◎

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
夜勤専任看護師の配置	①夜勤専任看護師の雇用 ②夜勤専任看護師の役割・業務分担の検討	① ア)夜勤専任看護師着任(6月、11月～週1回) イ)要医療ケア利用者のレクチャー実施(7、8、11、12月) ウ)新着夜勤専任看護師1名の就業状況を面談にてフォロー(3月) ② 未着手	△
吸引等医療行為資格保有支援員の配置	①1名以上の資格取得 ②介護職員による医療行為実施施設の申請	①② ア)金井副主任座学の研修終了するも実地研修は対象利用者入院のため次年度持越し	△
マニュアル作成・更新システムの整備	①マニュアル第一版作成 ②マニュアルの周知・見直しの仕組みの構築 ③第三者評価受審	① ア)業務マニュアル第1版完成・整備・周知(4月、6月) ② ア)評価結果出るまでに、実地調査にて指摘されたマニュアル更新手順と周知徹底方法、OJTマニュアル改訂の必要性を確認(12月～) ③ ア)第三者評価シート入力し、その内容を確認すると共に、作成必要な各種マニュアルを作成(8～11月) イ)第三者評価訪問調査(利用者・実地)実施(11月)	○
リスクマネジメント委員会の運営	①定例委員会の開催 ②ヒヤリ・事故報告の分析と啓発活動 ③レベルチェックに基づいた各チェックポイントの改善策検討	①② ア)毎月委員会開催し、報告分析(4月～) イ)第三者評価調査シート入力内容を委員会・職制にて精査し、マニュアル委員会と連動して各種マニュアル整備(8～11月) ウ)エクセルにて過去3年間の事故報告書データ検索システムを作成(2月) エ)インフルエンザ感染対策実施状況を共有(1月) ③ 未着手	△

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
入浴支援 提供体制 整備	①夏季入浴試行と調整 ②安全性向上への取組 と環境整備の検討	① ア)入浴利用者のニーズをリサーチ（7月、8月） イ)提供方法を検討したが、体制上試行できず。（8月） ② 未着手	△
研修計画 書の作成	①研修計画の策定と計 画に基づいた研修の 参加促進 ②新着職員研修の実施 ③法人内部研修への参 加	① ア)年間研修計画作成（4月） ② ア)新着任職員研修1回のみ開催 ③ ア)法人内外研修参加（28回）	○
人事考課 制度の定 着	①人事考課の確実な運 用 ②各職員の目標達成	① ア)目標確定の為の面談実施と毎月の進捗管理（毎月） ② ア)概ね達成	△
理念研修 を実施	①法人基本理念リーフ レットの活用・法人 理念研修への参加 ②理事長講話による理 念研修の実施 ③毎週月曜日法人基本 理念・ひょうごデイ 基本方針の唱和	① ア)他法人理念研修へ3名参加（6月、2月） ② ア)理事長講話による理念研修開催（12月） ③ ア)毎週月曜日法人基本理念唱和（継続）	△

## 2. 出来した事案

特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸市立自立センターひょうご  
 施設長 大森 陽子

第3期中期計画（2017年度～2019年度）の2年目にあたる2018年度、概ね計画通り事業を推進することができました。開設22年を迎え、ご利用者の高齢化、重度化への対応が中期計画においても大きな一つの課題となっていますが、65歳を迎えられたご利用者が引き続き慣れ親しんだ当センターを利用していただけるように「共生型通所介護（介護保険事業）」を開設することができました。また、高齢重度利用者の活動スペースを新たに設け、安全確保にも努めご利用者お一人おひとりのペースで過ごしていただけるよう環境整備を行いました。その取り組みが評価され、満足度調査の結果も前年度より向上させることができました。また、バリアフリー、活動スペース拡充のための改修設計図案も作成することができ、将来の改修に向けてスタートをきることができました。親なき後の支援については、昨年度から継続しています家族会合同の勉強会を開催し、「緊急時の対応」「親なき後の準備」について学びを深めることができました。また、吉川講師による理念研修を4回開催し、振り返りとディスカッションを行ったことは、支援の在り方について考える良い機会となったと考えます。地域活動としては、地元の企業の力添えを頂きセンター周辺の清掃活動を定期的に行いました。また、知的障害者の理解啓発そして、地域交流として落語会も予定通り開催することができ、多くの方にセンターに足を運んで頂くことができました。第三者評価でも一定の評価を頂き、利用者支援の仕組みが確立しつつあることを客観的に把握することができました。

次年度につきましても、「利用者・家族のこころのよりどころとなる自立センターになる」とのビジョン実現に向け、職員が一つの方向に向き丁寧に事業を推進させていきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
基本理念 研修の 開催	①基本理念研修の開催 (継続) ②基本理念、基本方針 の定期的な唱和	① 講師：吉川潤講師(多聞福音教会) ア)第1回目実施(7月) ディスカッション(8月) イ)第2回目実施(9月) ディスカッション(10月) ウ)第3回目実施(11月) ディスカッション(12月) エ)第4回目実施(1月) ディスカッション(2月)	◎
		② ア)職員・職制会議で唱和(4～3月) イ)毎週月曜日の朝礼で実施(4～3月) ウ)グループミーティングで実施(4～3月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
事業計画に基づいた目標設定	①グループ再編成後の各コンセプトに基づいた目標の設定と実践 ②振り返りの実施	① ア)各グループで目標設定の話し合いを開催(4月) イ)各月で実践(4~3月)	○
		② ア)各グループに月に2回の振り返りの促し(4~3月) イ)各グループで月に2回の振り返りの実施(4~3月)	△
研修体系の構築と外部研修への参加	①「強度行動障害者支援者養成研修」「PECS研修」への参加 ②新人職員と中堅職員(3年目以上)を対象とした研修の明確化 ③障害特性別研修の明確化 ④エルダー制の確立 ⑤虐待不適切ケア評価表の活用(虐待防止担当との連携)	① ア)強度行動障害者支援者研修参加(9・12月) イ)PECS研修参加(6月)	◎
		② ア)参加研修の話し合い実施(4~6・11・2月) イ)参加研修のマニュアル完成(6月) ウ)研修参加(4・6・7・8・9・10・12月)	○
		③ ア)参加研修の話し合い実施(4~6・10月) イ)参加研修のマニュアル完成(6月) ウ)研修参加(7・8・9・10月)	○
		④ ア)新着職員2名と前年度からの引き続き1名でエルダー制開始(4月) イ)エルダー会議開催(4・6・7・8・9・11・2月) ウ)1ヶ月の振り返り実施(6月) 3ヶ月の振り返り実施(5・7・9月) 6ヶ月の振り返り実施(9・10月) 全体の振り返り実施(12月)	◎
		⑤ ア)話し合いの開催(4・7・10・2月) イ)虐待委員との勉強会開催(5月) ウ)事例検討会開催(8月) エ)法人訪問学習会に参加(12月)	△



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
研修体系の構築と外部研修への参加	⑥研修参加後の共有	⑥ ア)研修後の共有方法の話し合い開催 (4・5月) イ)職員会議で研修報告会にて共有 (5～12月)	○
営業活動ツールの作成及び見直し	①パンフレット、PVの作成、HPの見直し、FACEBOOKの更新 ②見学・体験プログラムの見直し ③支援学校事業説明会への参加とアピール	① ア)アピールポイントの抽出、整理 内容・構成検討 パンフレット案作成 業者発注 パンフレット完成 イ)HP 更新に向け内容検討 更新 (9・10月) ウ)FACEBOOK 入稿 (4・5・6・7・11・3月)	◎
		② ア)プログラム案の再検討 イ)書式整備(フェイスシート、アセスメントシート、聴き取りシート、ケア記録、振り返り記録) ウ)支援学校実習受け入れ9名 エ)支援学校実習受入マニュアル完成 実習生受入票、オリエンテーションレジュメ、実習記録等書式改訂	◎
		③ ア)生徒・家族・教諭へのアピール イ)パンフレット配布	△
利用率向上に向けた取組	①年間予定表と祝日プログラムの利用者、家族へのアピールと周知 ②中部在障内の短期入所事業との連携	①祝日プログラム ア)上半期の祝日プログラムの案内配布 (4月) イ)下半期の祝日プログラムの案内配布 (9月) ウ)イベントポスター掲示 (4・5・7・9・10・11・12・1・2・3月) エ)祝日プログラムふりがな予定表にて案内 ウ)祝日プログラム実施 (5・7・9・10・11・12・1・2・3月)	○
		②短期入所事業との連携 ア)兼務支援員アクシスミーティングに参加 イ)アクシス利用者のサポート	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
予算（事業費）の周知及び執行状況管理	①事務消耗品の精査と計画に基づいた備品の購入管理 ②年間計画に基づいた事業の実施と支出の管理	① ア) 予算作成時の購入希望物品表・研修予定表の周知(4月)、購入時期の確認(5月) イ) 予算と支出の照合(9月) ウ) 予算執行状況確認(10月) エ) 物品購入進捗状況の把握(11・12月)	◎
		② ア) 予算積算内訳表の共有、周知 イ) 車検日の確認 ウ) 4～8月分の予算と支出の照合(9月) エ) イベント等の状況把握(11月)	○
有給休暇取得率の向上と残業の削減	①取得率50%以下の職員の前年度プラス1日取得 ②月30時間以上の時間外勤務の削減	① ア) 前年度実績の把握 取得日数5日未満者の特定 取得率50%未満者の特定 誕生月の確認 イ) 取得方法の共有 誕生日休暇取得予定表の作成(5月) 有給休暇管理表に目標値記入 ウ) 取得状況の確認 エ) 未達職員への取得促進・職制へのシフト等協力依頼(1月)	◎
		② ア) 30時間以上の時間外勤務者把握・面談 イ) 時間外勤務についての課題の明確化(2月)	○
合同勉強会の開催（家族と支援員）	①家族と高齢化、機能低下、制度の理解についての学びの場を作り知識を共有	ア) 保護者会にて勉強会実施(7・9・11月) イ) グループホーム見学(5・10月)	○
送迎サービスの充実	①ニーズ調査の実施 ②送迎システムの再構築と2018年9月までに待機者半数の乗車実施	① ア) いかり作業所待機者確認 イ) 座席空きの送迎車確認	○
		② ア) 追加希望者、新規希望者6名送迎利用	○
機能訓練の実施	①ニーズ調査の実施 ②理学療法士の選定	① ア) 法人内理学療法士から情報収集(4・5月) イ) アンケート実施(10月)	△
		② ア) 法人内外から情報収集	△

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
第三者評価の実施	①第三者評価の実施 ②活用セミナーの受講 ③事業所の現状把握と改善への取組	① ア)利用者聞き取りアンケート(10月) イ)訪問調査(11月)	○
		② ア)事前セミナー受講(8月) イ)事後セミナー受講(3月)	○
		③ ア)次年度取組事項 改善計画の策定	○
共生型通所介護の運営	①事業指定申請 ②サービス利用契約の締結	① ア)事業指定申請書を提出(7月) イ)9/1付け事業指定通知受領(8月)	◎
		② ア)サービス利用契約締結(10月) イ)2名、利用開始(10月～)	◎
グループホームの運営	①ニーズ調査の実施 ②ホームの形態の検討 ③見学の実施	① ア)グループホームの意識調査(アンケート)実施・集計・分析	◎
		② ア)人材確保を含め検討継続	○
		③ ア)グループホーム「えみのき」(5月) イ)グループホーム「あいすくりーむの家」(10月)	○
『ぎゅっととハート』(サポートブック携帯)キャンペーンの拡大	①『ぎゅっととハート』キャンペーン(地域住民へのアピールの為に街頭ティッシュ配り)の実施 ②近隣施設へステッカー貼付の呼びかけ ③サポートブック新規作成・更新の呼びかけ ④自立支援協議会「防災部会」への参加	① ア)自立センター 缶バッジ装着(通年) イ)兵庫駅前街頭キャンペーン(9月)	○
		② ア)以前掲示依頼した近隣施設への呼びかけ(6月)	○
		③ ア)新規利用者向けの作成呼びかけ(9月)(新規作成2名)	○
		④ ア)自立支援協議会「防災部会」参加(5・6・8・12月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域清掃活動プログラムの実施	①清掃の実施(月1回)	ア)駅前広場のゴミ拾い (4・5・6・7・9・10・11・12・3月実施)	◎
新規定期ボランティアの確保	①日中活動プログラム、祝日プログラムボランティアの呼びかけ ②西松医師による地域住民向け落語会の開催(年間2回予定 5月、10月) ③祝日プログラム出し物 ボランティア募集	① ア)駅前広場のゴミ拾いボランティア(毎月1名~3名) イ)近隣の大学にボランティア募集ポスター掲示 ウ)実習生への祝日ボランティアの呼びかけ	△
		② ア)キャナル自治会・近隣商業施設ポスター掲示(4・9月) イ)『第2回よつば寄席』(5月) ウ)野菜・花の苗を作成(5月) エ)『第3回よつば寄席』兵庫駅前街頭にてちらし配布(9月) オ)『第3回よつば寄席』(10月)	◎
		③ ア)祝日プログラムの出し物 支援員が実施	△
活動スペースの現状分析・課題の明確化	①グループコンセプトに合致させたスペースの仮設計の作成 ②適切な定員数・定員に応じた活動スペースの推考	① ア)設計士と共に施設見学実施(7・8・9月) イ)設計士との打ち合わせ (5・8・9・10・11月)	◎
		② ア)兵庫県での定員数の明確な基準はなく、他府県での基準を参考 イ)施設見学時 利用者数及び作業室等の㎡を確認	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
快適で安全なセンター内環境の整備	①他施設見学 ②改修箇所の精査とレイアウト検討 ③センター内設備の充実 ④センター内美化への取組	① ア)7月:2ヶ所(みらいおもいけ園・たまも園)8月:1ヶ所(ひだまり園)9月:2ヶ所(イリス・もとやま園)の計5ヶ所	◎
		② ア)各グループ、総務、医務 改修箇所の検討(4・5月) イ)設計士との打ち合わせ(5・8・9・10・11月)	◎
		③ ア)パーテーション購入(6月)	○
		④ ア)事務所キッチン・トイレ清掃の担当表を作成し毎日実施。グラウンド清掃(6月)利用者ロッカー整理(10月)事務所・職員ロッカー清掃(12月)倉庫B・C整理(3月)	○

2. 出来た事案  
特にありません。

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 ワークセンターわかまつ  
 施設長 木南 仁

ワークセンターわかまつにおいて2018年度の大きな取り組みであり、社会福祉充実計画の1つでもある「長田地区でのカフェの新設」については、新長田南地区(2号線以南)に良い物件が見つかりました。2019年10月の開店を目指して進めていきます。カフェの出店も見越し、利用定員を6月から40名に変更しました。そこで利用希望の見学等を随時受け入れましたが、ようやく3月から1名増員されました。一方、年度末で法人内就労移行支援事業所に1名を送り出しました。引き続き、利用者確保に努めていきます。また、上半期は気象警報が度々発令され月々の利用率が低迷しましたが、下半期はご利用者・ご家族のご協力もあり祝日の6日間を営業し、何とかカバーすることができました。

作業面については、廃版海図を使った新商品の販路拡大やベーカリー商品の試作以外にも包装の工夫等を行いました。下請け作業では年度途中で受注終了の企業もあり、作業確保に努めました。結果として作業工賃は昨年度とほぼ同額を支給することができました。

ご利用者に将来を考える機会を提供するためにグループホームの見学を企画しただけでなく、利用者自治会で座談会を開きました。グループホームを利用しているご利用者と意見交換を行い、今後につながるとても貴重な時間となりました。

職員の専門性の向上には外部研修への参加だけでなく内部研修を実施しました。また、法人理念の浸透には神戸聖隷ハンドブックを活用し、職員会議時は輪読しました。ワークライフバランスを整えるためにノー残業デー(水曜日)も継続して行いました。さらに毎月「虐待防止セルフチェック」を実施し、自身の支援の振り返りだけでなく他の職員の支援も確認する場面を設定することができました。利用者への支援向上を目指して、今後も様々な取り組みを実施していきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
カフェの出店と地域住民に開放するスペースを提供	①カフェ出店に向けた準備	ア) 新長田まちづくり(株)社長訪問(6,7月) イ) 大正筋商店街等の物件について地元不動産業者との打ち合わせ(随時) ウ) 職員間でカフェの話し合い実施(随時) エ) カフェ出店の理事会上程と承認(3月)	△
地域の会合、イベントに参加	①長田区自立支援協議会、法人連絡協議会へ積極的に参加	ア) 須磨区、長田区自立支援協議会、長田区法人連絡協議会に積極的参加。(随時) イ) 地域でのイベント販売(須磨区、長田区等)に積極的に参加。(随時) ウ) 大正筋商店街縁日[販売]に参加(7月) エ) すましあ、一七市拡大版参加(11月) オ) すまるしえ[販売](5,8,10,1,2月)	◎

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
定員増 30→40名	①定員 30名から 40名に変更	ア) 定員変更届を神戸市へ提出(4月) イ) 定員変更(30名→40名)(6月)	◎
稼働率 75%以上	①稼働率 75%以上をめざし利用者 35名登録の維持	ア) 各支援センター等からの紹介で面接等を実施(随時) イ) 利用者登録 34名継続(3月初で1名増、3月末で1名減) ウ) 職制会議・職員会議で出勤率確認(毎月) エ) 出勤率リカバー対策を職員会議で検討(8月)、家族会で提案(9月) オ) 10月から3月で合計6日間の祝日を稼働日へ変更(リカバー対策)	○
目標工賃 達成加算の取得をめざす	①工賃収支を把握し、作業内容の計画的検討	ア) 前年度との収支比較(毎月) イ) 神戸地区共同受注ワーキング(6月) ウ) 企業への訪問を実施。内容検討。(8月) エ) 県知協主催生産活動・就労支援部会研修～工賃向上を考える～に参加(10月)	○
事業支出の見直し	①事業支出の見直し、検証	ア) プロバイダ(OCN)との契約終了(6月) イ) 超過勤務(申告制)の再確認(9月) ウ) 大塚商会たのめーるで物品購入開始(法人価格への改善依頼実施)(10月)	○
作業内容の見直し	①自主生産品の工夫及び販路拡大	ア) チャートバッグの販路拡大に向けた会議の実施(4月) イ) 既販路先との商談[新商品営業](6月) ウ) ポストカード・ミニ封筒の新デザイン作成・販売開始(10月) エ) シュトーレンの神戸地区全施設への注文販売を実施(12月)	○
	②意見交換会の開催(職員会議)	ア) 新商品検討会議の実施(7月) イ) チャートバッグのギフト注文時の使用について検討会議実施(7月) ウ) シュトーレン予約販売検討会(11月)振り返り会(12月) エ) カフェを想定した商品検討会(1月)	◎
業務マニュアルの整備	①業務マニュアルの再整備	ア) 作業マニュアルの作成(5月) イ) ベーカリー班マニュアル作成(10月) ウ) 支援マニュアルの改訂(3月)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
利用者ニーズに即した支援	①定例利用者自治会を開催し、行事(宿泊等)や満足度調査の実施及びフィードバック	ア) 利用者自治会の定期開催(偶然月) イ) 利用者の意見を参考に宿泊活動の行き先を決定。旅行会社との打合せ(8,9月) ウ) 宿泊活動実施(10月) エ) 利用者満足度調査内容検討(11月) オ) 利用者満足度調査実施(1月) カ) 家族向け満足度調査実施(2月) キ) わかまつ通信第6号にて満足度調査結果公表(3月)	◎
防災対策の推進	① 防火・防災訓練の実施	ア) ジョイプラザ合同防災訓練(5,11月) イ) わかまつ独自の防災訓練実施(1月)	○
	②災害用備蓄品の整備・確認	ア) 今年度の整備備蓄品の確認(6,7月) イ) カセットボンベ等購入(10月)	△
	③マニュアルの整備	ア) 緊急時の家族向け一斉メールを前回届かなかった希望家族の設定変更を依頼し、再度テストメール試行(6月) イ) 火災発生時マニュアル[案]作成(10月)	○
グループホーム設置の検討	①グループホームのニーズ調査の実施・検証	ア) 利用者満足度調査と併せてニーズ調査実施(1月) イ) グループホームについてのアンケートを実施(3月)	○
	②グループホームの見学会や座学の実施(利用者向け・家族向け)	ア) 利用者及び家族向けにグループホームふくだ見学会の実施(6,7月) イ) 座学実施に向け、内容検討(11月) 利用者自治会にて座学(入居者にインタビュー)実施(12月) ウ) あいすくりーむの家見学[職員](11月)	◎
研修の実施と充実	①内部/外部研修実施	ア) 内部研修:「記録の取り方」実施(7月) イ) 外部研修:法人内研修(随時),市知連職員部会研修(5,3月),商品向上セミナー(5月)市民福祉大学(9月),福祉の集い(9月)市知連[生産活動・就労支援研修会](10月)、長田区感染症対策講座(10月),家族ネット全国大会(10月),財務管理研修(12月)食品衛生管理者研修(1月),ダウン症研修(1月)	○



実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
業務の見直し	①業務時間内での的確な業務の実施 (業務について職員間で分析、話し合いの機会を持つ)	ア) 職員終礼開始時間を16:15から17:15に 試行(7月) 検討会を行ない継続実施(8月～)	○
法人理念と支援指針の共有	①内部研修を通して理解共有	ア) キリスト教福祉講座参加(9月) イ) 職員会議にて神戸聖隷ハンドブック輪 読(9月～) ウ) 美濃部さんを囲む会を実施(12月)	○
虐待・不適切ケアの防止	①事例検討の実施(年2回)	ア) 法人虐待防止学習会参加(9月) イ) 虐待防止チェックリスト実施(毎月) ウ) 虐待防止事例検討会実施(10,1月) エ) 苦情解決セミナー参加(12月)	◎
利用者・家族への情報提供	①家族、利用者向けに広報誌の発行(年3回)	ア) わかまつ通信発行(7,11,3月)	◎
全職員で中期計画の進捗管理	①職員会議で中期計画の進捗状況の確認(年4回)	ア) 職員会議にて中期計画の進捗状況を確認(6,9,12,3月)	◎

## 2. 出来た事案

特にありません

## 2018 年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 せいれいやさかだい  
 施設長 岩井 誠一

せいれいやさかだいは、企業内事業所の立地を活かして神戸市から「就労準備支援事業」を受託し、社会的に孤立状態にある方々の社会参加に繋がるよう支援を行いましたが、結果は1名の利用に終わりました。対象となる利用者ニーズ(高工賃)と就労継続支援B型事業所の働き方(理想と現実)に大きな開きがあったこと、関係機関への継続的・より積極的な働きかけが不足していたことが利用率の伸びなかった要因と考えられます。2年間で委託事業は終了となりましたが、生活困窮者の活動の場として、事業所としてできることは継続する意向です。

せいれいやさかだいの活動場所について、最適な場所の確保に向けた情報収集を継続しました。しかし全ての条件が揃う物件には出会えず事業推進できませんでした。

友が丘事業所においては地域の様々な活動への参加や、ボランティアとしてご奉仕くださる地域住民の皆様との充実した交流を継続しました。ささやかな貢献活動としてのサロン活動を継続し、健康広場の除草作業と週1回の健康体操の呼びかけなど新たな交流の機会を大切に、更なる活躍の場を模索してきました。

友が丘事業所の生活介護ニーズに対する取組みは、高齢化・重度化への対応に法人内理学療法士の支援を得て介護方法の見直しを行いました。更なる高齢化・重度化に対応すべく専門家からの支援を重ね、安心してご利用いただける場所を目指します。

市内2校の特別支援学校に協力をいただき、法人内事業所と合同で「ABA(応用行動分析)」の学習会を開催しました。利用者の障害を正しく知ること、対応に科学的根拠を見出すことで、利用者の約7割を占める自閉症スペクトラムの方々へより良い支援が提供できるように取り組みを継続しました。

### 1. 推進状況

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
地域貢献WGによるニーズ調査	①検討会開催	① ア)友が丘総合事業推進会議にて、民生児童委員との懇談会や各機関との連携によって得た情報を基に方向性を検討(4/26, 5/23, 7/5, 8/10, 9/7, 10/30, 12/20) イ)神戸聖生園と検討会議を実施(11/7)	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
地域貢献WGによるニーズ調査	②調査方法と内容の検討	② ア)友が丘地区民生児童委員懇談会に出席(4、6月) イ)北須磨保育センター・たすけあいネットワーク訪問(5月) ウ)「OH! BANZAI」と協議し、独居者のリサーチを兼ねたポスティングを実施(5月～) エ)北須磨団地自治会長と面談。除草作業の検討(6月) オ)「ささえ愛学習会」に出席(11月)	○
地域貢献計画の策定	①友が丘事業所での地域貢献計画の策定	ア)地域高齢者の居場所づくり計画 ・健康広場において毎週火曜日の午前、体操を実施(7月～2019年3月) ・ヨガの実施(4月～2019年3月) ※地域の参加者はなし	○
サロン活動の継続	①月1回のサロン活動の継続	ア)年間を通じて10回のサロン活動を実施。延べ50名の地域住民と利用者参加の食事を実施 イ)12月にクリスマス会を実施。地域住民、来賓合わせて13名出席	◎
ミニ広報紙発行実行計画	①年3回発行	ア)7月末に第2号発行。地域自治会掲示板にて広報活動実施 イ)第3号の発行には至らず	○
移転計画立案	①活動場所の確保	ア)神戸市所有地の確認(4月) イ)土地情報を収集し、3丁目物件を検討(5月) ウ)近隣の物件をリサーチ、神戸市住宅都市局「空き家・空き地活用課」登録(6、7月) エ)神戸聖生園との検討会議の議題にも挙げるが、具体的な土地情報無し(11月) オ)土地情報、具体的検討に至らず(12月)	△

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
就労準備支援事業対象者の確保	<p>①広報紙作成</p> <p>②福祉事務所への広報活動</p>	<p>①</p> <p>ア) 神戸市保健福祉局と打合せ、昨年度作成分の使用と、その後再検討了承 (4月)</p> <p>イ) 広報用パンフレット 500 枚増版実施 (10月)</p> <p>ウ) 「神戸市就労準備支援事業事業者説明会」説明実施 (神戸貿易センタービル 10/19)</p> <p>エ) 第5回生活困窮者自立支援全国研究交流大会に参加 (熊本県立劇場 11/10～11)</p> <p>オ) 兵庫県社会福祉事業団「第16回職員研究・実践等発表大会」参加し、口述発表 (総合リハビリテーションセンター12/14)</p> <p>②</p> <p>ア) 4月～2019年3月 広報実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カトリック社会活動神戸センター</li> <li>・神戸市立楠高等学校・しごとサポート中部</li> <li>・長田・西・垂水・北区保健福祉部生活支援課・あんしんすこやか係・社会福祉協議会</li> <li>・ながた・いたやど・すま・ひょうご障害者地域生活支援センター</li> <li>・須磨区保健福祉部くらし支援窓口・北須磨支所保護課</li> </ul>	○
関係機関との連携強化	<p>①受託事業所との連携強化</p>	<p>ア) 就労準備支援事業連絡会議出席 (5/10)</p> <p>イ) カトリック社会活動神戸センターにて現任訓練実施 (5月3回)</p> <p>ウ) 北須磨民生児童委員の集会にて広報 (6/2)</p> <p>エ) ユースネット見学 (6/13)</p> <p>オ) ヨハネ会より見学。北区くらし支援課家計相談出席 (5/17、8/16)</p> <p>カ) 垂水区役所くらし支援窓の説明会にて広報 (8/6、8/10)</p> <p>キ) 「平成30年度神戸市就労準備支援事業事業者説明会」にて説明 (10/19)</p> <p>ク) 第5回生活困窮者自立支援全国研究交流大会に参加 (11/10～11：熊本県立劇場)</p> <p>ケ) 兵庫県社会福祉事業団「第16回職員研究・実践等発表大会」に参加し、口述発表 (総合リハビリテーションセンター12/14)</p>	○

実行計画	2018年度計画	実施状況	達成度
安心安全な環境を整える	①介護講習会の実施 ②友が丘事業所の改修工事	① ア)個別モニタリング実施(5月) ② ア)生活モニタリング実施	◎
日中活動の見直し	①プログラムの見直し ②健康機能の数値化	① ア)育成会訪問し、会長より高齢化について展開・育成会の取り組みの教示(5/13) ② ア)高齢化学習会を実施。(12/25:友が丘事業所) イ)職員で高齢化指標の情報共有(12月)	○
事例検討会の実施 実行計画	①ABA理論に基づく事例検討会の実施	ア)支援学校教員を講師として学習会を実施(7/18、10/17、1/30)	◎
就労支援プログラムの策定	①先進事業所の見学(2回)	ア)北須磨保育センターを訪問し地域ニーズの基づくサービス展開実績リサーチ(5/8) イ)西ネットワークを訪問し実績調査(7月) ウ)会社訪問し、事業展開を拝聴(11月)	○
	②活動内容の検討	ア)リサーチを基に作業活動内容再考。除草作業試行(健康広場)	○
利用者の確定	①面談を通じて利用者ニーズを把握	ア)後期モニタリングにて、2名のニーズを確認、利用サービスの変更も踏まえて事業所間移行の確認を行う	○
	②神戸聖生園からの移行者の把握	ア)神戸聖生園と検討会議を実施。現状では移行者は無いとの状況確認を行う	○
情報共有	①ミーティングの開催、対応策の実施、振り返り	ア)職員会議にて各事業所の状況報告を行い、情報共有の機会とした イ)職制が終礼に参加し、支援の方向性の共有を行ったが後期に入り回数減少	○
人事交流	①人事交流計画の策定	ア)3事業所の人事交流実施。一般職員全員が他事業所と交流するまでには至らず	○

実行計画	2018 年度計画	実施状況	達成度
マニュアル整備	①マニュアルの見直しと PDCA サイクル確立	ア) 既存マニュアルの分類を実施 イ) はりま総合福祉評価センター川原氏が来所し当事業所の評価、指摘事項の報告、マニュアルの見直しについて講義を受講 (5 /15) ウ) 個別支援計画、モニタリング実施要項を新採用職員中心に説明 エ) サロン活動等食事提供に関するマニュアルの見直しと情報共有を行う オ) 接遇、障害理解についての素案を作成	○
神戸聖生園での調理体制の確立	①神戸聖生園との協議 ②調理室整備 ③神戸市への届出	① ア) 打ち合わせ実施 (11/7) ②、③ ア) 昨年度中止決定	①△ ②× ③×
西神戸教会員から法人の歴史を学ぶ	①教会員からの講話	ア) クリスマス会に参加し、事業所の設立の歴史拝聴	○
キリスト教福祉講座の開催	①竹内牧師の講義	ア) 「法人基本理念」についての講義を竹内牧師と検討するが、未実施	×
理念に基づく支援観の共有	①施設長・課長等の講話	ア) 職員会議にて施設長のメッセージ (4月) イ) 職員会議にて一般職員より基本理念の「霊的」の意味についてキリスト教福祉を交えて発表 (6月) ウ) 職員会議にて課長よりハンドブックを用いて基本理念について読み合わせ実施 (9月、12月、1月、2月)	○

## 2. 出来した事案

### (1) 利用者家族からの苦情及び虐待通報

昨年度から利用者家族より職員体制や職員の資質に関する苦情があり、理事長にも面談をお願いして対応してきました。今年度は、法人の顧問弁護士や神戸市にも相談し、第三者委員も交えて対応しましたが解決には至っていません。

2019年1月には、友が丘事業所の支援が心理的虐待に当たると当該家族から神戸市へ通報、同月29日には神戸市より実地調査があり、結果については現在精査中とのことです。また、第三者委員へも当該家族より同様の訴えがあり、全ご家族、全職員に対して第三者委員による書面アンケートと聞き取り調査が実施されました。

また、一連の事案に対応していた職員2名がメンタル不調となり休職に至りました。

2018年度 事業報告別表 2(設備整備実績)

No.	施設名	施設件数No.	件名	内容概略	整備完了時期	事業金額(千円)	財源			
							サービス区分	財源科目	備考(補助金・助成金)	補助助成金(千円)
1	恵生園	1	恵生園 2018年度改修工事	①屋上防水工事 ②浴室改修工事	2018年7月	32,482	生活介護 施設入所 短期入所	介護給付費収入		0
2	真生園	1	屋上防水改修(本館)・設計監理料	長期保全計画にて計画されている防水改修を複合塗膜防水にて行う	2018年9月	22,522	施設入所、生活介護	修繕積立資産取崩収入		0
3	真生園	2	ナースコール設備更新	経年劣化による不具合と修理保証がないため更新	2018年7月	11,437	施設入所、生活介護	修繕積立資産取崩収入		0
4	真生園	3	介護ロボットHAL・センサーマット導入費用	社会福祉充実計画施設・設備整備(先進福祉機器等の導入による利用者ケアの充実)を目的とした導入	2019年1月	2,436	施設入所	備品積立資産取崩収入		0
5	平生園	1	座位浴の更新	設置21年が経過し故障が多くなっている上、ご利用者が恐怖を感じない入浴機(リフトが高所に上がらないような)への整備	2019年2月	3,888	平生園(特別養護老人ホーム)	介護保険事業収入	厚生労働省 人材確保等支援助成金(介護福祉機器助成コース)	972
6	わらしべ	1	空調設備の修理	昨年12月末に空調が故障し、夏までに対応が必要のため	2018年6月	1,131	高齢者グループホーム	介護保険事業収入		0
7	神戸愛生園	1	神戸聖隷友が丘寮改修工事	屋根・外壁大規模改修、世帯寮リフォーム、世帯寮2室化、廊下貼り換え、光庭改修、光庭屋根撤去	2019年2月	37,278	神戸愛生園 支部	建設積立金取崩収入 その他積立資産取崩収入		
8	神戸愛生園	2	公用車キャラバン2台	送迎車両の入替	2018年10月	8,527	神戸愛生園 生活介護	介護給付費収入		0
9	神戸光生園	1	支援記録ソフト	「ほのぼの」支援記録ソフトを導入し、利用者に関する全ての記録を一元管理すると共に効率的に業務を行う。	2018年10月	3,122	神戸光生園 生活介護	修繕積立資産取崩収入		0
10	神戸明生園	1	旧館改修工事	旧館共用スペースの床材張替工事 全館消防設備入れ替え(自火報、感知器)	2019年2月	6,372	生活介護	減価償却積立金取崩し		0
11	神戸明生園	2	ICT設備導入	i-pad3台導入及び、それに伴う支援記録ソフトライセンス追加	2018年7月	555	生活介護	減価償却、修繕積立金取崩し		0
12	せいいいやさかだい	1	せいいいやさかだいシミズ事業所 天井補修工事	猛暑による天井部の熱気を軽減し冷房効果が上がるよう、天井部分にグラスウールを敷き込み断熱処理を施し、効果的な空調が得られるように改修を図った。	2018年9月	861	生活介護 就労継続支援B型	介護給付費収入 訓練等給付費収入		0